

学术交流レポート

—2014—

桐蔭横浜大学

学 長 挨 拶

桐蔭横浜大学

学長 小 島 武 司

「学術交流レポート2014」が刊行されて、学術教育活動などの進展が一覧できることになり、有意義なワンステップであると思います。

レポート刊行の意義は、いよいよ大きくなっています。研究と教育を同時に推進していくところに、大学の組織としての独自性、そして主体性があります。教育は、研究の裏打ちを得てこそ真の輝きをもち、若者の精神に深い感動を呼び起こすでしょう。自由な知的土俵である大学においては、好奇心に富む柔軟な若い心に生じる素朴な疑問が端緒となって、時代を超える新しい着想や理論が生み出されることも少なくないのです。大学において教育と研究が支えあって展開されることで、社会に対する大きな貢献ができるのだと思います。このことは、学問が大きく進歩し、その最先端が加速度的な伸びを示している今日、とりわけ重要であり、大学への期待に応え、大学の存在感を一段と大きいものとするに連なるでしょう。

何年か前のことですが、私はイタリアのボローニャ大学(世界最古の大学)創立900年記念シンポジウムに参加し、学術報告を行ったことがあります。世界最古の大学の足跡を追いながら、教育と研究のコラボレーションの中に宿る可能性の偉大さを感じることに入りました。近時、具体的ケースに焦点を合せた双方向的な対話型の授業が展開されていますが、ここに示されている知的リソースが頼りがいのあるものとなると思われま

す。「学術交流レポート2014」は、単年間の専任教員による学術研究と教育活動をまとめたものです。本学は、スポーツ健康政策学部が加わり、法学、医用工学の3学部体制となり、また、3つの学術大学院と1つの専門職大学院(法科大学院)がその上に配置されています。こうした進展のなかで、高等教育機関の総合的体制が整備されつつあると自負しております。そこから生まれるところの学術研究教育活動の成果を社会に発信する本レポートが刊行されることで、学の内外にわたり幅広い知的交流の機会が増大し、そのプロセスの中で、研究と教育の間のよき相乗作用が光彩を増すことになれば、まことに幸いです。

現在、本学において、地域社会と海外都市を結ぶデルタ型の仮想空間とその仕組みを動かそうとする目的が共有され、本学をいわばコミュニティのハブ組織の一つとして、研究と教育をグローバルに展開するエネルギーが盛り上がってきています。本レポートは、大学が一段と高い役割を果たしていくスプリングボードとなるものと確信しています。

学術交流レポート2014 目次

■	学長挨拶	1	
■	建学の精神	3	
■	大学組織図	4	
■	学長	5	
■	法学部		
	法律学科	6	～ 45
■	医用工学部		
	生命医工学科	46	～ 67
	臨床工学科	68	～ 103
■	スポーツ健康政策学部		
	スポーツ教育学科	104	～ 123
	スポーツテクノロジー学科	124	～ 135
	スポーツ健康政策学科	136	～ 156
■	工学研究科 医用工学専攻・情報・機械工学専攻	157	～ 167
■	スポーツ科学研究科	168	～ 173
■	法務研究科 法務専攻	174	～ 195
■	先端医用工学センター	196	～ 199
■	公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催	200	～ 210

建学の精神

社会連帯を基調とした、義務を実行する自由人たれ。

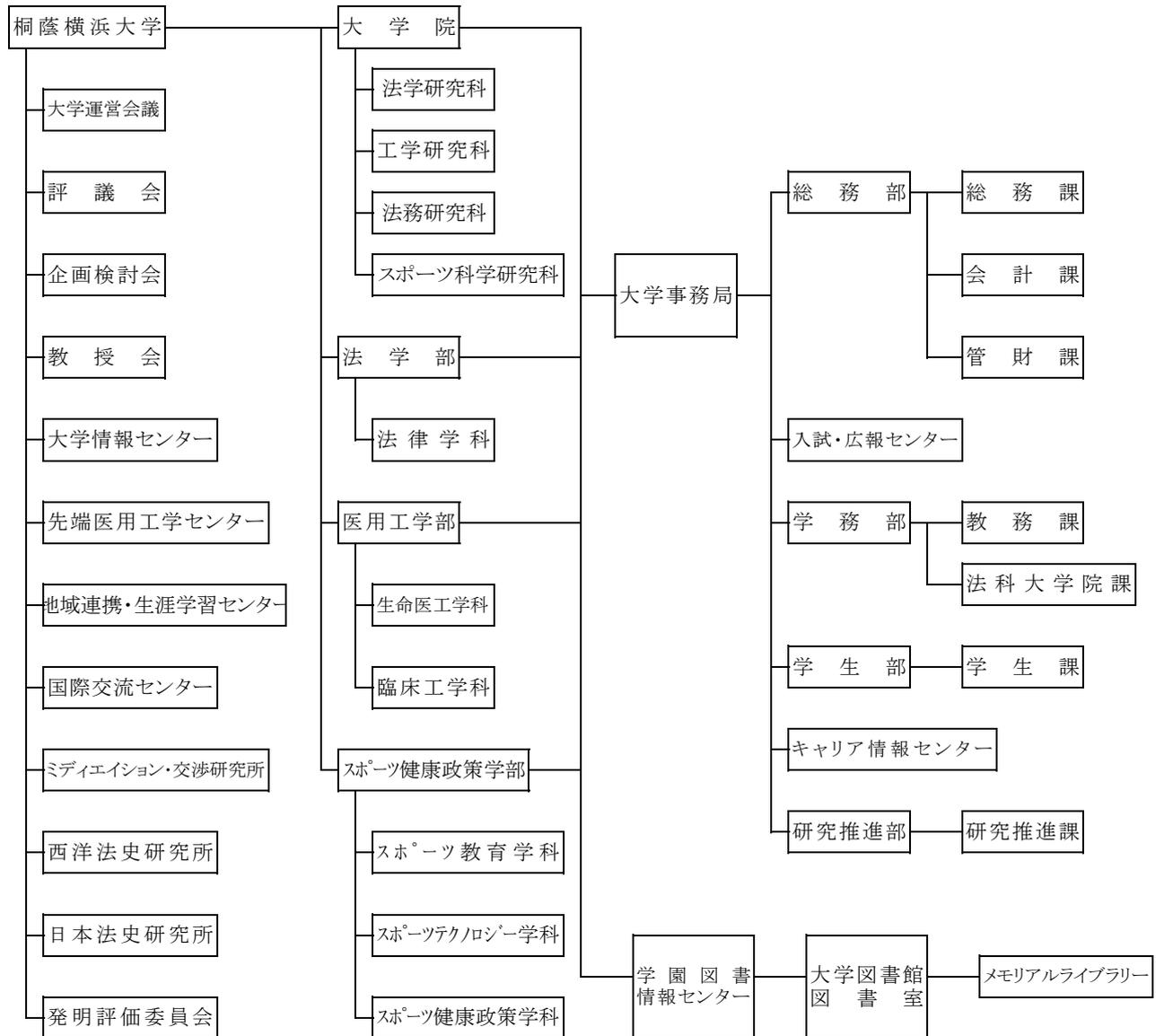
学問に徹し、求学の精神の持主たれ。

道義の精神を高揚し、誇り高き人格者たれ。

国を愛し、民族を愛する国民たれ。

自然を愛し、平和を愛する国際人たれ。

大学組織 2015.4.1現在



小島 武司 (こじま たけし) 学長



出生年 : 1936(昭和11)年
 在籍 : 2006(平成18)年9月～
 最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科
 学位 : 法学博士(中央大学)
 学位論文 : 訴訟制度改革の理論等
 専門分野 : 民事訴訟法、仲裁法、弁護士法
 前職 : 中央大学法学部教授、中央大学法科大学院教授
 学内役職等 : 学長
 留学 : ミシガン大学ロースクール(アメリカ)、フィレンツェ大学(イタリア)、ケルン大学(ドイツ)
 客員教授 : フランクフルト大学客員教授(ドイツ)、エクスマルセイユ大学客員教授(フランス)、コロンビア大学ロースクール(アメリカ・ADRセミナー担当)、南京大学客員教授(中国)
 資格 : 法曹資格
 司法試験合格(1958年)、その後司法修習(最高裁判所司法研修所)
 非常勤講師 : 早稲田大学(学部)、大阪市立大学(大学院)、名古屋大学(大学院)
 受賞・表彰 :

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会(元理事長)、仲裁ADR法学会(前理事長)、日本司法アクセス学会、日米法学会(元評議員)、法社会学会、学術会議同友会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2000年～現在	日本交渉学会理事
～現在	日本法律家協会理事
～現在	日本司法アクセス学会会長

法学部 (Faculty of Law)

法律学科 (Department of Law)

内ヶ崎 善英 (うちがさき よしひで) 教授



出生年 : 1958(昭和33)年
在籍 : 1993(平成5)年4月～
最終学歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得満期退学
学位 : 法学修士(中央大学)、Master of Laws (N.Y.U.)
学位論文 : 勧告的意見の機能について
専門分野 : 国際法
前職 : 日本学術振興会特別研究員
学内役職等 : 法律学専攻長 (2012～)
留学 : New York University, School of Law
資格 :
非常勤講師 : 中央大学法学部
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(2) 法学教育におけるアクティブラーニング導入の試み	2012年4月～	・法学部の導入教育におけるアクティブラーニングの導入を模索している。 ・具体的には、リーガルシミュレーションゲームと称して、現実に生じうる仮定の事件を設定し、学生にその事件の当事者となってもらい、当事者であればするであろう主張を展開し、相手方との交渉を行い、最終的には両当事者の妥協点を見つけ出していく。模擬裁判とは異なり、生の形のトラブルからスタートするため法的に再構成されていない紛争の中で話し合いによる解決を模索するところに特色がある。よって、法的知識は必要でなく、相手方の利益を踏まえたうえで両当事者の双方にとって利益をもたらすような解決策を探すために、相互理解を深めていくことが肝要となる。すなわち、対話能力が培われ、自身の主観的な観点から離れ、間主観的な視点からトラブルを考えていく俯瞰的理解力の強化につながっていくことが期待できる。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
前年度に引き続き、法の調停モデルに基づく国家間紛争解決の研究を行った。より質の高い紛争解決を可能にする制度の模索が主題である。法の調停モデルは、背景に確実な司法システムがあれば調停不調の場合に裁判になるため、調停プロセスにおいても公正性や公平性への配慮が働くが、司法システムのない社会では調停プロセス中の公平性や公正性が保障されない。国家間での調停モデルの難点はここにあり、なんらかの工夫でこの問題を克服する必要がある。結論的にいえば、調停モデルと裁判モデルは対立する概念ではなく、相互に補完し合う概念と考えるべきである。近年、国際社会では多数国間条約における裁判条項の発達などにより、裁判所の人的管轄および物的管轄の拡大傾向が見られる。このことが国際社会における法の調停モデルの機能範囲を拡大させていく可能性が高いとみることができる。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
国際法学会、世界法学会、国際法理論史研究会、国際法立法研究会

鹿兒嶋 繁雄 (かごしま しげお) 教授



出生年：1950(昭和25)年
在籍：1993(平成5)年4月～
最終学歴：立教大学大学院文学研究科
学位：文学修士
学位論文：ゴート語の現在分詞について
専門分野：ゲルマン語学
前職：成蹊大学工学部非常勤講師
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：中央大学法学部
受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
<p>ゴート語をもとに組み立てた、印欧語比較文法なるものの危うさは、自国に対する劣等感である。歴史的事実を無視して、ゲルマン語が古代文明の一員であるかのように隠蔽し、庶民を誤った方向に導いたナチの理論的な基礎を与えたことは、グリムをはじめ青年文法学派の重大な罪と言わねばならない。ゴート語の実態は、ローマ帝国の文化・文明にはるかに及ばない野蛮人のことばで、耳から入ったラテン語・ギリシア語を自分たちのことばに組み入れる過程を見ることができる。ドイツ語・英語の語源辞典は、印欧語比較文法を前提に研究している。このことによって、語源の解明は現代語とまったく見当違いな方向に向かっている。今後は、インターネット上で、研究成果を公表する予定である。</p>					
(学術論文)					
ゴート語の語頭p-音について	単著	2014年6月15日	『桐蔭論叢』第30号	鹿兒嶋 繁雄	93-98頁
ゴート語の語頭g- 特にドイツ語 "Gasse" の出自について	単著	2014年12月15日	『桐蔭論叢』第31号	鹿兒嶋 繁雄	65-72頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本独文学会

笠原 毅彦 (かさらは たけひこ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程満期退学
 学位：法学修士(慶應義塾大学)
 学位論文：法判断権の所在
 専門分野：民事法、法情報学
 前職：常磐大学短期大学部講師
 学内役職等：学生部副部長(2014～)
 留学：ドイツ連邦共和国ザールラント大学(1984～1986, 1994～1995)
 資格：
 非常勤講師：国士舘大学大学院総合知的財産法学科, 大東文化大学法務研究科, 早稲田大学法学部

受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
https://nodata.jp/klabo/	2000年4月～現在	授業外での学習促進のための学生間, 学生・教員間の議論用オンライン会議室。
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/	2000年4月～現在	講義内容のWEB上での公開, 教材として呈示しながら講義を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
http://www.cc.toin.ac.jp/juri/fj01/ https://nodata.jp/klabo/?page_id=466	2000年4月～現在	講義教材及び講義資料をダウンロードサイト。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
デジタル・フォレンジック事典[新版]	共著	2014年4月	NPOデジタル・フォレンジック研究会	第6章第3節第4項, 第6章第3節第5項	
(総説・論説)					
「インターネットと通信の秘密」第2期研究会報告書	共著	2014年6月	電子書籍 http://www.canon-igs.org/research_papers/security/20140709_2625.html	「インターネットと通信の秘密」研究会	47-61頁
(学術論文)					
地域司法とIT裁判所	単著	2014年4月	判例時報2212号3頁		
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
通信の秘密 — 国別報告「ドイツ連邦共和国」	2014年5月	「インターネットと通信の秘密」第2期研究会(キャングローバル戦略研究所及び情報セキュリティ大学院大学林紘一郎教授共同研究グループ)			

数値で見る日本の裁判－技術者のための 裁判講座	2015年3月	IDF法務分科会	
数値で見る日本の裁判－技術者のための 裁判講座	2015年3月	「インターネットと通信の秘密」 調査グループ研究会	
○その他			
(その他特記事項)			
大学院生論文審査			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、比較法学会、慶應法学会、民事訴訟法学会、法とコンピュータ学会、日本経営実務法学会、情報ネットワーク法学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1985年 9月～現在	手続法研究所(慶應大学)理事
1999年 4月～現在	私立大学情報教育協会法律学教育FD/IT活用研究委員会アドバイザー
2002年 7月～現在	情報ネットワーク法学会設立発起人・役員
2004年10月～現在	私立大学情報教育協会産官学連携サイバーユニバーシティ構想推進会議委員
2006年 9月～現在	Japrico Club(キャンパスツール普及促進組織)運営委員
2008年4月～現在	名古屋大学法情報研究センター(JaLII)フェロー
2009年 3月～現在	農林水産省沖縄伊江村民泊プロジェクト専門家委員会委員
2013年11月～現在	人工知能学会法情報学国際ワークショッププログラム委員
2014年2月～現在	国立情報学研究所共同研究員

加藤 幸嗣 (かとう こうじ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
在籍：2004(平成16)年10月～
最終学歴：東京大学法学部
学位：法学士
学位論文：
専門分野：行政法、地方自治法、環境法
前職：参議院法制局参事、山口大学助教授、国土舘大学教授等

学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、日本行政学会、自治体学会、日本環境学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	行政経営フォーラム(PMFJ)等における行政関係者等との交流活動等

河合 幹雄 (かわい みきお) 教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：アメリカにおける被害者の権利運動
 専門分野：法社会学
 前職：京都大学法学部助手
 学内役職等：法学部長、法学研究科長(2012～)
 法学研究科法律学専攻長(2010・2011)
 留学：パリ第2大学博士課程
 資格：
 非常勤講師：一橋大学法科大学院・早稲田大学法学部
 受賞・表彰：第六回日本法社会学会奨励賞
 著書「安全神話崩壊のパラドックス」に対して
 日本法社会学会 第六回奨励賞 受賞(2005年5月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)刑務所参観	2008年2月22日 2010年3月9日 2012年2月22日 2014年3月19日	ゼミ生を引率して府中刑務所参観 ゼミ生を引率して横浜刑務所参観 ゼミ生を引率して千葉刑務所参観 ゼミ生を引率して川越少年刑務所参観
(2)ゼミ合宿	2010年9月3-4日 2011年9月4-5日 2012年8月30-31日 2013年9月1-2日 2014年9月12-13日	伊豆松崎(1泊2日) 熱海網代(1泊2日) 九十九里浜(1泊2日) 河口湖(1泊2日) 伊豆高原(1泊2日)

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
共著を4冊出版。「刑事施設視察委員」「裁判員制度」「暴力団」「児童ポルノ」がテーマであった。科学研究費助成事業 > 新学術領域研究(研究領域提案型)「刑罰と犯罪抑止 厳罰化と死刑の効果を信じる人々はどうすれば意見をかえるのか」研究期間 2011年度～2015年度(平成23年度～平成27年度)全国規模の本格的意識調査の結果分析を開始し、翌年度の学会報告を多数申し込んだ。南京師範大学とシンポジウムを開催し、「刑事罰と民事賠償」について報告した。人事院国家I種採用者初任者研修、警察庁の特別捜査幹部研修、矯正研修所において研修講師を務めた。捜査手法と社会変化について著書準備中。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「第11講 暴力団にかかわる正義と公正 -法社会的視点から-」『法の基層と展開 法学部教育の可能性』	共著	2014年4月15日	信山社	桐蔭法学研究会編	225～240頁
「刑事施設視察委員制度と市民の司法参加」『法の観察 法と社会の批判的再構築に向けて』	共著	2014年7月20日	法律文化社	和田仁孝・櫻村志郎・阿部昌樹・船越資晶編	115～133頁
「デュトゥルー事件と児童性愛者ネットワーク——幻想を生んだ背景と役割」『改正児童ポルノ禁止法を考える』	共著	2014年10月25日	日本評論社	園田寿・曾我部真裕編	115～120頁
「裁判員制度と市民の変容」『岩波講座 現代法の動態【5】法の変動の担い手』	共著	2014年10月25日	日本評論社	長谷部恭男・佐伯仁志・荒木尚志・道垣内弘人・大村敦志・亀本祥編	203～222頁

(学術論文)					
「悠長すぎる法制審議会、検察の外部コントロールの検討を」	単著	2014年5月17日	WEBRONZA		http://webronza.asahi.com/national/articles/201405120004.html
「死刑囚1割無実なら執行一旦停止は7割——治安の世論調査」	単著	2014年7月30日	WEBRONZA		http://webronza.asahi.com/national/articles/201407230002.html
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」	2014年6月10日	特別捜査幹部研修所94期生研修講義 警察大学校特別捜査幹部研修所			
「法社会学 犯罪統計と実態」	2014年11月7日	矯正研究所			
「大局的見地から犯罪の少ない日本を維持する 刑事政策における日本の伝統的手法」	2014年12月19日	特別捜査幹部研修所95期生研修講義 警察大学校特別捜査幹部研修所			
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
科学研究費補助金(日本学術振興会)	2011年4月～2016年3月	新学術領域 刑罰と犯罪防止 研究代表者			
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「インタビュー・「メディアやドラマで描かれる殺人事件に潜む”ウソっぽさ”の理由」	2014年4月18日	『サイゾー』・2014年5月号 144-145頁			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(21)―実は東大並みの”狭き門”「受刑者」とはいったい誰なのか?」	2014年5月18日	『サイゾー』・2014年6月号 114～115頁			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン②―実刑にはならないチノパンと道交法に見る”運転主体”という問題」	2014年5月19日	『サイゾー』・2014年5月号 116-117頁			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(22)―ハードなれども高級取り 警察という組織のカラクリ」	2014年6月18日	『サイゾー』・2014年7月号 116～117頁			
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン(23)―”冤罪”とはなんなのか? 物証至上主義に潜むワナ」	2014年7月18日	『サイゾー』・2014年8月号 126～127頁			

「「犯人検挙こそ重要」「大阪府警 過少計上 汚名返上焦り 独自方式」内」	2014年7月31日	産経新聞 2014年7月31日朝刊 社会 26
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (24)「裁判員制度導入で”得”をしたのは誰か?」	2014年8月18日	『サイゾー』・2014年9月号 102～103頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (25)「高1女子”首切り”事件の普遍性と更生可能性」	2014年9月18日	『サイゾー』・2014年10月号 94～95頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (26)「裁判員制度導入のウラにグローバル化と治安悪化が!？」	2014年10月18日	サイゾー・2014年11月号 100～101頁
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (27)「全国を行脚するプロの生業 ”窃盗犯” 1万人の実像」	2014年11月18日	サイゾー・2014年12月号 100～101頁
「「子供の送り迎え不要」は世界の例外 一欧米が太刀打ちできない日本の安全。その秘密は「更生」にあった」	2015年1月1日	『文藝春秋』・2015年 冬号
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (28)「京都毒婦事件発覚の裏にある警察 ”死因特定運動”」	2015年1月1日	『サイゾー』・2015年1月号
「法社会学者・河合幹雄の法痴国家ニッポン (29)「談合の”新しさ”から垣間見える犯罪の普遍性と特殊性」	2015年1月19日	『サイゾー』・2015年2月号

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本法社会学会、日本法哲学学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会、比較法史学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1999年1月～現在	法務省矯正局「矯正処遇に関する政策研究会」委員	
2005年5月～現在	日本法社会学会理事	
2005年10月～2014年10月	日本犯罪社会学会常任理事	
2009年4月1日～2014年	日本学術会議特任連携委員	
2010年7月7日～現在	EMA (モバイルコンテンツ審査・運用監視機構) 基準策定委員会委員	
2011年5月20日～現在	全国篤志面接委員連盟評議員	
2012年5月1日～現在に至る	日本学術振興会 博士課程教育リーディングプログラム委員会専門委員	
2013年4月9日～現在に至る	公益財団法人矯正協会業務執行役員候補者審議委員会委員	
2013年6月～現在に至る	日本被害者学会理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
河合隼雄財団を創設し評議員就任	2012年5月～現在	

竹内明世 (たけうち あきよ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：1998(平成10)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：金融機関の決済システムとその法的諸問題
 専門分野：商法、銀行取引法、民法
 前職：
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：明治学院大学法科大学院(2006年4月～9月)、横浜国立大学経済学部(2013年10月～2014年3月)、横浜国立大学経営学部(2014年4月～現在)

受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の知的関心を高める工夫 課外での模擬裁判劇指導 【模擬裁判劇】	2014年6月28日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「覚せい剤取締法違反被告事件(再犯)」 (「岩合光昭 写真展 ネコライオン」に因んで)
	2014年7月19日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「コンビニ窃盗被告事件」
	2014年9月20日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「危険予防設備請求事件」 (『原信太郎の世界 未来を担う若者たちへのメッセージ』原鉄道模型展」に因んで)
	2014年10月25日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「覚せい剤取締法違反被告事件(再犯)」
	2014年11月29日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「安楽死」殺人被告事件」 (「桐蔭科学展 ノーベル賞を受賞した日本人科学者」に因んで)
	2014年12月20日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「安楽死」殺人被告事件②」 (「『深海散歩にでかけよう！～神秘と驚異に満ちた世界～』に因んで)
	2015年1月24日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「安楽死」殺人被告事件③」
	2015年2月14日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「安楽死」殺人被告事件④」 (「TOIN ART COLLECTION 2015 桐蔭生作品展」に因んで)
	2015年3月7日	模擬裁判劇 メモリアルアカデミウム陪審法廷 「絵画窃盗等被告事件」

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
1.民法の特別法としての商法の意義。 2.課外での模擬裁判劇の実績をまとめ、教育上の効果等を分析する研究。 3.宗教法人と檀徒との法律関係の研究。判例の収集および分析。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「模擬裁判の公開による総合的法教育①～明世座☆模擬裁判劇の軌跡～」	共著	2014年6月	桐蔭論叢 第30号	竹内明世,伊藤泰寛,新井龍	99-107頁
○その他					
(その他特記事項)					
オープンキャンパスにおいて模擬裁判の指導をした。(2014年6月15日)					
桐蔭横浜大学第15回おもしろ理科教室に「なりきり裁判官を出展し、地域の子供たちと保護者の皆さんに、裁判を身近に感じてもらうこを目指した。(2014年8月21日)					
横浜市立十日市場中学校(3年15名)の大学見学会において模擬裁判の指導をした。(2014年9月30日)					
桐蔭学園中学校/中等教育学校オープンスクール『おしごとフェスタ』の「裁判官や弁護士になってみよう!」において模擬裁判の指導をした。(2014年10月11日)					
県立湘南台高等学校とのシチズンシップ教育に関する協定に基づく模擬裁判の評議指導に参加した。(2014年11月28日)					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本私法学会、金融法学会、日本交通法学会、法文化学会、科学技術社会論学会、臨床法学教育学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
東京都立大田桜台高等学校における模擬授業「志望理由書の書き方」(進路ガイダンス)	2015年3月17日	東京都立大田桜台高等学校

竹村 典良 (たけむら のりよし) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：刑事学的コープテーションの動因・諸相・帰趨(中央大学)
 専門分野：刑事政策、犯罪学、被害者学、刑事法
 前職：中央大学法学部兼任講師
 学内役職等：研究推進部副部長(2014～)
 留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2002年8月～2003年3月)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第3回菊田クリミノロジー賞(2002年1月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)双方向学生参加型授業の実践	2005年4月～現在	ゼミと講義形式の授業を融合し、質問応答形式の授業を展開(いわゆるソクラテスマソッドを実践)することによって、学生の授業参加意欲ならびに問題意識を高めている。
(2)授業外における学習促進のための刑事関係施設参観	1993年～現在	刑事政策の実務について資料をもとに学習した上で、刑事施設等を参観し、実務家との間で質疑応答を行い、現状と問題点を学んでいる(横浜刑務所、府中刑務所、網走刑務所、美祢社会復帰促進センター、島根あさひ社会復帰促進センター、久里浜少年院、東京少年鑑別所、横浜少年鑑別所、旭川保護観察所沼田就業支援センター)。また、旧施設を移築した監獄博物館を見学し、刑務所をはじめとする刑事施設の歴史を学んでいる(博物館網走監獄、月形権戸博物館、旧釧路集治監)。
(3)ゼミ論文集の編纂	2005年～現在	ゼミにおけるグループ研究、個別研究の集大成として、毎年度末にゼミ論文集『犯罪と社会正義』を編纂している。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
・複雑系犯罪学 ・ポストモダン犯罪学 ・刑事科学に関するエピステモロジーとパラダイム ・犯罪・刑罰と社会構造の関係 ・社会統制の形態・位相転化 ・国際(組織)犯罪 ・エコ犯罪とグリーン犯罪学					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
法の基層と展開～法学部教育の可能性	共著	2014年4月	信山社	桐蔭法学研究会	205-224頁
(学術論文)					
「グリーン犯罪学研究序説：環境犯罪・エコ犯罪とその統制の「複雑性」と「不確実性」」	単著	2014年5月	桐蔭法学 第20巻第2号	-	103-137頁
Is he Minamata Convention on Mercury feasible? Can the global mercury agreement lift health threats from live of millions world wide?	単著	2014年12月	桐蔭論叢 第31号		pp.73-82

Transnational Economic Crimes against Global Environment and Ecology: 'Janus-faced Greenwash' by Multinationals-States-Complex and its Butterfly Effects	単著	2015年1月	NCCD-in JAPAN 第50号		pp.21-41
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
"Butterfly Effects' triggered by Green Crimes? Honey Bee Loss, Fruitless Fall, and Catastrophe of Living Things"		Sept. 10-13, 2014	14th Annual Conference of European Criminology, Prague, Czech Republic		
"Radioactive Wastes Disposal into Deep Underground: Green Criminological Consideration of 'Intergenerational Environmentakl Crime'"		Nov. 19-22, 2014	70th Annual Meetinf of American Society of Criminology, San Francisco, California, U.S.A.		
○その他					
(海外出張)					
用件		出張期間	出張先		
第14回ヨーロッパ犯罪学会参加・研究発表、共同研究の打ち合せ		2014年9月	プラハ大学(チェコ)、テュービンゲン大学犯罪学研究所(ドイツ)		
第66回アメリカ犯罪学会参加・研究発表、共同研究の打ち合せ		2014年11月	サンフランシスコ・マリオット・ホテル(アメリカ合衆国)		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
Société Internationale de Criminologie、European Society of Criminology、American Society of Criminology、Australian and New Zealand Society of Criminology、Academy of Criminal Justice Sciences. 日本刑法学会、日本犯罪社会学会、日本被害者学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年1月～現在	Asian Journal of Criminology 編集委員

出口 雄一 (でぐち ゆういち) 教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2004(平成18)年4月～
 最終学歴：慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専攻後期博士課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：占領期司法改革における法継受とA・C・オペラー
 専門分野：日本法制史、日本近現代史、法文化論
 前職：桐蔭横浜大学法学部非常勤講師
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：慶應義塾大学法学部
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
第二次世界大戦後の占領期におけるアメリカ法継受 GHQ法律スタッフの法思想の分析 近現代日本における司法制度の変遷 戦時・戦後初期の日本における法及び法学のあり方の実証研究					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『法の基層と展開——法学部教育の可能性——』 第16講「六法的思考——法学部教育の歴史から——」	共著	2014年4月15日	信山社	桐蔭法学研究会編	335-355頁
『実務大系 現代の刑事弁護3 刑事弁護の歴史と展望』 第1章「刑事弁護の誕生」	共著	2014年9月25日	第一法規	後藤昭・高野隆・岡慎一編	3-23頁
(学術論文)					
「統制・道義・違法性——小野清一郎の「日本法理」をめぐって」	単著	2014年5月25日	『桐蔭法学』20巻2号	-	139-169頁
「ある法務事務官の戦後史——坪井忠氏の履歴書類から」	単著	2014年7月20日	『民事研修』687号	-	72-82頁
「『日本法理』と『国家科学』——近衛新体制期の法学者・法律家たち」	単著	2015年3月30日	『法史学研究会会報』18号	-	21-43頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
ミニシンポジウム「戦時・戦後における『経済法』——比較法的観点から:趣旨説明」	2014年6月1日	法制史学会第66回総会(専修大学)	小石川裕介、松本尚子、伊藤孝夫、泉水文雄、永江雅和		
「戦後法学」の形成過程——1950年代の社会状況との関係から	2014年11月8日	2014年度第4回占領・戦後史研究会(二松学舎大学)			
「日本法理」における「固有」と「普遍」——小野清一郎の言説を中心として	2014年11月22日	第17回法文化学会研究大会(北陸大学)			

○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金基盤研究(C): 占領管理体制下における「戦後法学」の形成過程に関する法史的観点からの再検討	2013年4月～2016年3月	日本学術振興会

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
法制史学会、法文化学会、日本法社会学会、日本法哲学会、同時代史学会、占領・戦後史研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年12月～現在	占領・戦後史研究会事務局
2011年12月～現在	占領・戦後史研究会代表
2013年4月～現在	法文化学会理事
2014年4月～現在	法文化学会事務局

西 謙 二 (にし けんじ) 教授



出生年：1948(昭和23)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：一橋大学法学部
 学位：
 学位論文：
 専門分野：民法学、民事訴訟学、倒産法学
 前職：福岡高等裁判所判事
 学内役職等：
 留学：シュツットガルト地方裁判所等・ドイツ連邦共和国
 (1983年11月)
 資格：弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

○著書・論文等					
(総説・論説)					
「調査官判例解説」(平成4年7月17日第二小法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	305頁
「調査官判例解説」(平成4年12月5日第三法廷判決)	単著	1992年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	552頁
「調査官判例解説」(平成5年1月19日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	1頁
「調査官判例解説」(平成5年3月16日第三小法廷判決)	単著	1993年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	433頁
「調査官判例解説」(平成6年2月8日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	163頁
「調査官判例解説」(平成6年3月22日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	264頁
「調査官判例解説」(平成6年4月26日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	334頁
「調査官判例解説」(平成6年10月25日第三小法廷判決)	単著	1994年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	521頁
「調査官判例解説」(平成7年2月21日第三小法廷判決)	単著	1995年	最高裁判所判例解説 民事篇	-	85頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
ミニ・シンポジウム「弁論兼和解」	1990年	民事訴訟法学会(香川大学)	上原敏夫、小山稔、西謙二		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会

Ⅳ法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
1990年4月～1995年3月	最高裁判所調査官(民事系)
2002年4月～2003年3月	東京高等裁判所判事(民事系)
2003年4月～2008年3月	東京地方裁判所判事(民事系)
2010年1月～2013年6月	福岡高等裁判所判事(民事系)

原 千砂子 (はら ちさこ) 教授



出生年 : 1955(昭和30)年
 在籍 : 1993(平成5)年4月～
 最終学歴 : 国際基督教大学大学院比較文化研究科博士後期課程
 学位 : 法学修士
 学位論文 :
 専門分野 : 政治思想史
 前職 : 長崎大学商科短期大学部助教授
 学内役職等 : 入試広報副センター長(2013～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語の多読指導	2005年4月～現在	平易なgraded readingsを用いて、短時間に多量の英語をインプットすることにより、英語理解力の向上を狙った学習方法を、授業内に導入している。
(2)「日米法文化比較」の講義を英語で実施	2010年4月～現在	日本との比較に基づいてアメリカの社会・歴史と法との関わりを英語で講義。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)「英語基礎 1」	2009年3月 2010年3月 改訂	英語A-1, A-2の授業で使用するために作成。音声指導の重視と分かりやすい文法指導を特色とする。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)新規科目「ジェンダー論」を担当	2009年9月～現在	社会学、歴史学、心理学、生物学、政治学等の知見を広く用いながら、人間社会のジェンダー的構成についての理解を深めるための授業。学説史の説明に留まることなく、学生一人ひとりのジェンダー規範を問い直すことを目指し、学生の高い評価を得ている。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
ジェンダー研究分野においては、ジェンダー意識の社会的形成について、学生に対する意識調査を材料として研究を行った。
○その他
(その他特記事項)
法学研究科修士論文審査

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
アメリカ学会、日本政治学会、政治思想学会、初期アメリカ学会

ペマ・ギャルポ (ペま・ぎやるぽ) 教授



出生年 : 1953(昭和28)年
 在籍 : 2004(平成16)年4月～
 最終学歴 : モンゴル国立大学
 学位 : 政治学博士
 学位論文 : 中国とチベットの国際関係
 専門分野 : 国際政治
 前職 : ダライ・ラマ法王アジア・太平洋地区担当初代代表(1980～1990)
 岐阜女子大学 客員教授(1990～1996)
 岐阜女子大学 教授(1996～2004.3)
 拓殖大学海外事情研究所客員教授(1997～)
 拓殖大学海外事情研究所研究員・講師(1982～1997)
 学内役職等 : 国際交流センター長(2012～)
 国際交流センター長(～2011)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 1995年11月 第32回翻訳出版文化賞
 1998年2月 ベストテューター賞
 2009年7月 モンゴル国友好勲章受章
 その他 : チベット文化研究所名誉所長
 岐阜女子大学名誉教授

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略			
台頭するアジアの新興国中国、インドと日本を軸に、アジアの安全保障について研究調査し、日本の視察団とインドへ同行した。インド政府の大臣たちや官僚、財界のトップを紹介した。			
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「チベットの現状」	2014年4月17日	逗子ロータリークラブ	逗子カンティーナ
「モンゴルの過去から今、そして未来へ」	2014年4月19日	日本モンゴル政治・経済・文化交流会	国立オリンピック記念青少年センター国際交流棟第一ミーティングルーム
「中国 “日本侵略工作”の脅威について」	2014年5月3日	駿河まほろばの会	富士商工会議所 大会議室
「中国の現状について」	2014年5月7日	アジア教育福祉財団	同財団会議室
「日本を取り巻く国際環境」	2014年5月10日	東甲会	立川グランドホテル
「グローバル人材について」	2014年5月21日	勝共連合青年部	TPK会議室
「日本を取り巻くアジアの情勢」	2014年5月23日	伊勢新聞	伊勢都ホテル
	2014年6月4日	天安門事件25周年決起集会	
	2014年6月10日	OISCA名古屋	

	2014年6月18日	大日本生産党	
	2014年7月31日	志友会	
	2014年8月17日	霊友会岡山支部	
	2014年9月23日	国際青年平和会議	
	2014年9月28日	志学決起大会	
	2014年10月6日	OISCA	
	2014年10月10日	防衛省	
「世界に誇る日本の国柄」	2014年10月11日	霊友会第八支部日本再生研究会	霊友会第八支部青年会館ホール
	2014年10月17日	ライオンズクラブ	
	2014年10月18日	アジア自由民主連帯協議会 福岡大会	
	2014年10月29日	志友会	
	2014年11月25日	モンゴルとブータンのタベ	熊本
ユースリーダーシップ・シンポジウム 「新時代を担うグローバル人材の育成」	2014年12月14日	世界平和青年連合	国立オリンピック記念青少年総合センター
「日印中の関係とアジア」	2014年12月15日	中部日本自動車専門大学校	
「戦後日本におけるチベット人の流れ」	2015年1月31日	チベット文化研究所 新年記念講演	一三町会館
「アジアの中の日本とインド・中国」	2015年2月9日	新日鉄勉強会	新日鉄会議室
「日本、インド、中国とアジア」	2015年3月25日	山王ロータリークラブ卓話	キャピトル東急ホテル
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
北極星勲章	2014年9月19日	モンゴル国政府	ペマ ギャルポ
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
FECインド親善視察団顧問として同行	2014年12月2日～10日	外務省、在外公館及び在日インド大使館と民間外交推進協会との仲介。インド要人との橋渡し	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「中国の船舶差し押さえ問題」	2014年4月27日	世界日報 ビューポイント	
「その覇権主義的暴走中国① チベット分割支配と暴力行政、監視、言論、自由を奪う」	2014年5月20日	夕刊フジ	
「その覇権主義的暴走中国② 沖縄を第二のチベットに」	2014年5月21日	夕刊フジ	
「その覇権主義的暴走中国③ 諸悪の根源中華思想」	2014年5月22日	夕刊フジ	

「その覇権主義的暴走中国④ 祖国のために立ち上がる学生、民衆」	2014年5月23日	夕刊フジ
「その覇権主義的暴走中国⑤ 目論む安倍首相の孤立、弱体化」	2014年5月24日	夕刊フジ
「モディ新首相に期待する」	2014年5月26日	世界日報 ビューポイント
「祖国を愛せなくした日本人」	2014年6月29日	世界日報 ビューポイント
「自分を見失わず、他者を尊敬し、奉仕の精神をもって世界に貢献せよ」講演録	2014年7月1日発行	NEW YOUTH 7月号
「平和を守る安倍政権の選択」	2014年7月29日	世界日報 ビューポイント
ベマ先生のブータン王国の幸せ通信第一回「国民総幸福量(GNH)のはじまり」	2014年8月	のさる新聞 8月吉日号
慰安婦問題朝日の大罪「世界から軽蔑される見苦しさ」	2014年8月26日	夕刊フジ
「成功したモディ印首相訪日」	2014年9月25日	世界日報 ビューポイント
「中国の法制重視を見誤るな」	2014年10月30日	世界日報 ビューポイント
特集中国覇権主義とアジア「日本よアジアに夢を描け！」	2014年11月1日発行	夢・アジア創刊号 集広舎
「チベット問題の国際性と日本との関連性」	2014年11月25日	オピニオン誌 「伝統と革新」17号たちばな出版
「共産党増進の問題に対処を」	2014年12月25日	世界日報 ビューポイント
「理想通らぬ弱肉強食の世界」	2015年1月25日	世界日報 ビューポイント
「中国の野望① 国防費急増 共産独裁国家の脅威」	2015年2月3日	夕刊フジ
「中国の野望② ‘日本の名誉を傷つける’国家プロジェクト」	2015年2月4日	夕刊フジ
「中国の野望③ 立ち上がるアジア諸国」	2015年2月5日	夕刊フジ
「中国の野望④ 中国への危機意識共有・日印米豪で習に包囲網」	2015年2月7日	夕刊フジ
「中国の野望⑤ 毛沢東から続く宣伝工作、野望を砕く日本人よ立て」	2015年2月8日	夕刊フジ
「リー・クアンユー氏に思う」	2015年3月30日	世界日報 ビューポイント
「アジアの中の日本一日印中関係をふまえて」	2015年3月31日	拓植大学発行 世界に中の日本34号 P555～576
(その他特記事項)		
2014年4月8日 南アジア研究会 勉強会 出席 国際文化会館		
2014年4月11日 GIFT勉強会 出席 私学会館		
2014年4月14日 国家基本問題研究会 勉強会 出席 都市センターホテル		
2014年4月16日 安養院主催勉強会 出席 目黒雅叙園		
2014年4月23日 前JC会頭らとランチミーティング 外国人特派員協会		
2014年4月29日 タン塾卒業式 レッサムフィリ		
2014年5月2日 夕刊フジ記者と連載について打ち合わせ		
2014年5月14日 安全保障危機管理学会 創立25周年パーティー挨拶 市谷グランドヒルズ		

2014年5月16日 GIFT勉強会 モデレーター	
2014年5月17日 P-TIME チベット文化研究所	
2014年10月20日 聖マウリツィオ・ラザロ騎士団 受勲式出席 明治記念館	
2015年 1月 9日 アジア自由民主連帯協議会 挨拶	
2015年 1月17日 モンゴル自由民主基金 発足勉強会 来賓挨拶	
2015年1月19日 桜チャンネル 収録	
2015年29日 インド大使表敬訪問 インド大使館	
2015年2月2日 月刊誌Will インタビュー	
2015年2月6日 渥美国際財団創立20周年パーティー	
2015年2月11日 モンゴル首相表敬訪問 ホテルオークラ	
" 国まもり演説大会 審査委員 よみうりホール	
2015年2月13日 民間外交推進協議会 インド訪問団解団式 挨拶 野村證券本社・東京倶楽部	
2015年2月14日 元日印協会専務理事インタビュー 外国人特派員協会	
2015年2月21日 第四回アジアの民主化を促進する東京集会 出席 日本青年館	
2015年2月25日 志友会勉強会 ホテルオークラ	
2015年2月26日 ジャパンインターカルチャー勉強会・記念パーティー出席	
2015年3月8日 日本ウイグル協会総会 日本ウイグル協会事務所	
2015年3月9日 文部大臣表敬訪問	
2015年3月9日 野呂田芳成元農水大臣 表敬訪問	
2015年3月13日 日本経営者同友会 下地会長 表敬訪問	
2015年3月15日 ネパール大使館外務次官歓迎会 官邸	
2015年3月17日 京都伝統工芸大学 理事長表敬訪問	
2015年3月20日 富士社会教育センター幹事会	
" 一般社団法人アートオブリビング インドフェスティバル 名誉会長として出席 国技館	
2015年3月21日 インド大使官邸パーティー 出席	
2015年3月25日 日本語学校連合会 荒木理事長 表敬訪問	
2015年3月27日 シンガポール大使館 弔問	
所属学会・機関・団体等の名称	
アジア政経学会、国際政治学会、南アジア学会チベット学会、国際コミュニケーション学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2001年1月～	NPO法人チベット教育福祉基金理事長
1999年4月～	(社)国際青年文化交流協会 理事
2005年5月～	(財)OISCA評議員
1994年～	NPO法人日印親善協会(JIGA)理事 Japan India Goodwill Association

升 信 夫 (ます のぶお) 教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：1997(平成9)年4月～
最終学歴：東京大学大学院法学政治学研究科博士課程
学位：法学博士
学位論文：J. S. ミルの自由主義思想
専門分野：欧州政治思想史
前職：立教大学文学部非常勤講師
学内役職等：学科長、学務部副部長 (2012～)
留学：ドイツ・チュービンゲン大学(2000年9月～2001年3月)
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
1. 「修養」の概念史について---清沢満之 前年から大学教育のあり方を思想史的に検討する作業を行ってきた。その過程で、「修養」という言葉の概念史に着目する必要性に迫られ、そうした観点から先ず清沢満之の思想を検討した。					
2. 「修養」の概念史について---新渡戸稲造 新渡戸稲造は、大正期に日本の教養教育をリードした一人である。新渡戸には『修養』という書物があり、その修養思想を検討した。					
上記を踏まえ、清沢満之、新渡戸稲造、ソクラテスを比較し、修養思想と実践という観点から、論考をまとめた。(『桐蔭法学20巻1号』) その後、修養思想の展開について、更に掘り下げて検討する必要性を強く感じ、作業を進め、その初期的なノートとして、『桐蔭法学20巻2号』に研究ノートを掲載した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『法の基層と展開 法学部教育の可能性』	共著	2014年4月15日	信山社	桐蔭法学研究会	261-281頁
(学術論文)					
「修養、教養、paideia:清沢満之、新渡戸稲造、ソクラテス」	単著	2014年9月30日	桐蔭法学 第20巻1号		1-46頁
「明治期修養を巡る一考察」	単著	2015年3月	桐蔭法学 第20巻2号		13-36頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本政治学会

村上 秀明 (むらかみ ひであき) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1993(平成5)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育科学研究科運動生化学専攻修了
 学位：体育学修士、農学修士
 学位論文：運動誘発性喘息(EIA)の成因について—chemical mediatorを中心として—(体育学)
 光合成細菌の肥料化について(農学)
 専門分野：公衆衛生学、健康科学、生理学、体育学
 前職：東京工業大学工学部助手,国立身体障害者リハビリテーション研究所研究員,国立小児病院アレルギー科研究員
 学内役職等：生涯学習センター長 (2014～)
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1) 体育実技(担当種目:バドミントン) 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ分析による指導 ・パソコンの動作分析ソフトを用いた問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・毎回、グループ毎の指導案作成 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、最後に教員用アンケートに答え、教員相互の評価をする	2005年4月～現在	健康体力づくり・生活文化としてのスポーツについて理解を深め、自ら進んで楽しむための理論と実践を経験させている。特に、ラケット種目のバドミントンは個人技術の習得が重要となり、ゲーム(シングルス・ダブルス)を楽しむ為に中級者と初級者の交流もはかり、グループ学習を通して、集団と個人の有り方について再確認させている。内容は、基礎練習と試合を中心に授業の楽しみ方を適宜グループを変え、考えさせる。又、安全管理やマナーを習得させ、ビデオ解析による技術向上や万歩計による自己の健康・体力づくりの検討も行っている。特に、毎時間、反省・感想・意見を全員に書かせ、次回にフィードバックさせている。又、オリジナルのドリル練習方法や対戦表作成等を行い、常に授業に工夫を持たせている。
(2) 健康の科学 1) 優れた教育方法の実践例 ・オリジナルの出席カード(授業毎に内容・問題点の確認ができる) ・グループ学習によるオリジナルノート作成など 2) マルチメディア機器を活用した授業方法 ・ビデオ・CD・DVDによる授業 ・グループ学習での個人のデータやまとめをパソコンの入力し、分析ソフトを用いて、問題点の確認と指導 3) 学生の授業以外における学習促進のための取り組み ・3回に1回、メールにてレポート・資料の提出 4) 学生や教員同士での授業評価等 ・半期毎に最初と最後にオリジナルの授業アンケート(学生用) ・教員は、最初に到達目標に対しての概要を提出し、オリジナルの自己点検アンケートに答え、評価をする。	2005年4月～現在	この授業では、自ら監修した教科書「健康科学」を中心に「健康とは何か」について、オリジナルの資料やパワーポイントを用い授業を行っている。復習をかねての小テストによる確認、オリジナルの出席カード提出による学生とのコミュニケーションを図り、双方向の授業を行い、授業の充実を図っている。後半は、グループ学習による学生同士の活性化を図っている。

2.作成した教科書、教材、参考書		
教科書 (1)健康科学と運動実践 学術図書出版社(共著・監修)	2005年4月～	実技と理論の両方の授業で使用できるよう工夫した教科書で、健康と運動に関する新しい知見を取り入れている。
(2)健康科学(改訂版) 道和書院(共著・監修)	2005年4月～	「健康とは何か」について、多角的に考察を行っている教科書である。主な項目は、生命と健康・健康生活の実践・健康指標と生活習慣病の予防・現代生活とメンタルヘルス・人体の構造と機能・トレーニング処方・環境への適応・運動スポーツへの心理的適応・検査値の読み方・性の科学・健康と寿命で健康についてトータル的にとらえた新しい教科書となっている。
教材 (3)プロジェクト・ノート(ゼミ用) (単著)学内印刷による非売品	2005年4月～	学生生活を充実させるためのゼミノートで、自発的实践をサポートするための資料やマニュアルが中心。具体的な事例が多く記載されていて、主な内容は生活表の記入・自己分析・ストレス対処法・行動療法(学習・生活習慣など)等である。尚、毎年改訂し、工夫している。

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本学校保健学会、日本公衆衛生学会、日本発育発達学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本体育学会、日本肥満学会、日本陸上競技学会、日本ゴルフ学会

森 保 憲 (もり やすのり) 教授



出 生 年 : 1961(昭和36)年
在 籍 : 2003(平成15)年4月～
最 終 学 歴 : 中央大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学 位 : 法学修士
学 位 論 文 : フランス第5共和制における「違憲審査制」
専 門 分 野 : 憲法
前 職 : 青森中央学院大学経営法学部専任講師
学 内 役 職 等 :
留 学 : ドイツ チュービンゲン大学(2008年9月～2009年3月)
資 格 :
非 常 勤 講 師 :
受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本公法学会、法文化学会、青森法学会、全国憲法研究会、憲法理論研究会、ドイツ憲法判例研究会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～	ドイツ憲法判例研究会運営委員

谷田部 玲 生 (やたべ れいお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程教育研究科教育専攻社会科
 コース修了
 学位：教育学修士(筑波大学)
 学位論文：
 専門分野：教科教育学(社会科教育・公民教育)
 前職：国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部
 総括研究官
 学内役職等
 留学：
 資格：中学校教諭一級普通免許状(社会)、高等学校教諭一級
 普通免許状(社会)
 非常勤講師：東京学芸大学
 受賞・表彰：日本教育研究連合会表彰(2010年12月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
「小学生の社会」(日本文教出版)	2011年4月より供給	
「中学社会」(日本文教出版)	2016年4月より供給	
「高等学校 現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 新現代社会」(第一学習社)	2013年4月より供給	執筆者代表
「高等学校 政治・経済」(第一学習社)	2013年4月より供給	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本公民教育学会、日本NIE学会、中等社会科教育学会、社会系教科教育学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
1998年4月～現在	日本社会科教育学会幹事	
2000年4月～現在	日本社会科教育学会評議員	
2002年6月～現在	全国高等学校NIE研究会顧問	
2005年4月～現在	全国社会科教育学会理事	
2012年4月～現在	日本公民教育学会副会長	
2014年4月～現在	中等社会科教育学会理事	
2014年4月～現在	日本NIE学会副会長	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
品川区教育研究会社会科部会講師	2011年4月～現在	品川区教育委員会
金融経済教育を推進する研究会委員	2013年4月～現在	日本証券業協会 金融・証券教育支援センター
教科書研究センター調査研究企画委員会委員	2014年4月～現在	公益財団法人教科書研究センター

山口 裕博 (やまぐち やすひろ) 教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程民事法専攻
 学位：博士(法学)
 学位論文：芸術と法－英米法を中心とする学際的研究－
 専門分野：英米法、民法
 前職：女子美術大学芸術学部助教授
 学内役職等：
 留学：ウィスコンシン大学ロースクール客員研究員(アメリカ合衆国)
 資格：
 非常勤講師：国立音楽大学音楽学部、女子美術大学芸術学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目における受講生の理解を深め、知識を定着させるための授業の実践		講義科目の授業において、双方向型の授業を展開させ、受講生の理解度を深めるため、毎時間ごとに授業内容を確認する小テストを実施し、次の授業時に解説をすることで知識を定着させるとともに、授業内容に連続性を持たせる工夫を行った。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
比較契約法の領域においては、イギリス契約法における契約解釈の新たな展開、取り分け黙示的契約条項法理を中心とする膨大な判例と学説の展開を辿り、その整理を踏まえて、新たに提唱されている契約法理論との繋がりを解明するための基礎研究を行った。また、芸術法領域においては、「法の視覚化における視覚的法学教育の可能性」を発表するとともに、昨年度出版した自著『芸術法の基礎』を音楽及び美術を専攻する学生を対象とする実際の授業でテキストに使用することを通じて、法の素人ではあるが、将来の専門家として活躍する際に必須な法的知識を涵養する法学教育上の各種の工夫を試み、法学部の授業でも応用可能な各種の知見を得た。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「法の視覚化における視覚的法学教育の可能性」	単著	2014年4月15日	『法の基層と展開－法学部教育の可能性』 信山社	桐蔭法学研究会	289－312頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
比較法学会、日米法学会、信託法学会、日本EU学会、日本私法学会

相 良 憲 昭 (さがら のりあき) 特任教授



出 生 年 : 1943(昭和18)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学文学部仏語仏文学科卒業
 学 位 : 文学士
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 国際理解教育、文化論
 前 職 : 京都ノートルダム女子大学学長
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : フランス国パリ大学文学部(1967.9～1968.6)
 資 格 : 国家公務員試験上級職(行政職)合格
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本国際理解教育学会、日本比較教育学会、日本フランス教育学会、世界法学会、日本平和学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年10月～現在	(財)国際連合大学協力会評議員
2005年4月～現在	(財)日本高等教育評価機構評価員
2005年～現在	(公財)公文国際奨学財団評議員
2010年～現在	(学)井の頭学園藤村女子中高等学校理事
2011年5月～現在	(NPO)目黒ユネスコ協会会長
2013年7月～現在	(公財)高等教育評価機構理事
2015年～現在	(学)東京純心学園理事
2015年6月～現在	(公社)日本ユネスコ協会連盟理事
	(公財)大学基準協会外部評価委員

秋田 知子 (あきた ともこ) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：文書提出命令の改正と文書管理のあり方～特に企業法務部門における訴訟管理対策への指針として
 専門分野：民事法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)裁判法 I	2007年9月1日～	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(2)民事紛争処理法	2007年4月1日～2012年	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(3)消費者と法	2013年	初学者向けに穴埋め式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
(4)民事訴訟法	2014年～	初学者向けに○×形式の教材を作成し、授業ごとに配布し、知識の確認を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)英語A-1、A-2で使用した教材	2009年4月1日～2013年3月	初歩的な英文法テキストを大学生向けに作成した。
(2)英語A-1、A-2で使用した教材	2013年4月～	2009年～2013年まで使用していた本学大学生向けテキストを改訂し出版した。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
引き続き、弁護士の役割と倫理について研究を行った。 その他、平成25年の嫡出子と非嫡出子の法定相続分の規定について判例変更および制定法の改正があったことに伴い、過去の同種の事例がどのように処理されるかについて検討を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「法の基層と展開—法学部教育の可能性」	共著	2014年4月15日	信山社	編者:桐蔭法学研究会 共著者:小島武司、中野邦保、小島奈津子、勝亦啓文、原口伸夫、谷脇真渡、原千砂子、浅岡慶太、茂木洋平、麻妻和人、竹村典良、河合幹雄、ペマ・ギャルポ、升信夫、山城崇夫、山口裕博、小林学、出口雄一、韓寧	187頁-204頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本交渉学会、日本民事訴訟法学会

麻妻 和人 (あさづま かずひと) 准教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士前期課程修了
 学位：法学修士
 学位論文：捜査の規律に関する一考察 ―盗聴―
 専門分野：刑事訴訟法
 前職：桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
2013年度に引き続き、新たな制度と刑事裁判の基本構造との関係について検討を行った。刑事裁判の構造に関連する分析を行った文献にあたったほか、公判での弁護権についての検討を行った。中央大学刑事判例研究会への参加。比較法研究所米国刑事法研究会への参加および報告(Burt v. Titlow, 82 U.S.L.W. 4007(2013), Kansas v. Cheever, 571 U.S. __ (2013), についての研究報告)。判例評釈: Burt v. Titlow, 82 U.S.L.W. 4007(2013)中央大学比較法雑誌48巻3号掲載。刑法学会大会、被害者学会大会参加。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「国民の裁判への参加と公平・公正な裁判」	単著	2014年4月	『法の基層と展開 法学部教育の可能性』(信山社)2014年	桐蔭法学研究会	169頁～185頁
Burt v. Titlow, 82 U.S.L.W. 4007(2013)	単著	2014年12月	中央大学比較法雑誌48巻3号	-	364頁～375頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(研究報告) Burt v. Titlow, 82 U.S.L.W. 4007(2013)	2014年4月26日	米国刑事法研究会(中央大学市ヶ谷キャンパス)			
(研究報告) Kansas v. Cheever, 571 U.S. __ (2013)	2014年7月12日	米国刑事法研究会(中央大学市ヶ谷キャンパス)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会 日本被害者学会、警察政策学会

勝 亦 啓 文 (かつまた ひろふみ) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程単位取得退学
 学位：法学修士
 学位論文：フランス労働法上の非典型協定
 専門分野：労働法
 前職：東京国際大学非常勤講師、青山学院大学非常勤講師
 学内役職等：キャリア情報センター長(2014～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
地域商店街との連携活動	2011年～	相模大野北口商店会との連携による学生の地域活性化事業への参加
神奈川県警との連携活動	2013年～	神奈川県警本部生活安全総務課との連携による学生防犯活動への参加
2.作成した教科書、教材、参考書		
『社会保障法第4版』(有斐閣、2009)、レジュメ(社会保障法)	2009年～	
『労働法解体新書第3版』(法律文化社、2011)、レジュメ(労働法)	2011年～	
『アクチュアル労働法』(法律文化社、2014)、レジュメ(労働法)	2014年～	

II 研究活動

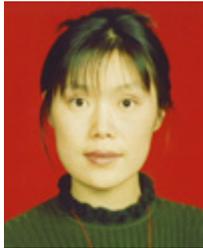
○2014年度の研究活動概略					
フランス労働法における企業交渉の促進の結果が法制にどのような影響を与えたのかに関する基礎的な調査研究をおこなった。近医の中小企業レベルでの労働組合の不存在に対する新たな立法政策の展開の動向も踏まえ、企業内の労働条件設定システムの変容を明らかにしていきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『アクチュアル労働法』	共著	2014年4月20日	法律文化社	毛塚勝利、米津孝司、脇田滋	225-240頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「労使関係法(労働組合・団体交渉・労働協約)、労使関係法(労働争議・不当労働行為・労働委員会)」	2014年10月7日～9日	多摩労働カレッジ基礎講座(東京都労働相談情報センター)	東京都国分寺労政会館		
雇用関係法(労働組合・不当労働行為・団体交渉・労働協約)	2014年12月2日	多摩労働カレッジ専門講座(東京都労働相談情報センター)	東京都国分寺労政会館		
「労働法基礎セミナーin八王子1～4」	2015年1月17日～2月18日	東京都労働相談情報センター	八王子労政会館		

平成26年度第3回アドバイザー研修	2015年2月23日	かながわ労働センター	神奈川県厚木合同庁舎
平成26年度第4回アドバイザー研修	2015年2月23日	かながわ労働センター	神奈川県平塚合同庁舎
「労働組合法入門と労働組合の役割」、「判例から学ぶ労働組合法」	2015年3月11日～13日	東京都労働相談情報センター	東京都国分寺労政会館
○その他			
(その他特記事項)			
「東京都『どうなる?こんなトラブル!』平成26年度版監修」(2014年10月31日)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本労働法学会、日独労働法協会

韓 寧 (かん ねい) 准教授



出生年：1974(昭和49)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学博士
 学位論文：中国における調停に関する理論及び実証的な検討—日・米法との比較の視点から
 専門分野：紛争処理法、比較法、中国法
 前職：北京法務局
 学内役職等：
 留学：群馬大学社会情報学研究科修士課程、中央大学法学研究科博士後期課程
 資格：中国弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略		
2014年度、引き続き台湾の調停制度について研究を行いました。また、中国民事訴訟法の改正について調査を行い、中国民事訴訟法学会大会及び東北アジア民事訴訟法大会に出席しました。そのほか、九州大学の研究グループに参加し、日中民事訴訟法の比較にも取り組んでおりました。		
○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
法学部三年次編入学学生募集	2014年4月24日～2014年4月27日	南京師範大学(中国)
中国民事訴訟法学会大会に参加すること	2014年11月20日～2014年11月24日	四川省・成都(中国)
第7回東アジア民事訴訟法国際シンポジウムに参加すること	2014年11月27日～11月30日	華東政法大学(中国)
インドネシア最高裁訪問	2015年3月27日～2015年3月29日	インドネシア最高裁
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
コラム「対話促進による協調的紛争解決に向けて—メディアエイションの展開」	2014年4月15日	桐蔭横浜大学法学部20周年記念『法の基層と展開—法学部教育の可能性—』357～359頁
海外文献紹介「古嘉諱・黄世芳・林怡芳・陳希佳・鄭曉如『民事調解理論與技巧:100個重要問題(台湾本土法学雜誌有限公司,2011)223pp.』」	2014年6月10日	仲裁とADR第9号44～47頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
仲裁ADR法学会、民事訴訟法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	中央大学日本比較法研究所嘱託研究員

小島 奈津子 (こじま なつこ) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院社会科学研究科法律学専攻満期中退
 学位：法学修士
 学位論文：
 専門分野：民法
 前職：
 学内役職等：
 留学資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ミニテスト(授業内)の実施	民法ⅠⅡにおいて	出席を促し、学習を促進するために、授業内テストを期末試験のほかに3回程度行っている。予告を前回授業でし、復習を促している。
契約法入門の配布	民法Ⅱにおいて	テスト前の勉強に役立てるため、学生に配布した。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
間接的出捐など三者間の出捐について 2013年度の論文の完結部分を寄稿した。寄付、保証、複数契約の問題について触れ、その後、平成25年に出た、保証に関する最高裁判例について現在研究している。保証人の時効援用に主債務者の時効に関する態度がどのように影響しているかという点を考えるものといえ、三者間の出捐に関する研究と接点をもつものになると思われる。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「契約の拘束力と限界——贈与を中心に」	単著	2014年4月15日	『法の基層と展開—法学部教育の可能性—』(信山社)		51—68頁
『「出捐の中間者」について——エルトマンの有償論を中心に——(二)」	単著	2014年10月25日	桐蔭法学第21巻第1号		47—81頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
研究会報告「エルトマンの有償論——第三者が反対給付の受領者となる場合」	2014年6月12日	ドイツ民法研究会(於学習院大学)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
私法学会

谷 脇 真 渡 (たにわき まさと) 准教授



出 生 年 : 1974(昭和49)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程
 学 位 : 法学修士
 学 位 論 文 : 抽象的事実の錯誤における「符合の実質化」とその限界
 専 門 分 野 : 刑法
 前 職 : 桐蔭横浜大学法科大学院教育助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 : 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
刑法 I・II	2007年～現在	講義用レジュメの作成および授業での活用 双方向授業の実践

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
1.故意と錯誤に関する研究として、法の基層と展開—法学部教育の可能性「第5講 『故意』の概念とその抽象化——方法の錯誤を素材に」 を執筆した。また、墮胎罪について検討し、桐蔭法学に発表した。 2. 引き続き、故意と錯誤およびこれに関連する問題点についても研究し、さらに発展させていきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
法の基層と展開—法学部教育の可能性「第5講 『故意』の概念とその抽象化——方法の錯誤を素材に」	共著	2014年4月	信山社	桐蔭法学研究会編	107-124頁
「墮胎罪についての若干の考察」	単著	2014年5月	桐蔭法学 第20巻第2号		1-21頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

土屋 信雄 (つちや のぶお) 准教授



出生年 : 1950(昭和25)年
在籍 : 1990(平成2)年4月～
最終学歴 : 東京大学大学院博士課程
学位 : 理学博士
学位論文 : 「Grow and Depth of Leaves」(博士論文)
専門分野 : 位相幾何学
前職 : 東京工業大学理学部助手
学内役職等 :
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略

葉層構造論について研究を進めた。

III 学会等および社会における主な活動

日本数学会

茂木 洋平 (もぎ ようへい) 専任講師



出生年：1981年10月
 在籍：2012年4月～
 最終学歴：東北大学大学院法学研究科後期博士課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：Affirmative Actionの正当化法理～アメリカの判例と学説を中心に～
 専門分野：憲法
 前職：熊本学園大学経済学部リーガル・エコノミクス学科助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：横浜市立大学(2013年4月～)
 受賞・表彰：東北大学男女共同参画奨励賞(沢柳賞)研究部門(2010.12)

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
AAの最新判例の分析を行い、その成果を日米法学会で発表、いくつかの媒体で公刊した(「Fisher判決判」アメリカ法2014-2「Fisher差戻審判批」桐蔭法学21巻2号(2015年3月))。また、憲法理論研究会で報告を行い(於早稲田大学2014年11月)、この成果は今後公刊される(『憲法理論叢書』23巻)。また、判例集への執筆も行い、この成果も近く公刊される(吉田仁美編『憲法判例クロニクル』)。博士論文の公刊作業も終了し、近く公刊される(『Affirmative Action正当化の法理論-アメリカ合衆国の判例と学説の検討を中心に-』商事法務(2015年11月))。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「Fisher v. University of Texas at Austin, 132 S. Ct. 1536 (2013) — 大学入試における人種使用は正しく理解された厳格審査の下で合憲性を審査されるべきとされた事例」	単著	2014年12月	アメリカ法2014-2		187-92頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「Fisher v. University of Texas at Austin, 132 S. Ct. 1536 (2013) — 大学入試における人種使用は正しく理解された厳格審査の下で合憲性を審査されるべきとされた事例」	2014年9月	日米法学会判例部会	東京大学		
Affirmative Actionと多様性の価値	2014年11月	憲法理論研究会	早稲田大学		
参議院議員選挙と定数不均衡	2015年2月	東北大学公法判例研究会	東北大学		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本公法学会 憲法理論研究会 全国憲法研究会 日米法学会 東北大学公法判例研究会

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2012年5月～2014年5月	憲法理論研究会事務局員(会計担当)

箭野章五郎(やの しょうごろう) 講師 (2015年度 新任教員)

出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2015年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程修了
 学位：博士(法学)
 学位論文：「刑事責任能力の研究」
 専門分野：刑事法
 前職：獨協大学法科大学院特任助教
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：明治学院大学法学部、中央大学法学部
 受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
(学術論文)					
「精神の障害にもとづく錯誤の場合の医療観察法における『対象行為該当性』判断」	単著	2014年8月20日	刑事法ジャーナル41号		70-78頁
「精神鑑定の拘束力について——最高裁平成二〇年四月二五日判決および平成二一年一月八日決定を契機として——」	単著	2015年3月16日	法学新報121巻11・12号斎藤信治先生古稀記念論文集		59-91頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
ワークショップ1 「故意と責任能力」オルガナイザー：安田拓人 (話題提供者として報告)	2014年5月18日	第92回日本刑法学会ワークショップ(同志社大学)	水留正流、大庭沙織		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会

浅岡 慶太 (あさおか けいた) 助教



出生年：1974(昭和49)年
在籍：2001(平成13)年4月～
最終学歴：桐蔭横浜大学大学院法学研究科博士後期課程満期退学
学位：法学修士
学位論文：若者から少年へ—ドイツ少年刑法の歴史的前提
専門分野：ヨーロッパ近代法史
前職：
学内役職等：
留学：チュービンゲン大学(ドイツ)(2004年7月～2005年3月)
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略

昨年と研究の軸は変わらない。しかし研究対象の的を絞り、プロイセン一般ラント法における少年に関わる法制や周辺事情について研究してきた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日独法学会
青森法学会

高瀬 武志(たかせ たけし) 助教 (2015年度 新任教員)

出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2014年(平成26)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院人間総合科学研究科体育学専攻博士前期課程修了
 学位論文：武士道思想における死生観に関する研究
 学位：修士(体育学)
 学位論文：武士道思想における死生観に関する研究
 専門分野：武道論・武道史・思想史・死生観・体育学・剣道
 前職：桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部助手
 学内役職等：剣道部監督
 留学：
 資格：中学校・高等学校教諭1種免許(保健体育)・剣道五段
 非常勤講師：東京都市大学
 受賞・表彰：神奈川県スポーツ優秀選手表彰・神奈川文化賞スポーツ賞・筑波大学体育専門学群長賞

II 研究活動

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
はまっ子ふれあいスクール剣道講師	2014年	はまっ子ふれあいスクール	あざみ野第二小学校
○その他 (表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
神奈川県教職員剣道選手権大会優勝	2014年4月	神奈川県学校剣道連盟	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会・身体運動文化会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
東日本大震災復興支援活動	2012年～	福島県立相馬高校剣道部や近隣剣道場との交流
はまっ子ふれあいスクール剣道体験教室	2014年～	あざみ野第二小学校において開催

医用工学部 (Faculty of Biomedical Engineering)

生命医工学科 (Department of Medical Technology)

小寺 洋 (こでら よう) 教授



出生年 : 1962(昭和37)年
在籍 : 1988(昭和63)年4月～
最終学歴 : 東京工業大学理学部
学位 : 理学博士
学位論文 : Chemical modification of proteins and biological substances with polyethylene glycols.
専門分野 : 生物化学、タンパク質工学
前職 :
学内役職等 : 研究推進部部长(2014～)
研究推進部副部长(～2011)
留資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学生の授業外による学習促進のための取組	2005年～現在	・毎回授業の最初15分程度を割り、前回の講義内容を中心に小テストを課している。・基礎学力が不十分な学生に関してはIndecafeへ誘導して個別指導を行わせている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)市販教科書からの引用により作成したプリント	2005年～現在	参考のため配布している。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略			
タンパク質の科学修飾による改変により、生体内での代謝酵素のデリバリーや免疫応答の改善を目指している。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Gene expression profile in spleen cells of (NZB x NZW)F1 mice with overt SLE activity”	2014年12月10日	第43回日本免疫学会総会・ 学術集会 京都	Hirosa Fusako, Obata Masaomi , Kodera Yo , Ohtsuji Mareki , Shirai Toshikazu, Hirose Sachiko , Nishimura Hiroyuki

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本生化学会、日本免疫学会

齋藤 潔 (さいとう きよし) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1990(平成2)年3月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程
 学位：理学博士、学術修士(環境)
 学位論文：Synthesis and Applications of Hemin Copolymer as Polymer Reagents
 専門分野：有機化学、高分子化学、機能性高分子化学、環境科学
 前職：通産省工業技術院製品科学研究所博士研究員(非常勤)
 学内役職等：学生部長(2010～2013)

留學：
 資格：(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員
 非常勤講師：
 受賞・表彰：松籟科学技術振興財団研究助成(1996)、日本環境教育学会浦野環境教育奨励金(2000)、第9回ココ・コーラ環境教育賞奨励賞(2002)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
学生実験、講義、演習の内容の関連付け、講義内への演示・参加型実験プログラムの組み込みの実施と改善	1993年度～現在	同一学期に開講される学生実験、講義、演習で担当科目を完全に内容を一致させるようにし、重要な概念が繰り返し学生に伝わるよう配慮した。レポート作製についても、実験時間や演習で、個別に指導するようにした。生命環境システム工学科の2年次の有機化学I,II,および、今年度生命医工、電子情報工学科2年次の有機化学I,II,において、学生の状況に合わせた実験プログラムを立ち上げ、講義時間に組み込んだ。
なんでも相談室、インディーカフェ 企画	1999年度～現在	オフィスアワーを学生に公開し、講義の補講、実験レポートの作成に関する個人相談を受け付けている。
高校生に対する課題研究指導	1996年度～現在	桐蔭高校、県内工業高校の生徒に対する課題研究の指導を行っているテーマは地球環境、導電性ポリマーなどである。
ブレインストーミングによる討論や、演習、発表などを講義の中で実施	2005年～現在	環境調和化学において国際的な環境問題を取り上げ、さらに、キャリア研究ではかだいについての小論文をまとめるための演習としてブレインストーミングを実施した地域の小学生に対する、環境教育プログラムの開発と継続的な実践を行っている。
課外学習としてプロジェクト研究の単位化とその指導	2002年～現在	各研究室でのテーマの認定と、日本化学会普及交流委員会の化学普及活動と連携して出前実験教室を実施し、現在までに学会より250枚の感謝状が学生に「授与された。
文部省サイエンス・ボランティア(現文部科学省)、(社)日本ネイチャーゲーム協会初級指導員、環境庁子どもエコクラブ(現環境省)の環境教育活動	1995年度～現在	日本化学会の化学普及行事の企画、実施を委員として行っている。
日本科学技術振興機構地域科学技術理解増進人材の活動推進・人材育成事業(文部科学省委託事業)	2003年～現在	助成金を受け、子どもわくわく自然教室、「これが身近な自然だ」、「昆虫飼育教室」、「スライムでエネルギー」「色をわける」などを千葉県、東京都、神奈川県の小学校、児童クラブ、保育園、児童館で実施した。2010年度で見学者を除いて、12620人の教室参加者となった。
(8) 公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012、2013、2014年	(7)の活動を継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

2.作成した教科書、教材、参考書		
(学内版教科書) 応用化学実験、機能化学工学実験、生命・環境システム実験テキスト電子情報工学科1,2年実験テキスト	1992年度～現在	2年次、3年次の有機化学系学生実験のテキストを作成し、配布している。
有機化学、反応有機化学、有機合成化学、理論有機化学問題集、有機化学I,II、生命医工学科有機化学I,II、高分子化学	1993年度～現在	2年次、3年次の有機化学系講義の副読本(問題集)を作成し、配布している。
生物有機化学、環境科学資料、環境調和化学、生物無機化学、大学院環境調和学特論	1993年～現在	講義資料を編集してテキストとして配布している。
課題研究及び化学普及活動用テキスト、資料	1995年度～現在	「化学は地球を救う」、「導電性ポリマーをつくってみよう」、「あやしい化学実験ノート」、「おもしろ理科教室テキスト」、「ミニ地球をつくろう」などの資料を作成し、配布した。
(出版教科書・化学分野) 絵解きでわかる「基礎化学」 オーム社	2007年3月発行	大学1,2年向けの教科書を執筆し、必要箇所をコピーして資料として配布。
(出版教科書、教材・環境教育分野) 理科・化学からの提案「総合的な学習の時間」に向けてパート2 日本化学会	2001年 2月発行	日本化学会化学教育協議会 分担執筆で「安全で効果的な実施のための虎の巻」を執筆した。
わくわく化学マジックワールド (DVD) 日本化学会	2001年 8月発行	製作委員として化学普及用デジタルコンテンツを作った。内容の1つも責任担当した。
生命医工学科用の有機化学基礎、有機化学I, II, 高分子化学(生体高分子)	2010年～現在	臨床検査技師を目指す学生や生命科学志向の学生向けの内容に全面改定した教科書を作成して配布している。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
自己点検評価	1994年度～現在	年2回学生に対する担当講義のアンケートに基づき大学自己点検評価委員会に報告している。アンケートの結果について積極的に次年度の授業改善のために利用している。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
公益社団法人 日本化学会 教育・普及部門普及交流委員会委員、及び実験体験小委員会委員長	2012, 2013, 2014, 2015 年	本学の学生を出前実験教室のTAとしての活動に参加させて、その活動に対する日本化学会会長からの感謝状の授与が継続している。また、東日本大震災の被災地からの依頼で気仙沼、石巻、南相馬の仮設や小学校、幼稚園、図書館で実験教室を行った。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略			
<p>ポリアニリンを用いる活性酸素の発生とその応用 新規ポリアニリン電極の作製に関する研究 活性酸素発生装置を用いる生体内での反応のモデル反応系の構築 植物由来生理活性物質の活性酸素との反応挙動 植物中の生理活性物質のα-グルコシダーゼ阻害活性の評価</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(国際学会発表)			
Preparation and Efficiency Improvement of Polyaniline-Activated Continuous Oxygen Generator	2014年11月8日	Toin international Symposium on Biomedical Engineering 2014, Toin University of Yokohama	Takuya KOARAI, Kouhei NITTA, and Kiyoshi SAITO.
(国内学会発表)			
ポリアニリン電極を用いた活性酸素連続発生とその効率化 IX	2014年10月14日	日本化学会第4回 CSJ 化学フェスタ、東京	小荒井拓也・新田功平・齋藤 潔

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
創立80周年記念行事 講演と演示実験「わくわく実験！家庭で実験できるかな？」—家庭でもできる安全で失敗しない実験を具体的に紹介します—	2014年9月20日、	長野県須坂市立森上小学	長野県須坂市
ポリアニリンによるオンサイドでの活性酸素の連続発生	2015年2月	テクニカルショーヨコハマ2015	横浜
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
基盤研究(B)「モンゴル産フライアッシュの有効利用に関する総合的調査」	2013年、2014年、2015年度	科学研究費補助金、文部科学省、連携研究者	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「桐蔭横浜大、「産学連携」研究で成果」	2015/1/29	タウンニュース青葉区版No.1032 1面、2015年1月29日号	
(その他特記事項)			
おもしろ理科教室のブース(参加型実験)を担当(2013年、2014年)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、日本化学会生体機能関連化学部会、有機合成化学協会、高分子学会、民族自然史研究会、日本内分泌攪乱化学物質学会、日本環境教育学会、植物化学調節学会、こども環境学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1995年～	文部科学省専門教育課サイエンス・ボランティア登録	
1996年～	(社)ネイチャーゲーム協会初級指導員	
2011年4月～現在	公益社団法人日本化学会教育・普及部門普及交流委員会 実験体験小委員会委員長	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
科学技術館 夏休み子ども化学実験ショー、わくわくじっけんきょうしつ けんきゅうしゃをちょっとたいけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2014年8月2、3日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
南相馬市鹿島区仮設住宅 わくわくじっけんきょうしつ きみもめいたんてい！みどりのしみのなぞ？	2014年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
南相馬市立中央図書館 わくわくじっけんきょうしつ きみもめいたんてい！みどりのしみのなぞ？	2014年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
江戸川区立小松川小学校 わくわく実験教室、けんきゅうしゃをちょっとたいけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2014年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)
荒川区東日暮里ふれあい館、荒川区西日暮里ふれあい館、わくわく実験教室、けんきゅうしゃをちょっとたいけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2014年8月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会で構成)

桐蔭横浜大学 おもしろ理科教室、わくわく実験教室、けんきゅうしゃをちよつとたいけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2014年8月	桐蔭横浜大学
町田市立南成瀬小学校 わくわく実験教室、けんきゅうしゃをちよつとたいけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2014年9月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成)
町田市立南成瀬小学校放課後児童クラブ わくわく実験教室、けんきゅうしゃをちよつとたいけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2014年9月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成)
長野県須坂市立森上小学校 創立80周年記念行事 講演と演示実験 「わくわく実験！家庭で実験できるかな？」—家庭でもできる安全で失敗しない実験を具体的に紹介します	2014年9月	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成)
大阪京セラドーム、化学の日子ども化学実験ショー わくわく実験教室、けんきゅうしゃをちよつとたいけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2014年10月18日、19日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成)
日本科学未来館、科学技術振興機構、サイエンスアゴラ わくわく実験教室、けんきゅうしゃをちよつとたいけん！ しょくぶつからDNAをとりだそう！！	2014年11月8日、9日	夢！化学21委員会(公益社団法人日本化学会、公益社団法人化学工学会、公益社団法人新化学技術推進協会、一般社団法人日本化学工業協会)で構成)

西村 裕之 (にしむら ひろゆき) 教授



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Chemical Modification of enzymes with polyethylene glycol. A new technique to render exogenous enzymes non-immunoreactive, non-immunogenic and stable in the circulation.
 専門分野：分子生物学、免疫工学
 前職：順天堂大学医学部助教授
 学内役職等：工学研究科長、医用工学専攻長(2014～)
 留学：Hospital for Joint Diseases, Beth Israel Medical Center New York N.Y., USA 研究員
 資格：
 非常勤講師：順天堂大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)英語教材を用いた専門科目教育	2008年4月12日～	学部担当科目、「臨床免疫学」および「分子生物学I」および「分子生物学II」の講義において、英語教材を取り入れる。毎回の授業内容を要約する英文(A4版1枚相当)を、授業の終わりに課題として、学生に与える。学生には、内容を平易な日本語で記述することが科せられる。およそ12回の講義を通じて、学生は専門科目の内容を学ぶと同時に、英文の読解能力を培うことができる。学生はよく努力してよい成果をあげている。
(2)演習を中心とする大学院専門科目教育	2008年4月12日～	大学院の専門科目「バイオインフォマティクス」では、遺伝統計学の基礎と、ゲノム情報処理の初歩を実習を通じて学ばせる。遺伝統計学では、遺伝連鎖解析の方法の基礎を扱った上で、LINKAGE Softwareを用いた疾患家系を対象とする遺伝連鎖解析の実習を行う。ゲノム情報処理の基礎では、Perlを用いた文字列情報の処理について、演習する。理論的観点よりも、実際にDNAを扱ういわゆるwet領域の研究者の立場から、実地で役に立つバイオインフォマティクスを教えるプログラムを構築しているところに特徴がある。

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「TNF α but not IL-17 is critical in the pathogenesis of rheumatoid arthritis spontaneously occurring in a unique Fc γ RIIB-deficient mouse model.」	共著	2014年4月26日	Mod Rheumatol.	Hideki Okazaki, Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Naomi Ohtsuji, Hiromichi Tsurui, Mareki Ohtsuji, Hirofumi Amano, Katsuko Sudo, Hiroyuki Nishimura , Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose,	

“Arthritis Reserch,Methods and Protocols”	共著	2014年4月28日	Human press	Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji, Yukiyasu Iida, Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose, Hiroyuki Nishimura	204
(学術論文)					
“TNF α but not IL-17 is critical in the pathogenesis of rheumatoid arthritis spontaneously occurring in a unique Fc γ RIIB-deficient mouse model.”	共著	2014年4月26日	Mod Rheumatol. in press	Hideki Okazaki, Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Naomi Ohtsuji, Hiromichi Tsurui, Mareki Ohtsuji, Hirofumi Amano, Katsuko Sudo, Hiroyuki Nishimura , Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose	
“Genome-Wide Genetic Study in Autoimmune Disease-Prone Mice”	共著	2014年11月21日	Methods in Molec. Biol.	Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji, Yukiyasu Iida, Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose, Hiroyuki Nishimura	pp.111-143

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演

研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
“IL-6 signal blockade ameliorates spontaneously occurring rheumatoid arthritis in an Fc γ RIIB-deficient mouse model through loss of RANKL/OPG balance”	2014年4月25日	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京)	Mareki Ohtsuji , Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Hideki Okazaki, Hiroyuki Nishimura, Norihiro Nishimoto, Sachiko Hirose
“B cell specific deficiency of Fc γ RIIB is required for autoantibody production, but not enough for early onset lupus nephritis in B6.Yaa mice”	2014年4月25日	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京)	Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Mareki Ohtsuji, Hiroyuki Nishimura , Hirofumi Amano, Sachiko Hirose
“Gene expression profile in spleen cells of (NZB x NZW)F1 mice with overt SLE activity”	2014年12月10日	第43回日本免疫学会総会・学術集会 京都	Hirosa Fusako, Obata Masaomi, Kodera Yo, Ohtsuji Mareki, Shirai Toshikazu, Hirose Sachiko, Nishimura Hiroyuki
“B cell specific Fc γ RIIB deficiency is enough for autoantibody production, but not for the progression of Yaa-related severe lupus nephritis”	2014年12月10日	第43回日本免疫学会総会・学術集会 京都	Qingshun Lin, Turui Hirimichi, Nishikawa Keiko, Amano Hirofumi, Ohtsuji Mareki, Nishimura Hiroyuki , Shirai Toshikazu, Verbeek.J.Sjef, Hirose Sachiko
“TNF α and IL-6 but not IL-17 are critical in the pathogenesis of rheumatoid arthritis spontaneously occurring in a unique Fc γ RIIB-deficient mouse model.”	2014年12月10日	第43回日本免疫学会総会・学術集会 京都	Mareki Ohtsuji, Hideki Okazaki, Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Hiroyuki Nishimura , Hirofumi Amano, Norihiro Nishimoto, Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本免疫学会、日本分子生物学会、日本癌学会、日本生化学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会

萩原啓実 (はぎわら ひろみ) 教授



出生年：1957(昭和32)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程
 学位：理学博士
 学位論文：Studies on Endothelial Cells(東京工業大学1984)
 専門分野：生物化学、分子生物学、細胞生理学、骨代謝学
 前職：東京工業大学バイオ研究基盤支援総合センター助教授
 学内役職等：医用工学部長、先端医用工学センター長(2014～)
 工学研究科長、医用工学部生命・環境システム工学科長、
 医用工学部生命医工学科長、先端医用工学センター長
 (～2013)
 留学：米国バンダービルト大学医学部(1987年4月～1988年6月)
 資格：高等学校教諭二級普通免許状(教科名生物)
 受賞・表彰：手島科学奨励賞(1984年)、三越医学賞(1990年)、東京高
 血压研究会奨励賞(1991年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)対話型授業の実施	2005年4月～	教員が一方的に話をする授業ではなく、学生に手と頭を使わせる対話型の授業を試みている。
(2)ビジュアルな教育	2005年4月～	授業の関連事項をまとめ、プロジェクターなどの機器を利用して解説する。さらに、関連するビデオ教材を用いてビジュアルに教育を行う。 毎年学生からの授業評価は高評価を受けている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)手製の教材の利用	2005年4月～	現在までに担当している講義はほとんど全てを市販の教科書を使用せずに実施してきた。このため教材は手製のプリントをほぼ毎回配布している。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
骨形成を制御する因子の探索 遺伝子KOマウスの表現型の解析					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Analysis of aquaporin 9 expression in human epidermis and cultured keratinocytes”	共著	2014年6月4日	FEBS Open Bio・4	Yoshinori Sugiyama , Kohei Yamazaki , Ayumi Kusaka-Kikushima, Kyoko Nakahigashi , Hiromi Hagiwara , Yoshiki Miyachi	pp.611-616
“Effects of Fisetin on Mouse Lipid Metabolism in Vitro and in Vivo”	共著	2014年10月17日	Journal Functional Foods in Health and Disease・4(10)	Tmoaki YONESAKA , Kaoru YOSHIDA , Shunsuke IIZUKA, Hiromi HAGIWARA	pp.429-441
“Carnosic Acid Inhibits the Formation of Osteoclasts through Attenuation of Expression of RANKL”	共著	2015年1月9日	PharmaNutrition・3(1)	Hiromi HAGIWARA , Roshan BASNET , Sundari WIYASIHATI , Kyoko NAKATA, Keitaro HAGIWARA , Hiroshi MIYAZAKI , Kaoru YOSHIDA	pp.1-6

"Apigenin Inhibits Osteoblastogenesis and Osteoclastogenesis and Prevents Bone Loss in Ovariectomized Mice"	共著	2015年2月6日	Cytotechnology・67(2)	Tadashi GOTO, Keitaro HAGIWARA, Nobuaki SHIRAI, Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA	pp.357-365
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
"Testicular Zinc Finger Transcription Factor Zfp318 Deficiency Results in Defective Meiosis of Spermatogenesis in Mice"		2014年5月27日～30日	47th Annual Meeting of JSDB Nagoya	Kaoru Yoshida , Masamichi Ishizuka, Eri Ohtsuka , Norihisa Sako , Tadashi Baba, Okabe Masaru, Junko Noguchi, Hiromi Hagiwara	
"The Role of Testicular Zinc Finger Protein Zfp318 in Mouse Spermatogenesis"		2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Akihiko KONO , Kaoru YOSHIDA, Hiromi HAGIWARA	
"Effects of Fisetin on Mouse Lipid Metabolism in Vitro and in Vivo"		2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Tomoaki YONESAKA , Kaoru YOSHIDA, Shunsuke IIZUKA, Hiromi HAGIWARA	
"In Vivo Disposition of S-(1,2-dichlorovinyl)-L-cysteine in Mice"		2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Norikazu KOMORIYA , Nobuaki SHIRAI , Hiroki TOMISAWA, Hiromi HAGIWARA	
"The Role of Testicular Zinc Finger Protein Zfp318 in Mouse Spermatogenesis"		2014年11月25日	第37回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	Kaoru YOSHIDA , Akihiko KONO , Hiromi HAGIWARA	
「ローズマリー由来カルボキシ酸の骨代謝への影響」		2014年11月26日	第37回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	萩原 啓実 , バスネット ローサン, ウイヤシハティ スンダリ, 中田 享子, 萩原 啓太郎, 宮崎 均, 吉田 薫	
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
トリクロエチレン代謝産物の骨関連細胞に与える影響に関する研究	2014年5月～2015年4月	株式会社ネモト・サイエンス			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
WCO-IOF-ESCEO Seville 2014	2014年3月30日～4月6日	Seville, Spain			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本生化学会、日本分子生物学会、日本骨代謝学会、米国骨代謝学会、日本心血管内分泌代謝学会、日本軟骨代謝学会、日本血管生物医学会、日本環境ホルモン学会、日本動物細胞工学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1994年～現在	日本血管生物医学会評議員
1999年～現在	日本心血管内分泌代謝学会評議員
2004年～現在	老人病研究所客員研究員
2005年～現在	筑波大学北アフリカ研究センター客員共同研究員
2006年～現在	桐蔭学園理事, 評議員
2011年7月～現在	日本臨床検査学教育協議会評議員

森永茂生 (もりなが しげお) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院博士課程
 学位：理学博士
 学位論文：A Study of Insoluble Organic Matter (Kerogen) in Recent Sediments by Chemical Degradation-Gas Chromatography/Mass Spectrometry
 専門分野：環境化学、分析化学、有機地球化学
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等：学務部副部長(2014～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：とうきゅう環境浄化財団研究助成A類N0.177(1994-1996)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
工学ワークショップ I テキスト	2010年～2015年4月	生命医工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。
工学ワークショップ II テキスト	2010年～2014年9月	臨床工学科の工学ワークショップ I 担当のテーマに関するテキストを作成した。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
植物を利用した重金属等の土壌汚染物質除去(ファイトレメディエーション)に関する研究を、飯島研究室や東京都市大学の涌井教授などとの共同研究について、再度計画を立案している。汚染土地域の開発への利用が期待されている。また、体内蓄積脂肪や食品の油脂に関する研究を立案している。いわゆる、トランス脂肪酸の過剰の摂取が、心臓疾患に繋がることから、世界的にも懸念されている。現在、不飽和脂肪酸分析の詳細を検討中である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「アカザ(Chenopodium album var. centrourubrum)を用いた六価クロムならびに鉛の模擬汚染土壌における重金属の吸収・蓄積とそれに伴う生育反応への影響」	共著	2014年	桐蔭論叢 第30号	横山和憲, 涌井史郎, 土路生修三, 横塚享, 内藤敏, 浅井俊光, 飯島健太郎, 森永茂生	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本地球化学会、日本有機地球化学会、日本腐植物質学会、日本環境化学会、日本水環境学会、ソノケミストリー研究会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年4月～	日本芝草学会24年度査読委員

米坂知昭 (よねさか ともあき) 教授



出生年：1958(昭和33)年
 在籍：2009(平成21)年1月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院 工学研究科 医用工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：フィセチンの脂質代謝と糖代謝に及ぼす効果に関する研究
 専門分野：臨床検査学、病院管理概論(管理運営)
 前職：済生会横浜市東部病院
 学内役職等：
 留学：
 資格：臨床検査技師
 非常勤講師：
 受賞・表彰：神奈川県公衆衛生表彰、厚生労働大臣表彰

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
ポリフェノール(Fisetin)の脂肪代謝および糖代謝における効果の検討、in vitro および in vivo における実験					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
“Effects of Fisetin on Mouse Lipid Metabolism in Vitro and in Vivo”	共著	2014年10月17日	Journal Functional Foods in Health and Disease・4(10)	Tmoaki YONESAKA , Kaoru YOSHIDA , Shunsuke IIZUKA, Hiromi HAGIWARA	pp.429-441
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Effects of Fisetin on Mouse Lipid Metabolism in Vitro and in Vivo”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Tomoaki YONESAKA , Kaoru YOSHIDA, Shunsuke IIZUKA, Hiromi HAGIWARA		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会・神奈川県臨床衛生検査技師会・日本薬理学会・分子生物学会・日本医療機器学会

小林 貴 (こばやし たかし) 特任准教授



出生年：1951(昭和26)年
 在籍：1989(平成元)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院博士課程
 学位：理学修士
 学位論文：風の乱れの空間構造
 専門分野：地球物理、環境物理、計算機物理
 前職：桐蔭学園工業高等専門学校講師
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義科目「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」における演示実験等の導入	2005年度から導入を開始した。	講義としての板書等だけでは分かり難い各項目において、直接目で見たり耳で聞いたり出来るような演示実験装置を色々と工夫・準備し、教卓等で大きな定性実験として披露している。この為、大きな各種装置をJ棟4階倉庫に置いておき、授業も同階で行っている。
授業補習の導入	2005年度から本格的に導入を開始した。	1年の必修科目を中心に、全体に対する講義・演習だけでは身に入らなかつたり、不十分な学生を対象に、指名者および希望者を授業とは別の空き時間帯にカフェに呼び、個別指導をしている。これによって、個人ごと微妙に異なる不理解具合にかなり対応することが出来る。
4年国試対策特別講座	2012年度より開始した。	学科改変に伴って、大半の学生が臨床検査技師の国家試験を目指すようになり、その4年学生に対して後期に対策講座が数多く行われているが、その中で医用工学概論分野を担当している。2年次までに行った授業を踏まえて、毎回演習資料を行っている。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
牛込堀の長期振動の音源化においては、一応幾つかのサンプルを作り、小研究会で発表した。それを元に、いわゆる音楽として感じられる形になるように、応用作品を作成しているところである。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、日仏海洋学会

飯島 健太郎 (いじま けんたろう) 准教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：東京農業大学大学院農学研究科農学専攻博士後期課程修
 学位：農学博士、造園学修士
 学位論文：緑化用植物としてのSedumの生育特性の解明に関する研究
 専門分野：造園学、都市緑化、環境植栽学
 前職：東京農業大学地域環境科学部造園科学科助手
 学内役職等：学生部副部長 (2012～2013)
 学内役職等：学生部長 (2014～)
 客員准教授：東京都市大学環境学部客員准教授
 資格：博物館学芸員資格
 非常勤講師：千葉大学大学院園芸学研究科非常勤講師
 受賞・表彰：大日本農会賞(1992年3月)
 日本造園学会賞・研究奨励賞(2003年5月)
 道路緑化保全協会菊池奨励賞(2008年5月)
 日本造園学会賞(研究論文部門)(2011年5月)
 日本アロマ環境協会賞(2013年1月)
 造園大賞(2014年5月)

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
受託研究、奨学寄付金を誘致して研究活動を進めた。企業6社からなる研究会と共同研究において、街路空間のもたらす心理・生理的な影響、また自治体との研究協定により、保水性ペーパメントによる暑熱環境緩和効果に関する研究を実施した。また他大学との共同研究により数種野草によるファイトレメディエーション効果について研究している。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「芝生グラウンドの効用/利点の多い天然芝」	単著	2014年1月14日	静岡県グリーンバンク	-	全4頁
「ココロとカラダが喜ぶ住まいをつくる」	共著	2014年9月26日	創樹社		52-55頁
(総説・論説)					
「保健衛生分野から見た緑素材・緑空間の活用」	単著	2014年10月20日	芝草研究43(1)	-	1-12頁
「グラウンドカバープランツの斑入種とその特徴」	単著	2015年3月20日	芝草研究43(2)	-	144-151頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
仮設住宅における緑のカーテンによる暑熱環境緩和効果と遮光率の差異	2014年6月1日	日本芝草学会春季大会	足立泰美・涌井史郎・大森靖広・吉田一居・飯島健太郎		
仮設住宅の緑のカーテンに対する住民の評価/2年目について	2014年6月1日	日本芝草学会春季大会	渡邊洋輔・足立泰美・涌井史郎・大森靖広・吉田一居・飯島健太郎		
「グラウンドサーフェイスから見たスポーツ傷害と人工芝・天然芝」	2014年11月7日	特殊緑化に関する研究者発表会、都市緑化機構 都内	飯島健太郎		

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
関連領域の知見を生かした緑化用植物の利用の拡大と効果の実証に関する研究	2014年5月11日	東京農業大学造園科学科	東京
公衆衛生学から見た緑の素材・緑空間の役割	2014年6月6日	都市緑化機構グランドカバー・ガーデニング共同研究会	東京
「保健衛生分野から見た緑地、芝生の効用」	2014年8月3日	日本芝草学会公開シンポジウム/体育・スポーツから見た芝生	埼玉大学
「保健衛生分野から見た緑の素材・緑地空間の活用」	2014年10月11日	屋内緑化推進協議会勉強会	大田市場
「心の復興/メンタルヘルスと緑素材、緑地利用について考える」	2014年10月5日	日本芝草学会2014秋季大会	仙台大学
「公衆衛生学から見た緑素材、緑地空間の効用」	2014年11月19日	薄層屋上緑化技術協会 屋上緑化講演会	東京国際フォーラム
「癒しと健康維持のための緑のあり方」	2014年12月16日	緑のまちづくり支援機構勉強会	東京
「都市緑化による暑熱環境緩和効果について/都市の沿道空間の暑熱環境と緑化による対策」	2014年12月17日	都市緑化機構グリーンビジネスマネジメント共同研究会講演会	東京
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「造園大賞」	2014年5月11日	東京農業大学造園科学科	飯島健太郎
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
超保水性建材を用いた環境改善	2014年1月～2014年10月	小松精練(株)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「緑地の健康効用を保健衛生活動に生かす」	2014年11月10日	月刊体育施設43(13) 25-29頁	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本多肉植物の会、日本造園学会、日本緑化工学会、日本芝草学会、日本プロメリア協会、日本生理人類学会、人間植物関係学会、国際多肉植物協会、Sedum Society	
任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年4月～現在	国際多肉植物協会日本支部(ISIJ)総合学術委員
2001年9月～現在	NPO 法人日本多肉植物の会 顧問
2004年1月～現在	日本緑化工学会論文校閲担当
2005年4月～現在	薄層緑化技術向上協会技術顧問
2006年10月～現在	日本芝草学会編集委員
2006年10月～現在	日本芝草学会グラウンドカバープランツ緑化部会部会長
2007年10月～現在	(社)日本造園学会校閲担当
2009年4月～現在	(財)日本公園緑地協会 公園緑地 有識者校正委員
2010年1月～現在	(財)環境情報科学センター、平成21年度ヒートアイランド現象による環境影響等に関する調査業務委員
2011年4月～現在	高速道路調査会 高速道路のグリーンマネジメント委員会委員
2011年4月～現在	神奈川県公園等審査会委員
2013年10月～現在	県立都市公園指定管理者選定審査委員会委員
2014年2月～現在	沖縄海洋博公園・熱帯亜熱帯環境ゾーン更新整備検討ワーキング委員
2014年7月～現在	屋内緑化推進協議会顧問

落合 晃 (おちあい あきら) 准教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2003(平成15)年9月～
 最終学歴：北海道薬科大学大学院生物薬学専攻
 学位：医学博士
 学位論文：ラット虚血急性腎不全に対するレシチン化superoxide dismutase(PC-SOD)の抑制効果
 専門分野：薬理学、再生医学、衛生科学
 前職：生化学工業株式会社
 学内役職等：
 学内役職等：
 留学：聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター(国内)
 ミシシッピ大学 メディカルセンター(米国)
 資格：薬剤師 衛生検査技師
 非常勤講師：聖マリアンナ医科大学
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
オゾンUV処理したポリマーにおける細胞培養	共著	2014年4月	技術情報協会	徳岡由一、村上拓郎、川島徳道	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本臨床検査学教育学会、日本リウマチ学会、日本DDS学会、日本炎症・再生医学会、日本薬学会、日本臨床薬理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
	日本臨床検査学教育学会 評議委員

徳岡 由一 (とくおか よしかず) 准教授



出生年：1965(昭和40)年
 在籍：2001(平成13)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理工学研究科工業化学専攻修士課程
 学位：博士(工学)
 学位論文：界面活性剤水溶液による香料の可溶化
 専門分野：バイオインターフェイス/バイオマテリアル、ドラッグデリバリー、フォトメディカル
 前職：エステー化学株式会社 研究開発部主任研究員
 学内役職等：
 留資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第40回コロイドおよび界面化学討論会ポスター賞「界面活性剤／合成香料／水三成分系相状態図」、1997年度材料技術研究協会技術賞「ハロゲン捕捉剤の開発」、平成11年度日本油化学会進歩賞「界面活性剤水溶液による香料の可溶化と揮発制御に関する研究」、2003年度材料技術研究協会技術賞「癌の光線力学的療法用新規メタルハライドランプ」、2004年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「癌の光線力学的療法における5-Aminolevulinic acidの経皮吸収に及ぼすl-menthol誘導体の添加効果」、2005年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ポリエチレングリコールで改質した金基板表面へのタンパク質の吸着挙動」、2006年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「発光周波数の異なるキセノンフラッシュ光のPDT効果」、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「オゾン-UV処理により表面改質された各種高分子材料への血漿タンパク質の吸着挙動(II)」、2007年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「5-アミノレブリン酸による細胞内プロトポルフィリンIXの集積性に及ぼす各種芳香族アミノ酸の添加効果」、第11回日本油化学会エディター賞「Oxidation Decomposition of Unsaturated Fatty Acids by Singlet Oxygen in Phospholipid Bilayer Membranes」、2009年度材料技術研究協会討論会ゴールドポスター賞「ラメラ構造を有するメソポーラス・アパタイトの面間隔制御」、Poster Session Award, 2009TOIN International Symposium on Biomedical Engineering, “Effect of crown ethers on 5-aminolevulinic acid-induced protoporphyrin IX accumulation in U-937 cell”、SPACC-17 Poster Award, “Synthesis of oxovanadium(IV) complexes from hydroxyazine-type heterocycles and their apoptosis-inducing activity against leukemia cells”、Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2010 Presents Poster Session Award, “Effect of 18-crown-6 on protoporphyrin IX accumulation in cultivated cancer cells”

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
(3) バイオマテリアル学(生命医工学科3年)の授業で「血液検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	血液学の基礎および凝固系の説明にりようする。網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(4) 生命医工学セミナーⅡ(生命医工学科3年)の授業で「臨床化学検査学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2011年～	臨床化学に関する測定原理、測定方法等が網羅的に記載されており、国家試験のみならず、将来、臨床現場でも十分に利用できる。
(6) 生物学Ⅰ(生命医工学科2年)の授業で「生化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2012年	臨床検査学を習得するのに際して必要な生化学を網羅した書籍である。

(7)生物学Ⅱ(生命医工学科2年)の授業で「生化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2012年	臨床検査学を習得するのに際して必要な生化学を網羅した書籍である。
(1)化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学の基礎」(岩波書店)を参考書として使用	2013年～	高校での化学の復習と書あるいは大学での化学の入門書として最適である。
(2)化学(生命医工学科1年生)の授業で「化学(臨床検査学講座)」(医師薬出版)を教科書として使用	2013年～	臨床検査技師養成のための必要最小限の内容が網羅された書籍である。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
<p>●ドラッグデリバリー 光線力学的療法(フォトダイナミックセラピー)に用いる光増感剤の経皮吸収促進を目的に、新たにW/Oエマルションを用いた光増感剤の経皮吸収効果について引き続き検討した。さらに、光増感剤を内包したリポソームを調製し、その経皮吸収についても検討を開始した。</p> <p>●フォトメディカル(フォトダイナミックセラピー) 5-アミノレブリン酸を光増感剤として用いたフォトダイナミックセラピー(PDT)による、<i>P.acnes</i>に対する殺菌効果について検討を開始した。さらに、上皮性癌細胞を用いて、PDT効果に対する共存物質の影響、特に、アミノ酸の影響について検討を開始した。</p> <p>●バイオインターフェイス/バイオマテリアル 水晶共振子マイクロバランス(QCM)を用いて、血液凝固および血栓線溶プロセスのモニターリング方法の構築の開始した。QCMによるモニターリングができれば、血液凝固および血栓線溶の詳細なプロセスを定量的に評価することが可能となり、バイオマテリアル、抗血栓剤等の開発に有用である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
動物細胞培養の手法と細胞死・増殖不良・細胞変異を防止する技術	共著	2014年4月	(株)技術情報協会		259-263頁
(学術論文)					
"Effect of Tween 20 concentration on macropore formation in spherical diopside particles."	共著	2015年1月	Journal of the Japan Society of Colour Material index, 88, (1)	Yuhki Nakamura, Aya Hasebe, Tetsuya Johno, Takuro Murakami, Yoshikazu Tokuoka 1, and Norimichi Kawashima	pp.2-7
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
可溶化とマイクロエマルション	2014年6月	第15回日本油化学会フレッシュマンセミナー(界面科学と界面活性剤)	東京理科大学森戸記念館(新宿)		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
受託研究	2014年4月1日～2015年3月31日	「大学女子スポーツ選手における貧血調査及びその原因検索」ウシオ電機株式会社			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、日本化学会コロイドおよび界面化学部会、日本油化学会、材料技術研究協会、日本光線力学学会、日本光医学・光生物学会、日本バイオマテリアル学会、色材協会、ポルフィリン-ALA学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2003年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」編集委員会委員
2007年4月～現在に至る	材料技術研究協会「MATERIAL TECHNOLOGY」副編集委員長
2008年4月～現在に至る	色材協会編集委員会委員

大 辻 希 樹 (おおつじ まれき) 専任講師



出 生 年 : 1972(昭和47)年
 在 籍 : 2009(平成21)年4月～
 最 終 学 歴 : 放送大学 教養学部
 学 位 : 博士(医学)
 学 位 論 文 : IL-6 signal blockade ameliorates the enhanced
 専 門 分 野 : 病理学、臨床病理学、免疫学、免疫遺伝学
 前 職 : 順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座 助手
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 臨床検査技師
 非 常 勤 講 師 : 順天堂大学 医学部 非常勤助手
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
疾患モデルマウスを用いた自己免疫疾患発症機序の解明 RAモデルに対するサイトカイン抑制による治療実験					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
“TNF α but not IL-17 is critical in the pathogenesis of rheumatoid arthritis spontaneously occurring in a unique Fc γ RIIB-deficient mouse model.”	共著	2014年4月26日	Mod Rheumatol. 2014 Nov;24(6)	Hideki Okazaki , Qingshun Lin , Keiko Nishikawa , Naomi Ohtsuji , Hiromichi Tsurui , Mareki Ohtsuji , Hirofumi Amano , Katsuko Sudo , Hiroyuki Nishimura , Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose	pp.931-8.
“Arthritis Reserch,Methods and Protocols”	共著	2014年4月28日	Human press	Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji , Yukiyasu Iida, Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose, Hiroyuki Nishimura	204
(学術論文)					
“TNF α but not IL-17 is critical in the pathogenesis of rheumatoid arthritis spontaneously occurring in a unique Fc γ RIIB-deficient mouse model.”	共著	2014年4月26日	Mod Rheumatol. in press	Hideki Okazaki, Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Naomi Ohtsuji, Hiromichi Tsurui, Mareki Ohtsuji , Hirofumi Amano, Katsuko Sudo, Hiroyuki Nishimura, Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose	
“IL-6 signal blockade ameliorates the enhanced osteoclastogenesis and”	共著	2014年7月27日	Mod Rheumatol, 2014; Early Online: 1–8	Mareki Ohtsuji , Qingshun Lin , Keiko Nishikawa, Naomi Ohtsuji, Hideki Okazaki, Hiromichi Tsurui, Hirofumi Amano, Toshikazu Shirai , Sachiko Hirose	ISSN 1439-7595 (print), 1439-7609 (online)

“Genome-Wide Genetic Study in Autoimmune Disease-Prone Mice”	共著	2014年11月21日	Methods in Molec. Biol.	Masaomi Obata, Mareki Ohtsuji , Yukiyasu Iida, Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose, Hiroyuki Nishimura	pp.111-143
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名	
“IL-6 signal blockade ameliorates spontaneously occurring rheumatoid arthritis in an Fc γ RIIB-deficient mouse model through loss of RANKL/OPG balance”		2014年4月25日	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京)	Mareki Ohtsuji , Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Hideki Okazaki, Hiroyuki Nishimura, Norihiro Nishimoto, Sachiko Hirose	
“B cell specific deficiency of Fc γ RIIB is required for autoantibody production, but not enough for early onset lupus nephritis in B6.Yaa mice”		2014年4月25日	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会(東京)	Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Mareki Ohtsuji , Hiroyuki Nishimura, Hirofumi Amano, Sachiko Hirose	
“TNF α and IL-6 but not IL-17 are critical in the pathogenesis of rheumatoid arthritis spontaneously occurring in a unique Fc γ RIIB-deficient mouse model.”		2014年12月10日	第43回日本免疫学会総会・学術集会 京都	Mareki Ohtsuji , Hideki Okazaki, Qingshun Lin, Keiko Nishikawa, Hiroyuki Nishimura, Hirofumi Amano, Norihiro Nishimoto, Toshikazu Shirai, Sachiko Hirose	
“B cell specific Fc γ RIIB deficiency is enough for autoantibody production, but not for the progression of Yaa-related severe lupus nephritis”		2014年12月10日	第43回日本免疫学会総会・学術集会 京都	Qingshun Lin, Turui Hirimichi, Nishikawa Keiko, Amano Hirofumi, Ohtsuji Mareki , Nishimura Hiroyuki, Shirai Toshikazu, Verbeek, J.Sjef, Hirose Sachiko	
“Gene expression profile in spleen cells of (NZB x NZW)F1 mice with overt SLE activity”		2014年12月10日	第43回日本免疫学会総会・学術集会 京都	Hirose Fusako, Obata Masaomi, Kodera Yo, Ohtsuji Mareki , Shirai Toshikazu, Hirose Sachiko, Nishimura Hiroyuki	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本免疫学会、日本病理学会、日本リウマチ学会、超音波検査技師会、日本臨床衛生検査技師会 神奈川県臨床検査技師会

清水 智美 (しみず ともみ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2010(平成22)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院 医学研究科 博士課程修了
 学位：博士(医学)
 学位論文：超長時間持久的負荷(24時間走)における炎症およびストレス反応の推移
 専門分野：臨床生理学、生理学
 前職：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科
 学内役職等：講師
 留学：
 資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
酸化ストレスと抗酸化力の生体応答 発汗と自律神経機能について					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
Effects of ingesting milk fermented by Lactococcus lactis H61 on skin health in young women.	共著	2014年	American Dairy Science Association.97	H.Kimito-Nira, Y. Nagakura, C. Kodama, T. Shimizu , M. Okuta, K. Sasaki, N. Koikawa, K. Sakuraba, C. Suzuki, and Y. Suzuki	5898-8903
健康な女子大学生のHand Workおよび能動的起立負荷に伴う自律神経活動の変化と月経周期との関連	共著	2014年	発汗学Vol.21 No.2	糸井裕子、 清水智美 、渡邊マキノ、森川奈緒美、小野崎美幸、金子順子、岡田隆夫	42-52頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
第25回日本体力医学会スポーツ医学研修会	2014年8月1日	日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会	東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室		
○その他					
(その他特記事項)					
臨床検査技師国家試験問題注解 2015年版(金原出版) 2014年6月20日					

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床衛生検査技師会、日本臨床生理学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本臨床検査医学会、日本臨床スポーツ医学会

蓮 沼 裕 也 (はすぬま ゆうや) 助教



出生年：1986(昭和61)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学科修了
 学位：健康科学士
 学位論文：
 専門分野：臨床微生物学、感染症学、細菌学、感染制御学
 前職：東海大学医学部附属病院 院内感染対策室 技術員
 学内役職等：
 留学：
 資格：臨床検査技師、2級臨床検査士(微生物学)、遺伝子分析科学認定士(初級)
 非常勤講師：茅ヶ崎看護専門学校 非常勤講師(微生物学)
 受賞・表彰：一般社団法人 色材協会 2014 JSCM Most Accessed

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
臨床検査技師国家試験のための補講	2012年9月～2015年2月	臨床検査技師国家資格取得のため、週5～6コマの補講を実施した。内容は各科目ごとの体系的な解説から、横断的な内容まで及んだ。補講内では、効率的かつ印象に残るよう、独自の表やイメージ像を図示するよう努めた。
臨床検査技師国家試験のための学内試験および問題演習にて○×問題の取り入れ	2012年9月～2015年2月	臨床検査技師国家資格取得のための学内試験には、本番での形式である5択以外に、○×問題を取り入れた。5択の場合、正解にたどり着いた時点で正答となるが、1文ずつ詳細な内容を理解しないままのケースがある。○×問題は、その問題点を解決するのに有益であった。また受験直前の冬休み課題として、○×問題演習を行ったことで、記憶漏れや記憶ミスを抽出できた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
生命医工学実験Ⅱ 臨床微生物学実習 実習の手引き&レポート	2014年4月	

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略 家畜から分離される細菌研究として、放線菌およびCampylobacterの研究を行った。放線菌の一種であるActinomyces 属菌にて新菌種が示唆される菌株について、遺伝学的な検討を行った。特に、PacBioを用いた次世代シーケンス解析による全ゲノム解析に注力した。Campylobacterはブロイラー感染モデルを用いて、他の腸内細菌科の生体内移行との関連性を調べる実験を行った。抗菌薬耐性菌研究の一環として、健康人および食用肉からの耐性菌分離を行った。また臨床検査センターの協力を得て、神奈川県や東京都の病院から分離される耐性菌ESBLの疫学調査を実施した。本研究は基礎研究と臨床現場をつなぐ橋渡しの研究として、今後神奈川県近郊の耐性菌制御の一助となると確信している。また耐性菌制御のため、抗菌薬を用いない方法として光線力学的療法PDTおよびPTによる抗菌活性について、標準菌株及び臨床菌株を用いて細菌学的立場から検討した。
○その他 (その他特記事項) 株式会社 保健科学研究所と共同で、神奈川県近郊の病院から検出される耐性菌の疫学調査を実施(2014年12月～)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称 日本臨床衛生検査技師会、日本臨床微生物学会、日本臨床検査自動化学会、日本細菌学会、日本体力医学会、LAMP法研究会、PCR感染症研究会、臨床微生物迅速診断研究会、動物用抗菌薬研究会

奥田美穂（おくた みほ） 特任助教



出生年：1986(昭和61)年
在籍：2014(平成26)年10月～
最終学歴：大東文化大学大学院スポーツ・健康科学研究科
学位：修士(スポーツ科学)
学位論文：高校生アルペンスキー選手におけるコンディショニングに関する研究-酸化ストレス防御機構の観点から-(2011)

専門分野：生理学 臨床生理学
前職：健診会 東京メディカルクリニック
学内役職等：
留学：
資格：臨床検査技師、日本体力医学会健康科学アドバイザー
非常勤講師：
受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
生理機能検査学	2014年9月～	パワーポイントにおける講義にプラスし、専用のペーパーへの記載させ、どこがポイントとなのかを理解させながら授業を実施した。また、実技においては細かく実施方法を指導し、一人一人確認を行った後、¥改善点がどこにあったのかを他の生徒とともに確認を行っていった。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本臨床衛生検査技師会, 日本超音波医学会

臨床工学科 (Department of Clinical Engineering)

佐野元昭 (さの もとあき) 教授



出生年 : 1959(昭和34)年
 在籍 : 1999(平成11)年4月～
 最終学歴 : 東京工業大学大学院理工学研究科物理学専攻博士後期課程
 学位 : 理学博士
 学位論文 : 光複屈折による六方晶ABX₃型反強磁性体の相転移の研究
 専門分野 : 信号処理、画像処理、コンピュータグラフィックス
 前職 : 東京工業大学大学院総合理工学研究科助手
 学内役職等 : 教務委員(工学系学部)(2003～2012)
 規定検討委員会委員(2008～)
 おもしろ理科教室実行委員会委員(2009～)委員長(2011
 入試・広報センター(2013～)、アドミッション委員(2012～)
 大学入試センター試験 試験場本部 統括責任(2012～
 図書館運営委員(2013～)
 ハラスメント対策委員(2013)
 情報処理教育委員(2013～)
 インディカフェ(2013～)
 (社)私立大学情報教育協会(2013～)窓口
 (電算事故調査委員会委員(2015))
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 電気学会論文発表賞(1992)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
コンピュータリテラシ	2009年4月 2010年4月 2011年4月 2012年4月 2013年4月 2014年4月	毎年新入生を対象に行われる情報処理関係のオリエンテーションの資料として、情報処理演習室の使い方から、インターネット基礎およびWord、Excel、PowerPointの簡単な説明までを1冊にまとめた参考書である。
物理Ⅰ 物理Ⅱ	2010年4月および9月 2011年4月および9月 2012年4月および9月 2013年4月および9月 2014年4月および9月 2015年4月および9月	工学系学部を対象にした「物理Ⅰ」、「物理Ⅱ」のテキストである。小林講師、中丸非常勤、私の3名で担当しており、私の分担は、物理Ⅰは静力学、物理Ⅱは電荷、電流・電圧、回路である。2012年からは、小林講師と私の2名になったので改定。
実習 プログラミング	2010年9月	工学部の「プログラミング入門」および「プログラミングⅠ」の教科書であり、C言語の基礎からはじめ、C言語全体を一通り解説している。
コンピュータグラフィックス(講義資料)	2011年4月～7月	工学部の「コンピュータグラフィックス」のための資料として授業中に配布した。B5版74ページ。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
CREST関連の研究として、葉の固有振動数の変化と植物の水ストレスとの関係を明らかにしてきたが、2014年度は最終年度であったので、その成果をまとめて日本音響学会の英文誌(Acoustic Science and Technology)に投稿した。また、科研費の研究として、ハイスピードカメラによる葉の振動の同時多点計測を行い、葉の振動を「葉全体の振動」と「葉自身のたわみ振動」に分離を行いながら、それぞれの振動が植物の水ストレスとどのような関係にあるかを調べた。2014年度の段階では、測定間隔が粗かったため、日周変動は観測できなかったか、水切りからしおれるまでの傾向を捉えることができ、植物の水ストレスの検出には、葉自身のたわみ振動よりも、葉全体の振動を調べた方が良いことが分かってきた。この結果は、日本音響学会の研究発表会で発表した。今後は、測定の自動化などにより、日周変動も詳細に調べる予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「葉の振動計測による植物の水ストレス状態の推定」	共著	2014年10月27日	桐蔭論叢 第30号	佐野元昭, 有馬赳彬, 中川 裕, 杉本恒美	155-161頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“STUDY ON PLANT HEALTH CONDITION MONITORING BY VIBRATION MEASUREMENT OF LEAF USING ACOUSTIC RADIATION FORCE”	2014年5月22日	the 7th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB) (Yilan, Taiwan)	T.Sugimoto, M.Sano , Y.Nakagawa, T.Shirakawa, K.Yamagishi, T.Sugihara, M.Ohaba, 澁澤 栄		
「レーザー変位計を用いた葉の振動計測による植物の水ストレス評価」	2014年6月18日	第53 回光波センシング技術研究会 東京理科大学 森戸記念館 (神楽坂)	佐野元昭, 有馬赳彬, 中川裕, 杉原敏昭, 杉本恒美		
“Study on Plant Health Condition Monitoring using Acoustic Radiation Force”	2014年7月21日	12th International Conference on Precision Agroculture (Sacramento, California, U.S.A.)	T.Sugimoto, M.Sano , Y.Nakagawa, T.Shirakawa, K.Yamagishi, T.Sugihara, M.Ohaba, Sakae Shibusawa		
「作物試料近傍における温湿度分布と環境値との関係についての基礎的観察」	2014年11月6日	電子情報通信学会 知的環境とセンサネットワーク研究会 (ASN) 機械振興会館	杉原 敏昭, 佐野 元昭, 杉本 恒美, 梅田 大樹, 岩崎 泰永, 澁澤 栄		
“Study on Estimation of Volume Water Content in Culture Soil using Handheld Sound Source and Sensors (2)”	2014年11月8日	9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME) Memorial Academium	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano , Tsuneyoshi Sugimoto		
“Study on measurement of the pressure in soil with the pressure sensor”	2014年11月8日	9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME) Memorial Academium	Takeyuki Ohdaira, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoaki Sano , Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa		
「精密農業研究のための遠隔多指標多点計測環境の構築」	2014年11月12日	計測自動制御学会(SICE) システムインテグレーション(SI)部門大会 東京工業大学 蔵前会館	杉原 敏昭, 小平 正和, 松尾 誠治, 藤田 豊久, 佐野 元昭, 杉本 恒美, 岩崎 泰永, 澁澤 栄		
“Study on Estimation of Volume Water Content in Grove Soil using Handheld Sound Source and Sensors”	2014年12月3日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Takeyuki Ohdaira, Kaoru Yamagishi, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoaki Sano , Sakae Shibusawa		

“Estimation of Water Stress of Plant by Vibration Analysis of Leaf with High Speed Camera”	2014年12月3日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Motoaki Sano , Takuya Anzai , Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto, Takashi Shirakawa , Kaoru Yamagishi , Takeyuki Ohdaira, Sakae Shibusawa
“Basic Study on the Detection of the Water Stress in the Plant using Ultrasonic Sound Source”	2014年12月5日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano , Takashi Shirakawa, Kaoru Yamagishi, Takeyuki Ohdaira , Sakae Shibusawa
「葉の振動計測による植物健康状態評価法に関する検討ー音響放射圧を用いた長期自動計測についてー」	2015年2月4～6日	テクニカルショウヨコハマ2015 (パシフィコ横浜、展示ホールC・D)	佐野元昭 , 杉本 恒美
「ハイスピードカメラを用いた多点振動解析による作物吸水ニーズ推定に関する研究」	2015年3月18日	日本音響学会 2015年 春季研究発表会 中央大学(後楽園キャンパス)	佐野元昭 , 中川裕, 安斎拓也, 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究-植物栽培中の伝搬音速変化に関する検討(I)-」	2015年3月18日	日本音響学会 2015年 春季研究発表会 中央大学(後楽園キャンパス)	白川貴志, 中川裕, 大平武征, 杉本恒美, 佐野元昭
「音響振動による植物吸水ニーズの推定に関する研究-植物育成時の固有振動数と葉の表面温度の比較に関する検討-」	2015年3月18日	日本音響学会 2015年 春季研究発表会 中央大学(後楽園キャンパス)	中川裕, 杉本恒美, 佐野元昭 , 白川貴志, 大平武征, 内川千春, 澁澤栄
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
戦略的創造推進事業(CREST)	2010年10月～2015年3月	独立行政法人科学技術振興機構(JST)	
科学研究費助成事業	2013年6月～2016年3月	独立行政法人日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))	
(その他特記事項)			
TVK カナフルテレビ「夏休みの宿題を楽しもう」(2014年7月27日(日)9:30-10:00放映)(本学おもしろ理科教室の紹介) 2014年7月14日(取材)			
iTSCOMチャンネル(地デジ11ch)「地モトTVおかえり!」(トピックスコーナー(2分))(9月2日(火)6:30～, 13:00～, 15:00～, 17:00～, 22:30～)おもしろ理科教室の取材(主催者インタビュー)			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本物理学会、応用物理学会、電気学会、日本音響学会、日本生物環境工学会

竹内真一 (たけうち しんいち) 教授



出生年：1956(昭和31)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：武蔵工業大学大学院工学研究科修士課程電気工学専攻
 ：桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士課程材料工学専攻
 学位：博士(工学)
 学位論文：信号処理による超音波診断装置の分解能改善に関する研究(修士)
 Study on applicability of microbubbles in harmonic imaging and development of ultrasound transducer for harmonic imaging(博士)
 専門分野：超音波工学、音響工学、医用生体工学、電子通信工学
 前職：(株)キメック研究開発センター計測電子システム部副主事
 学内役職等：医用工学部臨床工学科長(2012～)
 学務部副部長(2010・2011)
 留資格：第1級陸上無線技術士、第1種電気通信主任技術者(伝送交換)、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：日本工学院専門学校・臨床工学専攻科、東京工科大学・医療保健学部・理学療法士学科、看護学科、作業療法士学科
 受賞・表彰：第51回注目発明に選定(超音波流量測定方法およびその装置)日本超音波医学会・超音波工学フェロー電子情報通信学会・シニア会員2000年度材料技術研究協会討論会ポスター賞受賞2002年度材料技術研究協会技術賞2002年度材料技術研究協会討論会ポスター賞2005年度材料技術研究協会討論会ポスター奨励賞

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
超音波パワー循環型直交駆動法を用いたII型構造を有するコイル状ステータ超音波モータの構造と特性	共著	2014年4月1日	超音波TECHNO VOL.26, No.2 3-4月号	阿部峻靖、竹内真一、守屋正、入江喬介、佐藤正和	34-38頁
「シャント音の基準化持続時間に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試み」	共著	2014年11月12日	医工学治療 Vol.26 No.3	本橋由香、佐々木一真、山内忍、佐藤敏夫、竹内真一、阿岸鉄三	145-154頁
(学術論文)					
Frequency characteristics of receiving sensitivity and waveform of an anti-acoustic cavitation hydrophone	共著	2014年7月	Japanese Journal of applied physics, Vol.53, No.7S	Michihisa Shiiba, Nagaya Okada, Takeyoshi Uchida, Tsuneo Kikuchi, Minoru Kurosawa, Shinichi Takeuchi	07KE06-1-6頁
Experimental study of the II-shaped coiled stator ultrasound motor	共著	2014年7月	Japanese Journal of applied physics, Vol.53, No.7S	Toshinobu Abe, Tadashi Moriya, Takasuke Irie, Masakazu Sato, Shinichi Takeuchi	07KE15-1-6頁

Development and estimation of brain tumor cells culture flask with acoustic window film for ultrasound exposure	共著	2014年7月	Japanese Journal of applied physics, Vol.53, No.7S	Sakino Iwashiro, Akiko Watanabe, Yoshifumi Onozuka, Masatsune Minai, Hiroyuki Nishimura, Shinichi Takeuchi	07KF12-1-6 頁
Ultrasound exposure conditions for suppressing survival of human glioblastoma U-87MG cells	共著	2014年7月	Japanese Journal of applied physics, Vol.53, No.7S	Akiko Watanabe, Sakino Iwashiro, Masatsune Minai, Hiroyuki Nishimura, Shinichi Takeuchi	07KF29-1-6 頁
非線形音場校正を目的とした音響導波路型高出力音源の開発ー音場シミュレーションによる音響導波路の基礎検討ー Development of High Intensity Ultrasound Source using Acoustic Waveguides for Nonlinear Calibration of Hydrophone	共著	2014年6月15日	桐蔭論叢 第30号	五十嵐茂、竹内真一	pp. 129-135
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
定在波音場および集束音場における音響キャビテーションの分布と音響流の観察	2014年5月9日	日本超音波医学会第87回学術集会(神奈川県パンフィコ横浜)	植村友樹、栗田実沙、椎葉倫久、崔博坤、 竹内真一		
堅牢型ハイドロホンの出力波形ー超音波診断装置並びにHIFU音場の測定ー	2014年5月9日	日本超音波医学会第87回学術集会(神奈川県パンフィコ横浜)	椎葉倫久、岡田長也、内田武吉、菊池恒男、黒澤実、 竹内真一		
超音波翔さy実験用音響窓付脳腫瘍細胞培養フラスコの作製と評価に関する検討	2014年5月10日	日本超音波医学会第87回学術集会(神奈川県パンフィコ横浜)	岩城咲乃、渡邊晶子、小野塚善文、葉袋正恒、西村裕之、 竹内真一		
超音波とマイクロバブルを併用した脳腫瘍治療法に関する基礎検討	2014年5月10日	日本超音波医学会第87回学術集会(神奈川県パンフィコ横浜)	渡邊晶子、岩城咲乃、葉袋正恒、西村裕之、 竹内真一 、立花克郎		
「II型構造を有するコイル状ステータ超音波モータ(CS_USM)の特性ー回転数とトルクの評価ー」	2014年5月26日	電子情報通信学会・日本音響学会共催・超音波研究会(東京芝公園、機械振興会館)	阿部峻靖、守屋 正、入江喬介、 竹内真一		
超音波照射用音響窓付き付着細胞培養フラスコの開発と適用性に関する検討	2014年5月26日	電子情報通信学会・日本音響学会共催・超音波研究会(東京芝公園、機械振興会館)	岩城咲乃、渡邊晶子、小野塚善文、葉袋正恒、西村裕之、 竹内真一		
チタン製前面板を有するハイドロホンの耐久性の評価	2014年9月3日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	椎葉倫久、高野海渡、岡田長也、内田武吉、黒澤実、 竹内真一		
コイル状ステータ超音波モータの音響導波路上における粒子運動の観測	2014年9月3日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	阿部峻靖、大関誠也、守屋正、入江喬介、 竹内真一		
水熱合成法を用いた二振動子型CS-USM(Coiled Stator Ultra-Sound Motor)の基礎検討	2014年9月3日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	大関 誠也、阿部 峻靖、守屋 正、入江 喬介、 竹内 真一		
「定在波音波・集束音場における音響キャビテーションと音響流のSCL、超音波診断装置、PIVを用いた観測」	2014年9月4日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	植村友樹、佐々木一真、栗田実沙、崔博坤、佐藤敏夫、 竹内真一		

超音波照射による脳腫瘍治療に関する研究 -超音波照射用音響窓付き付着細胞培養フ ラスコの適用性に関する開発と検討-	2014年9月4日	日本音響学会 2014年秋季 研究発表会 北海学園大学	☆岩城咲乃, 渡邊晶子, 小野塚 善文, 葉袋正恒, 西村裕之, 竹 内真一
複数の音響導波路を用いて形成する超音波 音場* - 2次元音場シミュレーションによる検 討 -	2014年9月4日	日本音響学会 2014年秋季 研究発表会 北海学園大学	五十嵐茂, 竹内真一
Durability Test and Observation on Non- Linear Distortion in Output Waveform of Anti-Cavitation Hydrophone in High Intensity Ultrasound	2014年9月4日	IEEE International Ultrasonics sympojium 2014 (IUS2014) in Chicago U.S.A	Nagaya Okada1, Michihisa Shiiba2, Takeyoshi Uchida3, Masahiro Yoshioka3, Tsuneo Kikuchi3, Minoru K. Kurosawa4, Shinichi Takeuchi
高強度超音波測定用堅牢ハイドロホンの開 発	2014年10月18日	日本超音波医学会第26回関 東甲信越地方会、日本超音 波医学会・基礎技術研究会 の共催	椎葉倫久、岡田長也、内田武吉、 黒澤 実, 竹内真一
“Observation of cavitation bubbles and acoustic streaming in focused ultrasound field sono-chemi luminescence and particle image velocimetry”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Yuuki Uemura, Kazema Sasaki, Kyohei Minami , Pak-Kon Choi, Toshio Sato, Shinichi Takeuchi
Development of High Intensity Ultrasonic Source using Multiple Acoustic Waveguide - Considering by Two-Dimensional Acoustic Field Simulation-	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Shigeru Igarashi, Shinichi Takeuchi
Basoc Consideration on dual-tranceducers- type CS-USM with hydrothermally synthesized PZT polycrystalline film transducers	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Seiya OZEKI, Toshinobu Abe, Tadashi Moriya, Takasuke irie,
Fabrication and estimation of durability of tough hydrophone	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Micjihisa Shiiba, Nagaya Okada, Takeyoshi Uchida, Minoru Kurosawa and Shinichi Takeuchi
Basic Reasearch on the effect of Ultrasound irradiation on the survival Rate of Pancreatic Cancer Cells	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Takaaki Satou, Hiroyuki Nishimura and Shinichi Takeuchi
Development of Ultrasound Irradiation System for treatment of Brain Cancer Cells - Spurious Wave Propagating on the Surface of Thichness Mode Ultrasound Transducer-	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Yusuke Tanaka and Shinichi Takeuchi
Study on Identification of Damaged Region of Bone Fracture using Surface Acoustic Wave	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Horoki Tooyama and Shinichi Takeuchi
Control of Ultrasonic Acoustic Fields by Multiple Acoustic Waveguides and Piezoelectric Transducers	2014年11月16日	The Fifth International Conference on Sensor Device Technologies and Applications SENSORDEVICES 2014 in Lisbon, Portugal	Shigeru Igarashi, Shinichi Takeuchi
2. II-shaped Coiled Stator Ultrasound Motor for Rotating Ultrasound Sensor in Intravascular Ultrasound Imaging	2014年11月20日	The Fifth International Conference on Sensor Device Technologies and Applications SENSORDEVICES 2014 in Lisbon, Portugal	Toshinobu Abe, Tadashi Moriya, Takasuke Irie, Masakazu Satou, Shinichi Takeuchi

強力超音波音場におけるキャビテーションバブルと音響流の観測	2014年12月5日	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム2014 (USE2014)	植村 友樹、佐々木 一真、三並京平、崔 博坤、佐藤 敏夫、竹内真一
水熱合成法を用いた PZT 多結晶膜の核形成に関する基礎検討	2014年12月5日	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム2014 (USE2014)	阿部 峻靖、大関 誠也、黒沢 実、竹内 真一
水熱合成法を用いたPZT多結晶膜への成膜範囲の制御に関する基礎検討	2014年12月5日	超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム2014 (USE2014)	大関 誠也、阿部 峻靖、黒沢 実、竹内 真一
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
「水熱合成法によるハイドロホンの開発」	2011年4月1日～現在	本多電子株式会社	
「高出力超音波音場計測とその応用に関する研究」		独立行政法人産業技術総合研究所	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
IEEE、MRS、電子情報通信学会、日本音響学会、日本超音波医学会、日本脳神経超音波学会、日本非破壊検査協会、材料技術研究協会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波検査士制度委員会委員(基礎領域・領域副責任者)	
2008年05月～現在	日本音響学会・研究発表会・プログラム編集委員	
2011年5月～現在	超音波シンポジウム論文委員会委員	
2009年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員	
2009年05月～現在	日本超音波医学会・超音波工学フェロー	
2009年08月～現在	日本超音波医学会・超音波専門医制度委員会委員(基礎領域・領域責任者)	
2010年04月～現在	日本超音波医学会・代議員	
2012年11月～現在	日本超音波医学会・関東甲信越地方会・第25回学術集会・実行委員	
2010年04月～現在	電子情報通信学会・シニア会員	
2011年04月～現在	電子情報通信学会・超音波専門委員会委員(再任)	
2013年04月～2015年03月	日本音響学会・理事(国際渉外担当)	
2014年04月～2015年03月	2016年日米音響学会・ジョイントミーティング・プログラム委員会委員	
2014年04月～現在	日本超音波医学会・基礎技術研究会・代表	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
横浜地方裁判所裁判所委員	2012年4月～現在	横浜地方裁判所



出生年：1955(昭和30)年
 在籍：1994(平成6)年4月～
 最終学歴：長岡技術科学大学大学院情報制御工学専攻博士後期課程修了
 学位：工学博士
 学位論文：レジスタ転送レベルのハードウェア設計における機能検証
 専門分野：(情報処理工学)最適化アルゴリズム、(電子工学)携帯医療機器のハードとソフト
 前職：株式会社日立製作所中央研究所客員研究員
 学内役職等：精密加工センター長 (2011～2013)
 (前年度学内役職等)：ロボット工学科長、精密加工センター長 (2011年度)
 留学：
 資格：アマチュア無線技士(電話級)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)学部の現在全担当科目用のホームページを作成し、一部の授業の講義内容をそのページで公開	2009年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/education_j.html
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)幾つかの科目の教科書や参考書等を作成	2007年～現在	公開ページのリンクは、下記の通りである。 http://www.cc.toin.ac.jp/sc/palacios/portal/books_j.html
4.その他教育活動上特記すべき事項		
(1)日本ペルー共生協会のNPOのボランティア・グループで外国籍の児童等の教育	2001年～現在	文化庁や国際移住機関駐日事務所「IOM」と日本国文部科学省の支援事業等の補助金で色々な補習や就学支援の教室やコース等の活動に関わっている。 http://www.ajape.org/

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
乳癌の再発生の予測、および乳癌の発生(良性/悪性)の予測用のアルゴリズムに関する研究は進んだ。再発生に関する結果はスペインに行われた国際学会に口頭発表ができ、発生に関する結果は中国に行われた国際学会でその研究の行った学生が口頭発表した。

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“A Method to Select a Good Setting for the kNN Algorithm when Using it for Breast Cancer Prognosis”	2014年6月2日	2nd. IEEE Biomedical and Health Informatics 2014 Spain, Sevilla Abstract— Breast cancer is the world’s second most frequent type of cancer and in Japan it is the third most frequent one. The prognosis of its recurrence, after a first treatment, is very important to increase the survival rate of a patient. This work shows the application of the k-Nearest Neighbors (kNN) method to prognosis breast cancer and also proposes a method to select a good setting with the parameters that can be changed when using this classification method. Using our method with the Wisconsin’s breast cancer prognosis data, the kNN method has an average accuracy of 76%, a small standard deviation, and a small difference between its maximum and minimum values. http://bhi.embs.org/2014/	Palacios Pawlovsky, Alberto , Nagahashi, Mai
“A Detailed Description of the Use of the kNN Method for Breast Cancer Diagnosis”	2014年10月15日	7th International Conference on Biomedical Engineering and Informatics (BMEI 2014) Dalian, China	Katsuyoshi Odajima , Alberto Palacios Pawlovsky

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
ペルー工学会、IEEE(Senior Member)、電子情報通信学会(IEICE)、およびACMの各会員		
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
NPOの日本・ペルー共生協会	2002年から現在まで	理事長

宮坂 力 (みやさか つとむ) 教授



出生年：1953(昭和28)年
 在籍：2001(平成13)年12月～
 最終学歴：東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻博士課程
 学位：工学博士
 学位論文：光合成初期過程の電気化学シミュレーション
 専門分野：光電気化学、環境エネルギー科学
 前職：富士写真フイルム足柄研究所主任研究員
 学内役職等：研究推進部長(2012)
 留学：カナダ・ケベック大学トリビエール校生物物理学科(1979～1980)
 資格：危険物取扱甲種主任
 受賞・表彰：2002年 (財)化学技術戦略推進機構「アカデミアショーケース」
 2004年 横浜市ベンチャービジネスプランコンテスト「アカデミー賞」
 2005年 Scientific American 50 selection (2005)
 2009年 GSC(グリーンサステナブルケミストリー)・文部科学大臣賞
 2012年 日本写真学会 学術賞
 2013年 日本学術振興会175委員会 イノバイティブPV賞

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
Encyclopedia of Applied Electrochemistry	共著	2014年6月	Springer, New York	宮坂 力	
"Emergence of Hysteresis and Transient Ferroelectric Response in Organo-Lead Halide Perovskite Solar Cells"	共著	2014年12月15日	J. Phys. Chem. Lett., 2015, 6 (1)	Hsin-Wei Chen, Nobuya Sakai, Masashi Ikgami, Tsutomu Miyasaka	pp 164–169
(総説・論説)					
「有機無機ペロブスカイト太陽電池の構造設計と高効率化」		2014年7月31日	太陽エネルギー Vol.40 No.4	宮坂 力, 池上 和志, Ajay Kumar Jena, Hsin-Wei Chen, Kuan-Lin Wu, Xiao-Feng Wang, 酒井誠弥, 古郷敦史, 實平義隆, 沼田陽平, 石井あゆみ	25-32頁
「高効率ペロブスカイト太陽電池の構造設計」	共著	2014年12月15日	ペロブスカイト太陽電池の開発と最新技術	宮坂 力, 池上和志, 陳信偉, 吳冠霖, 古郷敦史, 實平義隆, 沼田陽平	126-138頁
(学術論文)					
"Quantum conversion enhancement with TiOx compact layer for ITO plastic film-based low-temperature-processed dye-sensitized photoelectrode"	共著	2014年4月14日	ChemPhysChem,15	S. Morita, M. Ikegami, T. -C. Wei, and T. Miyasaka	pp.1-5
"A metallocene molecular complex as visible-light absorber for high-voltage organic-inorganic hybrid photovoltaic cells"	共著	2014年4月14日	ChemPhysChem, 15	A. Ishii and T. Miyasaka	pp.1028-1032

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
"Hybrid mesoscopic solar cells based on organo metal halide perovskite and organo metal pigments combined with crystalline and non-crystalline hole conductors "	2014年4月21日～ 4月25日	The 2014 MRS Spring Meeting, San Francisco, California (国際学会)	T. Miyasaka, A. K. jena, N. Sakai, and A Ishii
"Evolution of perovskite-based and hybrid solar cells of high voltage"	2014年5月11日～ 5月14日	HOPV 2014 conference, Lausanne, Switzerland	T. Miyasaka
Plastic Dye-sensitized Cells Productive Making by Low-temperature TiO2 Spray Coating Method	2014年5月11日～ 5月14日	HOPV 2014 conference, Lausanne, Switzerland	K. Aoyama, M. Ikegami, T. Miyasaka
The Study of Optical Properties of Organic-Inorganic Multi-layered Perovskites and Application for CH3NH3PbX3 (X=Br, I) Sensitized Photovoltaic Cells	2014年5月11日～ 5月14日	HOPV 2014 conference, Lausanne, Switzerland	A. Kojima, K. Teshima, M. Ikegami, T. Miyasaka
Plastic nano-platinum counter electrode for efficient and durable DSSC	2014年5月11日～ 5月14日	HOPV 2014 conference, Lausanne, Switzerland	T-Y. Hsieh, T-C. Wei, M. Ikegami, T. Miyasaka
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「有機/無機ハイブリッド太陽電池～徹底解説～安価で高効率なペロブスカイト型太陽電池を詳解～」	2014年4月1日	Electronic Journal 第2167回 Technical Seminar	連合会館(東京・御茶ノ水)
「ペロブスカイト薄膜太陽電池の材料開発と最新技術」	2014年5月23日	高効率ペロブスカイト型太陽電池の開発 光機能材料研究会第48回講演会	東京大学先端科学技術センター
「高効率ペロブスカイト型太陽電池の開発」	2014年5月23日	光機能材料研究会第48回講演会「ペロブスカイト薄膜太陽電池の材料開発と最新技術」	東京大学先端科学技術センター
「次世代太陽電池の開発動向」	2014年5月26日	第6回しずおか大セミナー 未来を拓く新エネルギー～太陽光発電の現在と未来～	静岡県工業技術研究所講堂(静岡県・葵区)
「有機無機ハイブリッド太陽電池の技術動向と高効率化」	2014年5月30日	サイエンス&テクノロジー(株)主催セミナー	大田区産業プラザ6階D会議室
"Development of hybrid solar cells with organo-metal-halide perovskite absorbers capable of high voltage"	2014年6月3日	第3回有機系太陽電池のつくば地区交流会	(独)物質・材料研究機構千現地区(茨城県・筑波)
「有機無機ハイブリッド型太陽電池とその研究開発における化学材料界面評価へのニーズ」	2014年6月4日	「化学材料界面分析会」・「機能性原紙薄膜分科会」合同講演会・討論会	産業技術総合研究所(茨城県・筑波)
「ペロブスカイト光吸収材料による高効率光電変換の技術と将来予測」	2014年6月27日	第11回 日本写真学会光機能性材料セミナー	東京工芸大学 中野キャンパス「芸術情報館」3階
「有機無機ハイブリッド高効率太陽電池の開発」	2014年6月27日	有機エレクトロニクス材料研究会 第205回研究会	新宿NSビル(東京・新宿)
「有機無機ペロブスカイトを用いるハイブリッド太陽電池」	2014年7月11日	第33回電子材料シンポジウム	ラフォーレ修善寺(静岡・伊豆市)
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「NEDO太陽光発電システム次世代高性能技術の開発」	2010年4月～現在	受託テーマ「フィルム型軽量低価格色素増感太陽電池の研究開発」、産学連携型	
「有機無機ハイブリッド太陽電池の高効率化開発」	2013年10月～現在	科学技術振興機構(JST)、先端的低炭素化技術開発(ALCA)による研究助成、代表:桐蔭横浜大学(担当:宮坂力)	
「有機金属のメゾ構造体ハイブリッド化による物質変換と高機能化」	2014年4月～2019年度	科学研究費補助金・基盤B 研究助成	

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
"Hybrid mesoscopic solar cells based on organo metal halide perovskite and organo metal pigments combined with crystalline and non-crystalline hole conductors "	2014年4月21日～25日	The 2014 MRS Spring Meeting, San Francisco, California
"Evolution of perovskite-based and hybrid solar cells of high voltage"	2014年5月11日～14日	HOPV 2014 conference, Lausanne, Switzerland

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本化学会、電気化学会、光化学協会、高分子学会、アメリカ電気化学会、MRS (Material Research Society)、写真学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2004年4月～現在	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 技術委員(若手研究ナノテクノロジー分野評価委員)
2009年4月～現在	(独)科学技術振興機構(JST) 国際科学技術協力推進委員、審査委員
2010年4月～現在	研究開発支援プログラム(FIRST) サブテーマリーダー
2010年4月～現在	(社)電気化学会評議員
2012年～現在	日本学術振興会、科学研究補助金評価委員

阿部 憲二 (あべ けんじ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
 在籍：2002(平成14)年9月～
 最終学歴：サンフランシスコ大学教育学部博士課程
 国際化に伴う社会教育学科修了
 学位：教育学博士(Ed.D.)
 学位論文：Achieving High Oral Proficiency Levels in ESL
 専門分野：国際社会病理
 前職：北カリフォルニア大学助教授・マリン郡短期大学講師
 学内役職等：国際交流委員(2012～)
 留学：アリゾナ州立大学(1984.6～1985.5)
 サンフランシスコ大学(修士:1990.6～1991.5、博士:2000.1
 ～2001.12)
 資格：中学1級・高校2級教員免許、英検1級
 上級心理カウンセラー、サイコパス診断資格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
コミュニケーション上達のための独自テキスト使用	2005年4月～	英語コミュニケーション(I～IV)に関しては、すべて自作のテキストを使用し、話す・聴く・渡米実践編(下・上)と学生たちに必要とされるであろう前半を攻略する独自のシステムを確立し、授業アンケートでも上位に評価され、医用工学部長からも認められる。
米国のESL教授法に則った最先端の英語教授法を展開	2005年4月～	英語III・IVに関しては、学生たちが専門研究に進んだ場合に必要となる英語論文及び国際学会に対応することを想定した実践を最重視した独自の授業を展開。
2.作成した教科書、教材、参考書		
「英会話攻略はこれしかない」(洋泉社)を副読本として使用	2005年4月～	初級レベルからネイティブレベルに到達するまでの英会話上達の5ステップを具体的に説明。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
アメリカの凶悪犯罪の分析を通し、日本社会の安全なあり方を提言

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会等における役職等	
2009年8月～現在	府中刑務所篤志面接員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
府中刑務所	2012年9月～現在	入所者及び満期出所者オリエンテーション担当講師 受刑者心理カウンセリング

池上 和志 (いけがみ まさし) 准教授



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院化学研究科化学専攻修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：Photochemical Reactions of Intra- and Intermolecularly Hydrogen Bonded Compounds (分子内及び分子間水素結合系の光化学反応に関する研究)
 専門分野：光化学、光電気化学
 前職：ペクセル・テクノロジーズ(株) 研究開発部博士研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：甲種危険物取扱者
 非常勤講師：
 受賞・表彰：グリーンサステナブルネットワーク文部科学大臣賞(2009)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
色素増感太陽電池実験キットの実用化と、学生実験での採用。高校生、中学生等への教育	2008年～	色素増感太陽電池の実験キットを活用して、環境問題、エネルギー問題を考える授業を展開。科学館、高校等でも小学生、中学生、高校生向けの講座を実施。
2.作成した教科書、教材、参考書		
色素増感太陽電池実験キット	2008年～	プラスチックフィルムを使い、きわめて安全な方法により、太陽電池を作製することができる実験キット。特開2008-198488

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
色素増感太陽電池の研究における新規の光増感剤の検討の中から見出されたペロブスカイト型化合物を用いた新規の固体型有機無機ハイブリッド太陽電池の研究を進めた。ペロブスカイト太陽電池は、その高いエネルギー変換効率のみならず、低照度下のマイナス1ボルト以下のバイアス電圧印加状態において、高感度光センサーとして機能することを見出した。また、ペロブスカイト太陽電池の宇宙機搭載の基礎検討を開始した。JAXA(宇宙航空研究開発機構)にサンプルを提供し、真空下における放射線・陽子線の暴露試験等も行った。 研究成果については、電気化学会のセミナーなどで、その測定手法などの普及活動を行った。また、7月と8月には、産総研その他におけるサイエンスイベントに参加し、色素増感太陽電池のデモンストレーションを行った。7月には、太陽光発電の国際展示会PVJAPANでの展示発表を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「2014色素増感太陽電池の全貌★徹底解説」～基礎・現状・開発動向・最新成果・応用展開などを詳解～	単著	2014年12月24日	電子ジャーナル		160頁
(総説・論説)					
「有機無機ペロブスカイト太陽電池の構造設計と高効率化」		2014年7月31日	太陽エネルギー Vol.40 No.4	宮坂 力, 池上 和志, Ajay Kumar Jena, Hsin-Wei Chen, Kuan-Lin Wu, Xiao-Feng Wang, 酒井誠弥, 古郷敦史, 實平義隆, 沼田陽平, 石井あゆみ	25-32頁

「色素増感太陽電池と新展開」	単著	2014年12月15日	次世代プリンテッドエレクトロニクス技術(シーエムシー出版)	池上和志	
「高効率ペロブスカイト太陽電池の構造設計」	共著	2014年12月15日	ペロブスカイト太陽電池の開発と最新技術	宮坂 力, 池上和志, 陳信偉, 呉 冠霖, 古郷敦史, 實平義隆, 沼田陽平	126-138頁
「フレキシブル有機系太陽電池」	単著	2015年1月30日	透明ポリマーの材料開発と高性能化(シーエムシー出版)	池上和志	
(学術論文)					
“Quantum conversion enhancement with TiO _x compact layer for ITO plastic film-based low-temperature-processed dye-sensitized photoelectrode”	共著	2014年4月	ChemPhysChem, 15	S. Morita, M. Ikegami , T. Miyasaka	pp.1190-1193
“Emergence of Hysteresis and Transient Ferroelectric Response in Organo-Lead Halide Perovskite Solar Cells”	共著	2014年12月15日	J. Phys. Chem. Lett., 2015, 6 (1)	Hsin-Wei Chen, Nobuya Sakai, Masashi Ikegami , Tsutomu Miyasaka	pp 164-169
研究発表・講演の題目		年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名	
Plastic Dye-sensitized Cells Productive Making by Low-temperature TiO ₂ Spray Coating Method		2014年5月11日～5月14日	HOPV 2014 conference, Lausanne, Switzerland	K. Aoyama, M. Ikegami , T. Miyasaka	
The Study of Optical Properties of Organic-Inorganic Multi-layered Perovskites and Application for CH ₃ NH ₃ PbX ₃ (X=Br, I) Sensitized Photovoltaic Cells		2014年5月11日～5月14日	HOPV 2014 conference, Lausanne, Switzerland	A. Kojima, K. Teshima, M. Ikegami , T. Miyasaka	
Plastic nano-platinum counter electrode for efficient and durable DSSC		2014年5月11日～5月14日	HOPV 2014 conference, Lausanne, Switzerland	T-Y. Hsieh, T-C. Wei, M. Ikegami , T. Miyasaka	
有機無機ペロブスカイト太陽電池のI-V特性におけるヒステリシスの解明に関する研究		2014年9月27日	2014年電気化学会秋季大会	Jena Ajay, Chen Hsin-Wei, 古郷敦史, 實平義隆, 池上和志, 宮坂力	
Novel metal complexes as p-type dopants for organic hole transport material for highly efficient perovskite solar cells		2014年9月27日	2014年電気化学会秋季大会	Wu Kuan-Lin, 酒井誠弥, 王 曉峰, 古郷敦史, 小島陽広, 池上和志, 宮坂 力	
規ポリマー正孔輸送層を用いるペロブスカイト太陽電池の特性		2015年3月16日	電気化学会第82回大会	クルカニアシシ, 陳 信偉, 池上和志, 宮坂 力	
Planar構造のペロブスカイト太陽電池における高電圧化と高効率化		2015年3月16日	電気化学会第82回大会	坂ノ下絵里子, Chen, Hsin-Wei, 池上 和志, 宮坂 力	
ペロブスカイト太陽電池の電荷移動過程におけるAl ₂ O ₃ 多孔膜の役割		2015年3月16日	電気化学会第82回大会	古郷 敦史, 池上 和志, 宮坂 力	
フィルム型有機系太陽電池モジュールの産業開発		2015年3月27日	日本化学会第95春季年会(2015)	池上和志	

○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「色素増感フィルム太陽電池の実用化開発と電極作製のためのチタニア低温製膜および耐久性評」	2014年8月22日	技術情報協会	日幸五反田ビル8F
「色素増感太陽電池の開発状況と測定方法について」	2014年10月15日	一般社団法人電子情報産業技術協会 ナノエレクトロニクス標準化専門委員会	一般社団法人電子情報産業技術協会
「2014 色素増感太陽電池の全貌 徹底解説」	2014年11月12日	Electronic Journal 第2403回 Technical Seminar	連合会館(東京・御茶ノ水)
「基礎から解説!ペロブスカイト太陽電池の誕生と歴史、そして未来」	2014年12月12日	2014年 宇宙用太陽電池および関連技術連絡会	ウイック愛知
「色素増感太陽電池の開発動向と計測・評価の課題」	2015年1月29日	JEITAナノエレクトロニクス技術フォーラム - 社会インフラを支える電気エネルギーストレージの開発動向-	東京ビッグサイト
「ペロブスカイト太陽電池の材料特性、構造とプロセス技術」	2015年2月13日	フレキシブル太陽電池の高効率化技術と耐久性試験	技術情報協会セミナールーム(東京・五反田)
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
色素増感型太陽電池、及びその製造方法、並びにその施工方法	2014年6月30日	特許公開2014-120263	学校法人 桐蔭学園 宮坂 力、池上和志 太陽工業株式会社 梶田直人
(その他特記事項)			
NHK水戸放送局 8月21日ニュース つくばエキスポセンター太陽電池実験教室			
「あおば6大学まつり 光をつくってみよう!「おもしろ実験コーナー」」光をつくってみよう。体験実験コーナー2014年8月3日			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
日本化学会、光化学協会、日本光医学・光生物学会、電気化学会、アメリカ電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
2014年1月1日～12月31日	2014年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員	
2015年1月1日～12月31日	2015年国際固体素子・材料コンファレンス論文委員	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
ペクセル・テクノロジー株式会社 取締役	2009年6月～現在	ペクセル・テクノロジー株式会社

佐藤 敏夫 (さとう としお) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：1997(平成9)年12月～
 最終学歴：慶應義塾大学工学部計測工学科
 桐蔭横浜大学大学院工学研究科博士後期課程制御システム工学専攻
 東京女子医科大学医学部研究生
 学位：博士(医学)、博士(工学)
 学位論文：Evaluation of blood access dysfunction based on a wavelet transform analysis of shunt murmurs (医学博士論文)
 非線形破壊力学に基づいた歯科用低溶陶材の信頼性評価に関する研究(工学博士論文)
 専門分野：生体工学、破壊力学、音響工学、臨床工学
 前職：(株)東京計器 MRDセンター副主事
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長(2013～)
 留資格：第1種ME技術実力検定試験合格、第2種ME技術実力検定試験合格、臨床工学技士免許
 非常勤講師：千葉科学大学危機管理学部医療機器管理学科
 読売医療福祉専門学校臨床工学専攻科
 受賞・表彰：科学技術庁から第51回注目発明選定証を受賞(1992)
 2002年度材料技術研究協会討論会 技術賞
 2003年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2008年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞(腎臓)
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
2014年度に実施した主な研究テーマとして、生体音の時間-周波数解析に基づく生体機能評価方法の提案、血液透析用穿刺針やダブルルーメンカテーテルの最適形状の提案を目的とした実験および有限要素法を用いた理論解析、人工心肺回路や血液透析用回路内の血液凝固の早期検出を目的としたシステムの開発などを行った。研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、米人工臓器学会等で発表し、第52回日本人工臓器学会では第1回萌芽研究ポスターセッションにおいて優秀賞を受賞した。また、どのテーマも臨床業務に携わる臨床工学技士をはじめとする医療従事者や医療機器メーカーの開発担当者からのニーズを反映した開発要素を含むことから、高い評価を得ている。次年度以降も安全な医療の提供に貢献できる技術開発を実施していく予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「再循環率に基づいたダブルアクシヤル型及びコアクシヤル型DLCの性能評価」	共著	2014年6月15日	人工臓器 43巻 1号 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞:腎臓 受賞レポート	大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	51頁
(学術論文)					
「シャント音の基準化持続時間に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試み」	共著	2014年11月12日	医工学治療 Vol.26 No.3	本橋由香, 佐々木一真, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	145-154頁
「擬似血管狭窄モデルの流れの可視化に基づいたシャント音発生メカニズムの実験的検証」	共著	2014年11月12日	桐蔭論叢 第30号	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	137-145頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価」	2014年5月26日	電子情報通信学会・日本音響学会 超音波研究会 (機械振興会館)	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「CFD解析を用いた静脈側エアトラップチャンバ最適形状の基礎検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	山内 忍, 丸下洋一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「複数狭窄病変モデルにおける擬似シャント音に対する実験的検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	佐々木一真, 白田 豪, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「サイドホール型ダブルルーメンカテーテル(DLC)の脱血孔・返血孔形状が再循環に与える影響に関するCFD解析」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	丸下洋一, 大城寿乃, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三, 増田俊輔, 宗像佳克
「透析用血液回路における血液凝固の専属的検出方法の検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Quantitative Evaluation of the Relationship Between Shunt Murmur Characteristics and Fluid Parameters”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Quantitative Evaluation of Improvement of Swallowing Function by Swallowing Viscosity Adjusted Foods and Carbonated Beverages”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental Investigation of The Effects of Pressure Guide Wire Thickness on Fractional Flow Reserve Using Coronary Stenosis Models”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Masato Takenaka, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato
“Evaluation of Vascular Access Function Based on the Normalized Duration Time of Shunt Murmurs”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Yuka Motohashi, Shinobu Yamauchi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Flow Analysis of the Tip of a Hemodialysis Puncture Needle Based on Computational Fluid Dynamics”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Yoichi Marushita, Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Optimizing the Shape of Hemodialysis Puncture Needles Based on Measurement of Pressure Distribution Inside the Needle”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Satomi Takahashi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental study of Recirculation rate in coaxial double lumen catheter”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Hisano Oshiro, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「定在波音波・集束音場における音響キャビテーションと音響流のSCL、超音波診断装置、PIVを用いた観測」	2014年9月3日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	植村友樹, 佐々木一真, 栗田実沙, 崔博坤, 佐藤敏夫, 竹内真一
「擬似血管狭窄モデルを用いた血液透析患者のシャント音と狭窄形状の関係に関する実験的検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	佐々木一真, 白田 豪, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音信号のスプライン近似による非侵襲的嚙下機能評価の試み」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「体外循環における血液回路内血流音の時間-周波数解析による回路内凝固検出方法の検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「流れ-構造連成解析による血液透析患者のシャント音の発生メカニズムに関する理論的検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 中根紀章, 阿岸鉄三
「コアクシヤル型ダブルルーメンカテーテルの各種パラメータが再循環率に与える影響と他のDLCとの比較」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	大城寿乃, 滝川千恵美, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象発生の定量評価とDLCごとの比較検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液凝固の進展に伴う音速変化測定による回路内凝固検出方法の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐藤敏夫, 坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「透析用血液回路静脈側エアトラップチャンバの最適形状に関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	山内 忍, 丸下洋一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管内シャント吻合部におけるシャント音発生メカニズムに関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	中根紀章, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「透析用血液回路内雑音の連続モニタリングによる回路内圧凝固発生の検出」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用穿刺針内部の圧力分布測定による穿刺針形状の最適化の試み」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	高橋怜美, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「有限要素法を用いた血液透析用穿刺針の最適形状に関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	田口友樹, 丸下洋一, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音信号の3次スプライン補間による嚙下機能の定量化の試み」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 野田彩華, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「レーザー回折法を用いた血液回路における凝固検出方法の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	可児雅弥, 坂元英雄, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「多波長吸光度の連続モニタリングによるPCPS回路内における血液凝固の発生検出」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	坂元英雄, 可児雅弥, 土屋浩希, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「ウェーブレット変換による非侵襲かつ簡便な透析用血液回路内凝固の連続モニタリング」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管狭窄部における血管振動発生メカニズムのCFD解析」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 中根紀章, 阿岸鉄三
「嚙下音信号のスプライン補間に基づく嚙下機能評価の定量化と嚙下反射誘発効果の評価」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	佐々木一真, 臼田 豪, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「シャント音持続時間の定量化による血管分岐がある場合におけるシャント機能評価の試み」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	佐々木一真, 臼田 豪, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

“Quantitative evaluation of vessel wall clinging with DLC for hemodialysis and comparison of catheters”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Chiemi Takikawa , Hisano Oshiro , Momoko Kobayashi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Quantitative evaluation of swallowing function based on spline interpolation of swallowing sound signals”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Kazuma Sasaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Blood clotting detection methods for blood circuits by measurement of laser light scattering”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Masaya Kani , Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Detection of blood clotting in PCPS circuits by continuous monitoring of light absorbance over multiple wavelengths”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Hideo Sakamoto, Masaya Kani , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Experimental study on the effects of collateral blood flow on fractional flow reserve using a collateral blood flow controller”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Masato Takenaka, Sakiho Akimoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato
“Optimization of hemodialysis puncture needle shape based on pressure distribution inside the needle”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Satomi Takahashi , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Theoretical study of the optimum shape of hemodialysis puncture needles using computational fluid dynamics”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Yuki Taguchi, Yoichi Marushita , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Observation of cavitation bubbles and acoustic streaming in focused ultrasound field sono-chemi luminescence and particle image velocimetry”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Yuuki Uemura, Kazema Sasaki, Kyohei Minami , Pak-Kon Choi, Toshio Sato , Shinichi Takeuchi
“Functional evaluation of vascular access by quantitation of shunt murmur duration ”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Kazuma Sasaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Methods for detecting intracircuit blood clotting by time-frequency analysis of intracircuit blood flow sounds in extracorporeal circulation”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Shimazaki Naoya, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Effect of various parameters of coaxial double-lumen catheters (DLCs) on recirculation rate and comparison with other DLCs”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Hisano Oshiro, Chiemi Takikawa, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
血液透析用留置針の最適形状に関する検討	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	山内 忍, 高橋怜美, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
透析用血液回静脈側エアトラップチャンバ形状に関する検討	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	山内 忍, 丸下洋一, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三,
血液透析回路内血流音の連続モニタリングによる回路内凝固の非侵襲かつ専属的検出	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
嚙下音の時間-周波数分析による嚙下反射促進効果の定量的判定の試み	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「萌芽研究ポスター優秀賞」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫 , 阿岸鉄三
“Poster Session Award”	2014年11月8日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2014	Kazuma Sasaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
ASAIO 60th annual conference	2014年6月18日～21日	Washington DC (米国)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「再循環率に基づいたダブルアクシャル型およびコアクシャル型DLCの性能評価」	2014年6月15日	人工臓器43巻1号 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞:腎臓 受賞レポート 大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「透析患者の誤嚥性肺炎の予防を目的とした研究」	2014年7月23日	臨床工学ジャーナル クリニカルエンジニアリング Vol.25 No.7 木村昌功, 佐々木一真, 佐藤敏夫 690-691頁
日本医工学治療学会 第31回学術大会 シンポジウム10 医工学治療におけるコメディカル臨床工学技士の役割 座長、(2014年3月27日～29日)		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本医工学治療学会、日本透析医学会、日本医療機器学会、日本臨床工学技士会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 評議員
2009年1月～現在	日本医工学治療学会 編集委員

森下 武志 (もりした たけし) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院工学府博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：小型両眼視覚ロボットと教育への展開
 専門分野：医用システム統合工学、福祉環境工学、教育工学
 前職：神奈川県教育委員会職員 教諭 主任主事兼務(2004)
 学内役職等：入試広報副センター長 (2013～)
 留学：東京大学大学院知能機械情報学系研究科 情報システム工学研究室(井上・稲葉研究室)内地留学(2003)
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：3rd International Micro-Mechanism Contest Excellent Award (2009)
 第26回全国高等学校総合文化祭 ロボットコンテスト(相撲ロボット自立型部門)優勝(2002)
 第12回全日本ロボット相撲 in USA 国際大会 自立型 サンプルランシスコ場所 準優勝(2000)
 神奈川県知事賞受賞(1995,1996,1997,1998,2002,2011)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)資格試験対策の効果的教育法への取り組みと指導	2013年3月～現在	第2種ME技術実力検定試験の試験対策学習方の実践
(2)医用工学部学生へのものづくり体験の推進・指導	2012年4月～現在	時間的制約を考慮した実践的ものづくり教育の展開
(3)福祉住環境教育に対する学習促進	2013年4月～現在	高齢化・福祉・居住環境に関する意識付けと動機を喚起する教育の実践
(4)医療系学生への工作機械を用いた機械加工工学と体験的学習の指導	2013年4月～現在	医療系技術者育成における、工作物が製造されるまでの設計・製図・加工・評価の一連の流れを体験させ実践力を養う指導を実践
(5)医療系学生への工学的実験検証体験の指導	2014年4月～現在	座学で学ぶ工学的理論を、実験によって確認させることでより深い理解力を養う指導を実践
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)科目:医用工学総論 I	2012年4月～現在	3段式の復習を実現する第2種ME技術実力検定試験対策指導テキストと問題の作成
(2)科目:工学WS I 実習教材	2012年4月～現在	各種計測機器、設計製図、機械加工、実験の評価を系統立てた実践的教材とテキスト開発
(3)科目:工学WS II 実習教材	2012年4月～現在	実験計測と誤差、および統計的処理方に関する、実践的テキスト開発と実験での体験教育
(4)科目:福祉工学	2013年4月～現在	高齢社会、障害者など一般社会人として医療技術者として有用な知識を検定試験形式での教育教材の開発と実践
(5)科目:基礎工学実験教材	2014年4月～現在	交流回路実験を通して、波形、回路、位相、ベクトル等を座学や国試験問題等の裏付けを実験的に検証する教材開発
(6)科目:医用電磁気学	2014年8月～現在	ME検定試験、国家試験の電気系全般に網羅する範囲を確実な資格試験対応力を養う演習教材の開発

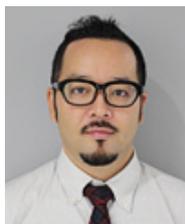
II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
孤独死防止をめざし単居高齢者支援システムを試行した高齢者支援地域社会モデルの社会実験実施先施設職員の意見	2014年5月26日	日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会'14 講演論文集,1P1-B01	持田 信二郎, 津田裕也, 森下 武志
貯血槽の重量計測による人工心肺自動制御化への取り組み	2015年9月3日	第33回日本ロボット学会学術講演会' 講演論文集, 1J2-06	小林悦弘, 高倉祥平, 森下 武志
貯血槽の液量レベル量子化に関する検討	2014年9月6日	日本ロボット学会学術講演会'14 講演論文集, 3H3-04	岩田詩紋, 小林悦弘, 高倉祥平, 森下 武志
人工心肺装置のデジタル化と自動制御に関する検討	2014年9月6日	日本ロボット学会学術講演会'14 講演論文集, 3H3-05	川島朋之, 高倉祥平, 森下 武志
人工心肺の自動制御時におけるローラーポンプの応答性調査	2014年11月12日	第57回自動制御連合講演会'14 概要集, 3A05-5	小林悦弘, 高倉祥平, 森下 武志
人工心肺貯血槽の液量レベルリニアセンシングデバイスに関する調査	2015年1月9日	日本機械学会 第27回バイオエンジニアリング講演会, 講演論文集,1G36	小林悦弘, 高倉祥平, 森下 武志
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
医療機器のスペシャリストを養成	2014年12月10日	大学新聞	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本ロボット学会、日本機械学会

石河 睦生 (いしかわ むつお) 専任講師



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2011(平成23)年4月～
 最終学歴：東京工業大学大学院総合理工学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：水熱合成法による圧電性多結晶膜の成膜と超音波トランスデューサへの応用
 専門分野：超音波工学、制御システム、電子機能システム、応用物理、人間工学
 前職：東京工業大学大学院 研究員、東京大学大学院 特任助教
 学内役職等：
 留学：University of Southern California (USA) (2009年11月～2010年10月)
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2003年度材料技術研究協会学生論文賞(2003年)
 第25回超音波エレクトロニクス基礎と応用に関するシンポジウム奨励賞(2004年)
 平成21年度 コニカミノルタ画像科学奨励賞 (2009年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業外における定期的な補講の実施	2011年4月～	物理学や電気工学の基礎に関する補講の実施
2.作成した教科書、教材、参考書		
実験系授業における教材	2011年4月～現在	工学ワークショップ、基礎工学実験、医用工学実験における各授業での教材の作成と資料配付
第2種ME試験対策用教材	2012年4月～現在	試験対策用に勉強期間を設定し、8種類の資料作成と配布
物理学、電気工学、人間工学におけるそれぞれの教材	2013年4月～現在	前期後期共に、各授業15回分の授業における教材資料の作成と配付

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称 (学術論文)	単著・共著の別	発行または発表の年	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
“ Ferroelectric and piezoelectric properties of KNbO ₃ films deposited on flexible organic substrate by hydrothermal method”	共著	2014年	Jpn. J. Appl. Phys., 53,	Takahisa Shiraishi, Noriyuki Kaneko, Mutsuo Ishikawa , Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida and Hiroshi Funakubo	09PA10

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
(国際会議)			
“Low temperature deposition of KNbO ₃ film by hydrothermal method and their characterization”	2014年6月	The 31th Meeting on Ferroelectric Materials and Their Applications (FMA-30)	Takahisa Shiraishi, Noriyuki Kaneko, Mutsuo Ishikawa , Minoru Kurosawa, Hiroshi Uchida and Hiroshi Funakubo
(招待講演)			
「圧電薄膜を用いた高周波強力超音波トランスデューサの開発」	2014年	日本超音波医学会 第87回学術集会p.S710	内田庸助, 亀山大輔, 大関誠也, 保崎 誠, 齋藤美咲, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実, 石河陸生
「メカニカル走査用高周波超音波トランスデューサの開発」	2014年	日本超音波医学会 第87回学術集会, p.S712	亀山大輔, 石田智美, 大関 誠也, 保崎 誠, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実, 山口 匡, 石河陸生
「無配向KNbO ₃ 厚膜を用いた振動子の水中における性能評価」	2014年	2014年度秋期日本音響学会講演論文集, pp.1391-1392	内田庸助, 亀山大輔, 齋藤美咲, 竹内真一, 白石貴久, 舟窪 浩, 黒澤 実, 石河陸生
「KNbO ₃ 単結晶膜を用いた光音響イメージング用超音波トランスデューサの開発」	2014年	2014年度秋期日本音響学会講演論文集, pp.1389-1390	平 健成, 亀山大輔, 内田庸助, 遠藤聡人, 石河陸生
「エピタキシャルPbTiO ₃ 薄膜を用いた高周波超音波トランスデューサの開発」	2014年	2014年度秋期日本音響学会講演論文集, pp.1393-1394	石鳥谷光男, 亀山大輔, 内田庸助, 舟窪 浩, 黒澤 実, 石河陸生
「Ti基板上へのKNbO ₃ 多結晶膜の製膜と振動特性に関する検討」	2014年	2014年度秋期日本音響学会講演論文集, pp.1387-1388	倉橋 匠, 亀山大輔, 白石貴久, 舟窪浩, 黒澤実, 石河陸生
「EVを用いた災害時緊急医療支援活動に関する基礎検討」	2014年	日本臨床工学技士会(2014), Vol.51, PP265	広瀬和紀, 内田庸助, 倉橋 匠, 二宮貴也, 石河陸生 , 米坂知昭, 平井紀光, 川島徳道, 安村佑樹, 村野祐司, 萬 知子
「EVを用いた医療機器稼働の検討」	2014年	日本臨床工学技士会(2014), Vol.51, PP263	安村佑樹, 広瀬和紀, 内田庸助, 倉橋 匠, 二宮貴也, 平井紀光, 米坂知昭, 川島徳道, 石河陸生 , 村野祐司, 萬 知子
「Deposition of polycrystalline KNbO ₃ films for piezoelectric actuators」	2014年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Daisuke KAMEYAMA1 Mitsuo ISHITORIYA2 Saki MATSUOKA2 Mutsuo ISHIKAWA2FUNAKUBO, Minoru KUROSAWA, Mutsuo ISHIKAWA
「Development of mechanical scanning-type ultrasonic probe for high-resolution ultrasound microscopy」	2014年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Takumi KURAHASHI,takahisa SHIRAIISHI,hiroshi HUNAKUBO,minoru KUROSAWA, Mutsuo ISHIKAWA
「Focused high intensity ultrasonic transducer using concave piezoelectric films and their applications」	2014年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	Yohsuke UCHIDA, Motoko SHIBUYA, Daisuke KAMEYAMA, Takahisa SHIRAIISHI, Hiroshi FUNAKUBO, Minoru KUROSAWA, Mutsuo ISHIKAWA
「Development of ultrasonic atomization method for antimicrobial coating with hinokitiol」	2014年11月	Toin International symposium on Biomedical Engineering Toin University of Yokohama	菅野 匠、 石河陸生

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本音響学会、精密工学会、日本超音波医学会、電子情報通信学会、応用物理学会、材料技術研究協会、IEEE、MRS		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年8月～現在	NPO法人健康福祉工学会 理事	
2014年4月～現在	材料技術研究協会 理事	
2014年4月～現在	麗澤会 常任理事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
青葉祭り マルシェ ぶらり～と 青葉台 出店	2014年12月7日	青葉台商店会、桐蔭学園・生涯学習センター

本橋由香（もとはし ゆか）専任講師



出生年：1982(昭和57)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻博士後期課程修了
 学位：博士(工学)
 学位論文：生体音の時間-周波数解析に基づく非侵襲診断方法に関する研究ーバスキュラーアクセス及び嚥下機能評価への適応ー
 専門分野：生体計測、臨床工学
 前職：桐蔭横浜大学職員
 学内役職等：教務委員(2013～)
 留学：
 資格：第2種ME技術実力検定試験合格(2002)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：桐蔭工学会賞(2007)
 2011年度ものづくり技術交流会 ポスター賞
 2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
2014年度に実施した主な研究テーマとして、生体音の時間-周波数解析に基づく生体機能評価方法の提案、血液透析用穿刺針やダブルルーメンカテーテルの最適形状の提案を目的とした実験および有限要素法を用いた理論解析、人工心肺回路や血液透析用回路内での血液凝固の早期検出を目的としたシステムの開発などを行った。研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、米国人工臓器学会等で発表し、第52回日本人工臓器学会では第1回萌芽研究ポスターセッションにおいて優秀賞を受賞した。また、どのテーマも臨床業務に携わる臨床工学技士をはじめとする医療従事者や医療機器メーカーの開発担当者からのニーズを反映した開発要素を含むことから、高い評価を得ている。次年度以降も安全な医療の提供に貢献できる技術開発を実施していく予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「再循環率に基づいたダブルアクシアル型及びコアクシアル型DLCの性能評価」	共著	2014年6月15日	人工臓器 43巻 1号 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞:腎臓 受賞レポート	大城寿乃, 高橋由香, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	51頁
(学術論文)					
「シャント音の基準化持続時間に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試み」	共著	2014年11月12日	医工学治療 Vol.26 No.3	本橋由香, 佐々木一真, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	145-154頁
「擬似血管狭窄モデルの流れの可視化に基づいたシャント音発生メカニズムの実験的検証」	共著	2014年11月12日	桐蔭論叢 第30号	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	137-145頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価」	2014年5月26日	電子情報通信学会・日本音響学会 超音波研究会 (機械振興会館)	佐々木一真, 本橋由香 , 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「CFD解析を用いた静脈側エアトラップチャンバ最適形状の基礎検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	山内 忍, 丸下洋一, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「複数狭窄病変モデルにおける擬似シャント音に対する実験的検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	佐々木一真, 白田 豪, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「サイドホール型ダブルルーメンカテーテル(DLC)の脱血孔・返血孔形状が再循環に与える影響に関するCFD解析」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	丸下洋一, 大城寿乃, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三, 増田俊輔, 宗像佳克
「透析用血液回路における血液凝固の専属的検出方法の検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Quantitative Evaluation of the Relationship Between Shunt Murmur Characteristics and Fluid Parameters”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Quantitative Evaluation of Improvement of Swallowing Function by Swallowing Viscosity Adjusted Foods and Carbonated Beverages”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental Investigation of The Effects of Pressure Guide Wire Thickness on Fractional Flow Reserve Using Coronary Stenosis Models”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Masato Takenaka, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato
“Evaluation of Vascular Access Function Based on the Normalized Duration Time of Shunt Murmurs”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Yuka Motohashi , Shinobu Yamauchi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Flow Analysis of the Tip of a Hemodialysis Puncture Needle Based on Computational Fluid Dynamics”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Yoichi Marushita, Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Optimizing the Shape of Hemodialysis Puncture Needles Based on Measurement of Pressure Distribution Inside the Needle”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Satomi Takahashi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental study of Recirculation rate in coaxial double lumen catheter”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Hisano Oshiro, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「擬似血管狭窄モデルを用いた血液透析患者のシャント音と狭窄形状の関係に関する実験的検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	佐々木一真, 白田 豪, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音信号のスプライン近似による非侵襲的嚙下機能評価の試み」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	佐々木一真, 本橋由香 , 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「体外循環における血液回路内血流音の時間-周波数解析による回路内凝固検出方法の検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「流れ-構造連成解析による血液透析患者のシャント音の発生メカニズムに関する理論的検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 中根紀章, 阿岸鉄三
「コアクシヤル型ダブルルーメンカテーテルの各種パラメータが再循環率に与える影響と他のDLCとの比較」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	大城寿乃, 滝川千恵美, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象発生の定量評価とDLCごとの比較検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液凝固の進展に伴う音速変化測定による回路内凝固検出方法の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐藤敏夫, 坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香 , 阿岸鉄三
「透析用血液回路静脈側エアトラップチャンバの最適形状に関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	山内 忍, 丸下洋一, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管内シャント吻合部におけるシャント音発生メカニズムに関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	中根紀章, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「透析用血液回路内雑音の連続モニタリングによる回路内圧凝固発生の検出」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用穿刺針内部の圧力分布測定による穿刺針形状の最適化の試み」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	高橋怜美, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「有限要素法を用いた血液透析用穿刺針の最適形状に関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	田口友樹, 丸下洋一, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音信号の3次スプライン補間による嚙下機能の定量化の試み」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 野田彩華, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「レーザー回折法を用いた血液回路における凝固検出方法の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	可児雅弥, 坂元英雄, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「多波長吸光度の連続モニタリングによるPCPS回路内における血液凝固の発生検出」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	坂元英雄, 可児雅弥, 土屋浩希, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「ウェーブレット変換による非侵襲かつ簡便な透析用血液回路内凝固の連続モニタリング」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管狭窄部における血管振動発生メカニズムのCFD解析」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 中根紀章, 阿岸鉄三
「嚙下音信号のスプライン補間に基づく嚙下機能評価の定量化と嚙下反射誘発効果の評価」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	佐々木一真, 臼田 豪, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「シャント音持続時間の定量化による血管分岐がある場合におけるシャント機能評価の試み」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	佐々木一真, 臼田 豪, 本橋由香 , 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Effect of various parameters of coaxial double-lumen catheters (DLCs) on recirculation rate and comparison with other DLCs”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Hisano Oshiro, Chiemi Takikawa, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Methods for detecting intracircuit blood clotting by time-frequency analysis of intracircuit blood flow sounds in extracorporeal circulation”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Shimazaki Naoya, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi

“Functional evaluation of vascular access by quantitation of shunt murmur duration”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Kazuma Sasaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Theoretical study of the optimum shape of hemodialysis puncture needles using computational fluid dynamics”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Yuki Taguchi, Yoichi Marushita , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Optimization of hemodialysis puncture needle shape based on pressure distribution inside the needle”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Satomi Takahashi , Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Experimental study on the effects of collateral blood flow on fractional flow reserve using a collateral blood flow controller”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Masato Takenaka, Sakiho Akimoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato
“Detection of blood clotting in PCPS circuits by continuous monitoring of light absorbance over multiple wavelengths”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Hideo Sakamoto, Masaya Kani , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Blood clotting detection methods for blood circuits by measurement of laser light scattering”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Masaya Kani , Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Quantitative evaluation of swallowing function based on spline interpolation of swallowing sound signals”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Kazuma Sasaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi
“Quantitative evaluation of vessel wall clinging with DLC for hemodialysis and comparison of catheters”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Chiemi Takikawa , Hisano Oshiro , Momoko Kobayashi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi , Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
血液透析用留置針の最適形状に関する検討	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	山内 忍, 高橋怜美, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
透析用血液回静脈側エアトラップチャンバ形状に関する検討	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	山内 忍, 丸下洋一, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三,
血液透析回路内血流音の連続モニタリングによる回路内凝固の非侵襲かつ専属的検出	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
嚙下音の時間-周波数分析による嚙下反射促進効果の定量的判定の試み	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	佐々木一真, 本橋由香 , 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「萌芽研究ポスター優秀賞」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 本橋由香 , 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Poster Session Award”	2014年11月8日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2014	Kazuma Sasaki , Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi , Toshio Sato , Tetsuzo Agishi

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
American Society for Artificial Internal Organs 60th annual conference	2014年6月18日～6月21日	WashingtonDC (米国)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「再循環率に基づいたダブルアクシャル型およびコアクシャル型DLCの性能評価」	2014年6月15日	人工臓器43巻1号 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞:腎臓 受賞レポート 大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍, 本橋由香 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医療機器学会、日本音響学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2013年1月1日～2014年12月31日	日本医工学治療学会 評議員

山内 忍 (やまうち しのぶ) 助教



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：桐蔭横浜大学大学院工学研究科医用工学専攻修士課程修了
 学位：工学修士
 学位論文：透析回路内における血液凝固発生の抑圧を目的としたPIVによるドリップチャンバ内の流れの可視化と最適形状の提案
 専門分野：臨床工学、生体機能代行装置学
 前職：日本工学院専門学校臨床工学科
 学内役職等：
 留学：
 資格：臨床工学技士、透析技術認定士、呼吸療法認定士、第2種ME技術実力検定試験合格
 非常勤講師：
 受賞・表彰：2013年度日本医工学治療学会学術大会 優秀演題賞
 2013年度日本人工臓器学会 第51回日本人工臓器学会大会コメディカル賞
 2014年日本人工臓器学会 第52回日本人工臓器学会大会第1回萌芽研究ポスターセッション 優秀賞

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
2014年度に実施した主な研究テーマとして、生体音の時間-周波数解析に基づく生体機能評価方法の提案、血液透析用穿刺針やダブルルーメンカテーテルの最適形状の提案を目的とした実験および有限要素法を用いた理論解析、人工心肺回路や血液透析用回路内での血液凝固の早期検出を目的としたシステムの開発などを行った。研究成果はこれまでと同様に日本人工臓器学会、日本医工学治療学会、日本音響学会、米国人工臓器学会等で発表し、第52回日本人工臓器学会では第1回萌芽研究ポスターセッションにおいて優秀賞を受賞した。また、どのテーマも臨床業務に携わる臨床工学技士をはじめとする医療従事者や医療機器メーカーの開発担当者からのニーズを反映した開発要素を含むことから、高い評価を得ている。次年度以降も安全な医療の提供に貢献できる技術開発を実施していく予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「再循環率に基づいたダブルアクシヤル型及びコアクシヤル型DLCの性能評価」	共著	2014年6月15日	人工臓器 43巻 1号 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞:腎臓 受賞レポート	大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	51頁
(学術論文)					
「シャント音の基準化持続時間に基づくバスキュラーアクセス機能評価の試み」	共著	2014年11月12日	医工学治療 Vol.26 No.3	本橋由香, 佐々木一真, 山内 忍, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三	145-154頁
「擬似血管狭窄モデルの流れの可視化に基づいたシャント音発生メカニズムの実験的検証」	共著	2014年11月12日	桐蔭論叢 第30号	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	137-145頁

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
「血液透析患者のシャント音の時間-周波数解析に基づくバスキュラーアクセス機能評価」	2014年5月26日	電子情報通信学会・日本音響学会 超音波研究会 (機械振興会館)	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「CFD解析を用いた静脈側エアトラップチャンバ最適形状の基礎検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	山内忍, 丸下洋一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「複数狭窄病変モデルにおける擬似シャント音に対する実験的検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	佐々木一真, 白田 豪, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「サイドホール型ダブルルーメンカテーテル(DLC)の脱血孔・返血孔形状が再循環に与える影響に関するCFD解析」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	丸下洋一, 大城寿乃, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 竹内真一, 阿岸鉄三, 増田俊輔, 宗像佳克
「透析用血液回路における血液凝固の専属的検出方法の検討」	2014年6月12日～15日	第59回日本透析医学会学術集会・総会 (神戸国際会議場他)	島崎直也, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Quantitative Evaluation of the Relationship Between Shunt Murmur Characteristics and Fluid Parameters”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Quantitative Evaluation of Improvement of Swallowing Function by Swallowing Viscosity Adjusted Foods and Carbonated Beverages”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental Investigation of The Effects of Pressure Guide Wire Thickness on Fractional Flow Reserve Using Coronary Stenosis Models”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Masato Takenaka, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato
“Evaluation of Vascular Access Function Based on the Normalized Duration Time of Shunt Murmurs”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Yuka Motohashi, Shinobu Yamauchi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Flow Analysis of the Tip of a Hemodialysis Puncture Needle Based on Computational Fluid Dynamics”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Yoichi Marushita, Keiichi Yorizumi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Optimizing the Shape of Hemodialysis Puncture Needles Based on Measurement of Pressure Distribution Inside the Needle”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Satomi Takahashi, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental study of Recirculation rate in coaxial double lumen catheter”	2014年6月18日～21日	American Society of Artificial Internal Organs ASAIO's 60th Annual Conference WASHINGTON, DC	Hisano Oshiro, Shinobu Yamauchi, Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「擬似血管狭窄モデルを用いた血液透析患者のシャント音と狭窄形状の関係に関する実験的検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	佐々木一真, 白田 豪, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音信号のスプライン近似による非侵襲的嚙下機能評価の試み」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	佐々木一真, 本橋由香, 山内忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「体外循環における血液回路内血流音の時間-周波数解析による回路内凝固検出方法の検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	島崎直也, 山内忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「流れ-構造連成解析による血液透析患者のシャント音の発生メカニズムに関する理論的検討」	2014年9月3日～5日	日本音響学会 2014年秋季研究発表会 北海学園大学	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 中根紀章, 阿岸鉄三
「コアクシヤル型ダブルルーメンカテーテルの各種パラメータが再循環率に与える影響と他のDLCとの比較」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	大城寿乃, 滝川千恵美, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用ダブルルーメンカテーテルのへばりつき現象発生の定量評価とDLCごとの比較検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	滝川千恵美, 大城寿乃, 小林桃子, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液凝固の進展に伴う音速変化測定による回路内凝固検出方法の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐藤敏夫, 坂元英雄, 山内 忍, 本橋由香, 阿岸鉄三
「透析用血液回路静脈側エアトラップチャンバの最適形状に関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	山内 忍, 丸下洋一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管内シャント吻合部におけるシャント音発生メカニズムに関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	中根紀章, 島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「透析用血液回路内雑音の連続モニタリングによる回路内圧凝固発生の検出」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「血液透析用穿刺針内部の圧力分布測定による穿刺針形状の最適化の試み」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	高橋怜美, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「有限要素法を用いた血液透析用穿刺針の最適形状に関する理論的検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	田口友樹, 丸下洋一, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「嚙下音信号の3次スプライン補間による嚙下機能の定量化の試み」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 野田彩華, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「レーザー回折法を用いた血液回路における凝固検出方法の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	可児雅弥, 坂元英雄, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「多波長吸光度の連続モニタリングによるPCPS回路内における血液凝固の発生検出」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	坂元英雄, 可児雅弥, 土屋浩希, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「シャント音の持続時間定量化と分岐を有する擬似血管狭窄モデルを用いたバスキュラーアクセス機能評価に対する有用性の検討」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「ウェーブレット変換による非侵襲かつ簡便な透析用血液回路内凝固の連続モニタリング」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
「人工血管狭窄部における血管振動発生メカニズムのCFD解析」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	島崎直也, 山内 忍, 本橋由香, 佐藤敏夫, 中根紀章, 阿岸鉄三
「嚙下音信号のスプライン補間に基づく嚙下機能評価の定量化と嚙下反射誘発効果の評価」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	佐々木一真, 臼田 豪, 本橋由香, 山内 忍, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

「シャント音持続時間の定量化による血管分岐がある場合におけるシャント機能評価の試み」	2014年10月24日	2014年度 神奈川県ものづくり技術交流会 神奈川県産業技術センター	佐々木一真, 臼田 豪, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
“Quantitative evaluation of vessel wall clinging with DLC for hemodialysis and comparison of catheters”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Chiemi Takikawa, Hisano Oshiro, Momoko Kobayashi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Quantitative evaluation of swallowing function based on spline interpolation of swallowing sound signals”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Blood clotting detection methods for blood circuits by measurement of laser light scattering”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Masaya Kani, Hideo Sakamoto, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Detection of blood clotting in PCPS circuits by continuous monitoring of light absorbance over multiple wavelengths”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Hideo Sakamoto, Masaya Kani, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Experimental study on the effects of collateral blood flow on fractional flow reserve using a collateral blood flow controller”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Masato Takenaka, Sakiho Akimoto, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato
“Optimization of hemodialysis puncture needle shape based on pressure distribution inside the needle”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Satomi Takahashi, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Theoretical study of the optimum shape of hemodialysis puncture needles using computational fluid dynamics”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Yuki Taguchi, Yoichi Marushita, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Effect of various parameters of coaxial double-lumen catheters (DLCs) on recirculation rate and comparison with other DLCs”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Hisano Oshiro, Chiemi Takikawa, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Methods for detecting intracircuit blood clotting by time-frequency analysis of intracircuit blood flow sounds in extracorporeal circulation”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Shimazaki Naoya, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
“Functional evaluation of vascular access by quantitation of shunt murmur duration”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
血液透析用留置針の最適形状に関する検討	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	山内 忍 , 高橋怜美, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
透析用血液回静脈側エアトラップチャンバ形状に関する検討	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	山内 忍 , 丸下洋一, 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三,
血液透析回路内血流音の連続モニタリングによる回路内凝固の非侵襲かつ専属的検出	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	島崎直也, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
嚙下音の時間-周波数分析による嚙下反射促進効果の定量的判定の試み	2015年3月27日～29日	日本医工学治療学会 第31回学術大会(広島国際会議場)	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三

○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
“Poster Session Award”	2014年11月8日	Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2014	Kazuma Sasaki, Shinobu Yamauchi , Yuka Motohashi, Toshio Sato, Tetsuzo Agishi
「萌芽研究ポスター優秀賞」	2014年10月17日～19日	第52回日本人工臓器学会大会 京王プラザホテル札幌	佐々木一真, 本橋由香, 山内 忍 , 佐藤敏夫, 阿岸鉄三
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
ASAIO 60th annual conference	2014年6月18日～21日	WashingtonDC(米国)	
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「再循環率に基づいたダブルアクシャル型およびコアクシャル型DLCの性能評価」	2014年6月15日	人工臓器43巻1号 第51回日本人工臓器学会大会 コメディカル賞:腎臓 受賞レポート 大城寿乃, 高橋絢香, 山内 忍 , 本橋由香, 佐藤敏夫, 阿岸鉄三	

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本臨床工学技士会、日本透析医学会、日本音響学会

スポーツ健康政策学部 (Faculty of Culture and Sport Policy)

スポーツ教育学科 (Department of Sport Education)

井筒次郎 (いづつ じろう) 教授



出生年 : 1949(昭和24)年
 在籍 : 2008(平成20)年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学大学院体育研究科修了
 学位 : 修士(体育学)
 学位論文 : 横浜市における社会体育の振興に関する調査研究
 専門分野 : スポーツ教育学、保健体育科教育学、安全教育学
 前職 : 流通経済大学スポーツ健康科学部教授
 学内役職等 : スポーツ健康政策学部大学院専攻長
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
保健体育科教育学	2009年9月～	体育・スポーツ専攻学生のための体育科教育学法、保健科教育学法講義用教科書。学習指導要領の改訂に伴って新たに出版されて。高等学校の「陸上競技」の部分執筆。106-109頁
「学校安全」講義資料	2011年9月～	教職必修科目である「学校安全」16回分の教材を冊子として作成。110頁

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
2013年度の研究活動を継続					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「学校教育辞典」	共著	2014年3月	教育出版	今野喜清、小嶋邦宏他300名	6項目執筆
「ワンダフルスポーツ2014～2016年版」	共編著	2014年4月	新学社	波多野芳郎他5名	1-3頁
「新版 小学保健3・4年」	共著	2015年3月	光文書院	吉田瑩一郎他19名	12-19頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年9月～現在	日本安全教育学会監事
2007年4月～現在	(財)日本学校保健会健康教育推進学校表彰審査委員会委員

角 替 弘 規 (つのがえ ひろき) 教授



出 生 年 : 1969(昭和44)年
 在 籍 : 1997(平成9)年4月～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院博士課程教育学研究科
 学 位 : 修士(教育学)
 学 位 論 文 : イギリスの大学における学術研究体制に関する研究－教育
 改革以降の財源配分方法を中心に－
 専 門 分 野 : 教育社会学
 前 職 :
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 : 高等学校教諭一種免許状(英語)
 中学校教諭一種免許状(英語)
 非 常 勤 講 師 : 金沢大学(2000)、国立音楽大学(2002～2008)
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教職課程科目「総合演習」における授業実施上の工夫	2005年4月～現在	「総合演習」においては常に教育実践を念頭において、学生たちに自ら考えさせ知的活動をさせることを念頭において授業を展開できるよう配慮している。「総合演習」では学生数名(2～6名)のグループをつくり、環境問題や青少年文化等それぞれの関心に応じてテーマを設定させ、授業形式の発表を行わせることによって教材研究の方法や討議の方法、発表の仕方などを身につけさせるようにしている。テーマ設定においてはワークショップ的な作業を行わせることによって関心とテーマの明確化やテーマに関する資料収集、調査の計画立案を効率的に立てられるよう工夫した。また個別に学生の事前の発表準備などの相談にのり、教材研究の方法に関するアドバイスなどを行っている。
教職課程科目「事前・事後指導」「教育実習」における授業実施上の工夫	2005年4月～現在	教職課程科目「事前事後指導」は教育実習に先立って行われる演習形式の授業である。最初の段階では教育実習についての視聴覚教材を視聴させ教育実習の具体的なイメージを抱かせ、かつそれに対する心構えを形成させている。続いて、各学生が取得しようとする教員免許の教科に対応した指導案の作成を指導する。また生徒の問題行動への対応、実践的な内容に焦点を絞ったディスカッションを行い実習に備えている。「事後指導」は教育実習後に行われるが、ここでは各学生の教育実習における体験の共有化を目標として、各学生から教育実習の様々な側面からの反省点を互いに議論させ、自らの実習の総括と全体への位置づけを行っている。「教育実習」においてはその一環として、他の担当教員と分担し訪問指導を例年行っている。訪問指導は原則として首都圏の受け入れ校について行っているが、可能な限り全学生を訪問できるように努力している。実習先では学生の研究授業(あるいは通常の授業)の参観を行い、また反省会にも同席するなどして、学生の指導を入念に行うよう心がけている。

大学における授業評価の結果 教育上の能力に関する大学等の評価 学生による授業評価の結果	2005年4月～現在	毎年度半期ごとに行われる学生による授業評価によれば、講義内容や授業の進め方について学生から高い評価を得ている。より具体的には、説明の仕方について、身近な具体例や自分自身の体験談を交えながら説明している点や、より難解な語句や概念の説明について多くの時間を割いていること等である。 非常勤講師として勤務していた国立音楽大学における学生による授業評価においても、授業内容や授業方法についてきわめて高い評価を受けていた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
講義での使用教材	2005年4月～現在	一般教育科目「教育学Ⅰ」「教育学Ⅱ」「社会学Ⅰ」「社会学Ⅱ」、教職課程科目「教育原理」「教育制度論」の講義を主たる方法とした授業においては、毎回の授業ごとに、講義の流れとポイントを明記したB5およびA4サイズのプリントを作成し、学生に配付している。

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本教育社会学会、日本高等教育学会、日本比較教育学会、日本教育制度学会、筑波大学教育学会、日英教育学会、全国海外子女教育国際理解教育研究協議会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2007年4月～現在	NPO法人日本ペルー共生協会(AJAPE)会員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
大和市立引地台中学校放課後教室支援員 (学校ボランティア)	2011年4月～	大和市立引地台中学校
外国人児童生徒に対する学習支援ボランティア	2012年5月～	NPO法人教育支援グループEd.ベンチャー

松原 静郎 (まつばら しずお) 教授



出生年：1951(昭和26)年2月
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京都立大学大学院理学研究科修士課程(化学専攻)修了
 学位：理学修士
 学位論文：「鉄-57およびスズ-119を含む化合物のメスバウアー分光学的研究」(修士論文)
 専門分野：科学教育、化学教育
 前職：国立教育政策研究所 教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官
 学内役職等：学務部副部長 (2012～)
 留学資格：オーストラリア教育研究所(オーストラリア)(1985.8-1986.6)
 資格：中学校教諭一級普通免許状(理科), 高等学校教諭二級普通免許状(理科)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：日本科学教育学会「科学教育研究奨励賞」受賞(1988年7月)
 日本科学教育学会「年会発表賞」受賞(2007年8月)
 日本化学会「化学教育賞」受賞(2010年3月)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
組立ブロックによる表現力育成に関する活動	2009年4月～現在	組立ブロックを用いて組み立てた形を、絵や文字で示し、他の人がそれを読んで同じものを再現する活動を行った。自分の表現方法を評価するとともに、再現に重要な点を確認した。重要な点は、科学におけるレポートの記載にも通じると考えている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
持続可能な発展に関する教材(プリント)	2008年4月～現在	持続可能な発展を目指した科学技術のあり方について、発電を題材として考察する。水力発電から火力発電、原子力発電、新エネルギーへと発電方法が広がっていく過程を知ることで、その過程がそれぞれの発電の問題点を積極的に解決していく努力によるものであることを理解し、自らの判断・意思決定や活動について考察していくとともに、次世代のことも考慮に入れる必要性について理解する。
理科の世界(大日本図書;文部科学省検定済中学校理科教科書)	2012年～現在	第一分野の「粒子」を柱とした内容に関して、構成、プロット、観察、実験活動、解説など、全般にわたって関与している。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
<p>科学研究費による次の研究を中心に進めた。(1)モデル化学習教材の開発、改訂:持続可能な発展SDや科学的な考えを基に概念モデルの構築、実験計画、レポートでのまとめ、また新たなモデルの構築の過程を定型としたモデル化学習の検討を進めた。物質の同定をテーマとした教材と、化学反応式の決定をテーマとした教材を開発し、モデル構築の基本項目の要素が両テーマで対応できることが確認された。(2)生徒主導型実験PIEの実践:教師役の生徒を決め、教師との話し合いや予備実験を通して、教師役の生徒が実験活動を主導するPIEについて、二つの高等学校で実践を進めた。いずれの学校でも、意欲が向上し、PIEを前向きに捉える意見が見られた。(3)センサを用いた実験等に関する実践:引き続き、空気電池を用いた高橋式酸素センサ等を教育センターに貸し出し、研修講座や学校の授業等で実践をしていただいた。視覚特別支援学校では、酸素/二酸化炭素センサの読み上げ機能を使い、高等部の生徒に燃焼の実験を行った。具体的な数値の読み取りから、変化の表す意味について考察することができた。(4)アジア諸国との協働研究:フィリピンのパラワン州立大学で第5回国際ワークショップIWS-5が開催された。日本とフィリピンから教育関係者が参加し、1年間進めてきた研究について報告するとともに、フィリピンでの教育状況を視察し、共通理解を深めた。そのほか、デジタル教科書や化学の新しい形式の入試問題についての検討を行った。</p>

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「小・中・高等学校理科教育における「動物解剖」の実態—アジアの調査例と比較して—」	共著	2014年5月28日	生物教育、54巻2号	岩間淳子、鳩貝太郎、 松原静郎 、小林辰至	94-103頁
「中学校学習指導要領実施上の課題とその改善(理科)」	単著	2014年7月1日	中等教育資料、938号(63巻7号)	-	10-15頁
「理科教育における体験を通じた生命理解と生命観育成—大学生の体験と生命観に関する調査結果の分析—」	共著	2014年7月8日	理科教育学研究、55巻2号	岩間淳子、 松原静郎 、鳩貝太郎、稲田結美、小林辰至	159-168頁
「生命及び生物多様性理解のための解剖実習の意義—フナの生体解剖とアジの死体解剖を比較して—」	共著	2015年3月31日	生物教育、55巻2号	岩間淳子、小林辰至、 松原静郎 、鳩貝太郎	96-106頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
第19回シンポジウム「高等学校理科で何を学ばせるか—総合的な科目の可能性と課題—」趣旨説明	2014年5月17日	教科「理科」関連学会協議会 CSERS第19回シンポジウム(日本化学会化学会館)	-		
“Development of science teaching tools using radio-type CO ₂ measuring instrument with voice response function - Changes in CO ₂ concentration with breathing of shiitake mushrooms -”	2014年7月18日	23rd International Conference on Chemistry Education (ICCE-23) (Toronto, Canada)	Mitsuo TATAHASHI, Hirotaka TSUTSUMI, Norimichi KAWASHIMA, Yoshihiro HADA, Kazuhiko MAMADA, Shizuo MATSUBARA , Masanori KANZAWA, Norio NAKAJIMA, Fujitaka MINAKAWA		
「授業研究・学習指導」座長	2014年8月23～24日	日本理科教育学会全国大会、第64回全国大会(愛媛大学城北キャンパス)	-		
「実験レポート作成のための手引き—定型文を用いて—」	2014年8月23～24日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第12号、223頁、第64回全国大会(愛媛大学城北キャンパス)	高野裕恵、野内頼一、寺谷敬介、 松原静郎		
「高橋式酸素センサを使った重曹とクエン酸の溶解反応実験」	2014年8月23～24日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第12号、383頁、第64回全国大会(愛媛大学城北キャンパス)	高橋三男、菌部幸枝、荒井大輔、柳澤秀樹、飯田寛志、岩城圭一、大平和之、林誠一、三木勝仁、後藤顕一、野内頼一、深野哲也、掘哲夫、寺谷敬介、 松原静郎		
「『相互評価表』における記述文の変化—実験による物質の同定—」	2014年8月23～24日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第12号、221頁、第64回全国大会(愛媛大学城北キャンパス)	北川輝洋、飯田寛志、 松原静郎 、後藤顕一		
「生活科における体験を通じた生命理解と生命観育成—暖かい動物(哺乳類、鳥類)の飼育を通して—」	2014年8月23～24日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第12号、160頁、第64回全国大会(愛媛大学城北キャンパス)	岩間淳子、 松原静郎		
「理科教科書に見る 問題解決能力育成の扱い—第3学年「電気の通り道」—」	2014年8月23～24日	日本理科教育学会全国大会発表論文集第12号、334頁、第64回全国大会(愛媛大学城北キャンパス)	松原静郎 、岩間淳子		

「キプロスESERA13(ヨーロッパ科学教育学会隔年会議)の概要—フィンランドESERA15に向けて—」	2014年9月13日	日本科学教育学会年会論文集第38号、371-372頁、日本科学教育学会第38回年会(埼玉大学)	岩間淳子、 松原静郎
「教材開発」座長	2014年9月14日	日本科学教育学会第38回年会(埼玉大学)	-
「定型を用いるモデル化学習」	2014年9月14日	日本科学教育学会年会論文集第38号、453-454頁、日本科学教育学会第38回年会(埼玉大学)	寺谷敬介、北川輝洋、久保博義、宮内卓也、鮫島朋美、後藤顕一、 松原静郎
「同定をテーマとしたモデル化学習教材」	2014年9月14日	日本科学教育学会年会論文集第38号、455-456頁、日本科学教育学会第38回年会(埼玉大学)	松原静郎 、北川輝洋、久保博義、宮内卓也、鮫島朋美、後藤顕一、寺谷敬介
「高橋式酸素センサを使った理科教育における教材開発—過酸化水素水の分解反応における経時変化—」	2014年9月14日	日本科学教育学会年会論文集第38号、451-452頁、日本科学教育学会第38回年会(埼玉大学)	高橋三男、菌部幸枝、後藤顕一、野内頼一、三木勝仁、飯田寛志、岩城圭一、大平和之、林 誠一、寺谷敬介、 松原静郎
“Opinions of Japanese University Students about Issues of Bioethics: Comparison between Nursing Students and Other Students”	2014年10月13-16日	The 25th Biennial Conference of the AABE, Program and Abstracts, p.31, University of Malaya	IWAMA Junko, MATSUBARA Shizuo and UMENO Kunio
「空気電池の特性に関する研究—空気電池が気圧センサになる—」	2014年10月17日	日本理科教育学会北陸支部大会(仁愛大学人間生活学部)、研究発表要旨集、B11	高橋三男、菌部幸枝、浅原雅浩、 松原静郎
「理科教科書に見る問題解決能力育成の扱い—第6学年「てこの規則性」—」	2015年3月7日	日本科学教育学会第5回研究会(桐蔭横浜大学)、日本科学教育学会研究会研究報告、29巻5号、1~6頁	松原静郎 、岩間淳子
「小学校理科における「生命:生物の構造と機能」—「人の体のつくりと働き」を例に—」	2015年3月7日	日本科学教育学会第5回研究会(桐蔭横浜大学)、日本科学教育学会研究会研究報告、29巻5号、7~12頁	岩間淳子、 松原静郎
「空気電池を使った酸素センサによる圧力と高度に関する探究研究」	2015年3月27日	日本化学会第95春季年会(日本大学船橋キャンパス)	高橋三男、菌部幸枝、川島徳道、羽田宣弘、飯田寛志、岩城圭一、後藤顕一、野内頼一、 松原静郎
第25回化学教育フォーラム「新しい高等学校化学の教育課程に向けて」趣旨説明	2015年3月28日	日本化学会第92春季年会(日本大学船橋キャンパス)	-
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「理科教員を志望する学生の質保証のための附属学校から大学講座への参画」指導助言	2015年1月21日	東京学芸大学附属学校合同研究会世田谷地区理科部会	世田谷区・東京学芸大学附属世田谷中学校
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
「持続発展を題材としモデル化学習により科学知の活用と探究能力を育成する国際協働研究」	2014年4月~2018年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号26282040)研究代表者	
「我が国における各教科のデジタル教科書の活用及び開発に関する総合的調査研究」	2014年4月~2017年3月	科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号26285184)研究分担者	
「化学実験レポートにおける考察記述を活用し思考力の獲得につなぐ学び方に関する実証的研究」	2014年4月~2017年3月	科学研究費補助金基盤研究(C)(課題番号26350260)研究分担者	

(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
Fifth International Workshop of Science Education for Sustainable Development, Educational Co-research of Sustainabilityで Keynote address	2014年8月27日～30日	Palawan State University(フィリピン)ほか
(その他特記事項)		
日本科学教育学会第5回研究会 南関東支部神奈川県代表として桐蔭横浜大学で開催 2015年3月7日		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本化学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会、教科「理科」関連学会協議会委員	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～2014年9月	第22期日本学術会議 科学と社会委員会 科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会 委員
2015年3月～現在	第23期日本学術会議 科学者委員会・科学と社会委員会合同 広報・科学力増進分科会 高校理科教育検討小委員会 委員
2014年4月～2015年3月	国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査 国内専門委員
2013年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会 化学教育フォーラム企画小委員会 委員
2011年3月～2015年2月	日本化学会 教育・普及部門 普及・交流委員会委員
2011年3月～現在	日本化学会 教育・普及部門 学校教育委員会 化学教育カリキュラム構築小委員会委員
2012年7月～2014年6月	日本科学教育学会 評議員
2007年4月～現在	日本理科教育学会 評議員
2007年4月～2015年6月	教科「理科」関連学会協議会 委員(日本理科教育学会代表)
2013年7月～2015年6月	教科「理科」関連学会協議会 議長
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 特別研究員
2013年4月～現在	公益財団法人 教科書研究センター 教科書・教材のデジタル化に関する調査研究 企画運営部会及び理科部会 委員

松 本 格之祐 (まつもと かくのすけ) 教授



出生年：1952(昭和27)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学位：修士(体育学)
 学位論文：小学校体育授業における仲間づくりの可能性の検討ーチャレンジ運動とボール運動の授業実践を通してー
 専門分野：体育科教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ教育学科長 (2012～)

留学：
 資格：保健体育教諭専修免許(中学、高校)
 非常勤講師：桜美林大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
模擬授業における授業評価、授業分析のフィードバック	2005年～現在	学生の模擬授業における形成的授業評価、期間記録等による授業の振り返り
マイクロティーチングの導入	2007年～現在	教材と場面が決められた短い時間での指導の経験。全員が指導の経験が可能。
2.作成した教科書、教材、参考書		
小学校・保健教科書の執筆	2011年～	小学校・保健6年の教科書「地域の保健活動」(学研)の執筆。
文部科学省・指導の手引き第10集「器械運動」	2014年5月～2015年2月	小学校の主査として書籍の執筆、およびビデオの編集3本(小学校低学年・マット、中学年・鉄棒運動、高学年・跳び箱運動)。授業作りの助言、および3本のシナリオ、3本のビデオの編集。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
昨年に引き続き、体づくり運動や器械運動の講習会講師を担当する機会を得た。両領域は、2018年であろう次回の学習指導要領において、その内容が注目されている領域でもある。その意味でも、現場の先生方と交流しながらその意味と内容について検討を加える機会を得たことは貴重であった。とりわけ、器械運動については、文部科学省が作成した「体育指導資料第10集・器械運動」に関わったことは幸運であった。ここでは、小学校のマット運動・跳び箱運動・鉄棒運動の3つの授業について、その指導案の作成、展開内容の検討、およびビデオの編集を通して、一定の技能を保障する器械運動の授業づくりについて提案することができた。また、デジタル教科書の検討についても協力する立場になった。2015年度は小学校および中学校で具体的な聞き取り調査も開始することになる。すべてが、今後の体育科の方向に関わる仕事になる。教育現場との関わりを保ちながら、少しでも児童生徒の成長につながるような取り組みを続けていきたい。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『よい体育授業を求めてー全国からの発信と交流ー』	共著	2015年3月	大修館書店	高橋健夫、松本格之祐 他	8頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
東京都小学校体育研究会 港区研究部会 授業研究会講師	2013年7月3日 2013年12月4日 2014年1月15日	東京都小学校体育研究会	港区立港南小学校		

島根県仁多郡体育授業研修会 平成26年度より3カ年の取り組み 毎年3回開催	①2014年7月28日 ②2014年11月19日 ③2015年1月27日	島根県仁多郡体育授業研修会	奥出雲町立高田小学校
宮崎県小学校体育研究会・秋季研修会 「器械運動」講師	2014年11月22日	宮崎県小学校体育研究会	宮崎市立加納小学校
さいたま市立新開小学校校内研究会助言者	①2014年6月19日 ②2014年10月15日 ③2015年2月6日	さいたま市立新開小学校校	さいたま市立新開小学校校
熊本県天草市五和地区生涯スポーツ講演会 講師 「生涯スポーツの勧め」	2014年11月8日	熊本県天草市五和地区公民館	熊本県天草市五和地区公民館
和歌山県東牟婁地方中学校体育研究大会 講師 「体育科授業の充実に向けて」	2015年1月16日	和歌山県東牟婁地方中学校 体育研究会	那智勝浦町体育文化会館
東京都神津小学校・実技講習会 「体づくり運動」	2015年2月12日	東京都神津村立神津小学校	東京都神津村立神津小学校
富山市立豊田小学校研究会講師 授業発表の助言指導	2015年2月16日	富山市立豊田小学校	富山市立豊田小学校体育館

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
初等教育研究会、筑波学校体育研究会、日本スポーツ教育学会、体育授業研究会、日本体育学会、日本体育科教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2014年4月～現在	研筑波学校体育研究会理事
2012年4月～2015年3月	日本スポーツ教育学会理事

宮津大蔵 (みやづ だいぞう) 教授



出生年 : 1959(昭和34)年
在籍 : 2009(平成21)年4月～
最終学歴 : 東京学芸大学教育学部卒業
学位 :
学位論文 :
専門分野 : 国語科教育学
前職 : 東京都新宿区立余丁町小学校教諭
学内役職等 :
留資格 :
非常勤講師 : 東京家政学院大学現代生活学部
受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
文部科学省後援事業 日本語検定公式練習問題集改訂版6級)小学校国語指導資料 新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫 文部省		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
神奈川県座間市教育課程等研究推進委託事業 座間市立東原小学校研究発表指導・講演講師		

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
前年度の活動を継続。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本演劇学会、日本教材学会、東京学芸大学国語教育学会、日本教育方法学会、表象文化論学会

木村和宏 (きむら かずひろ) 准教授



出生年：1964(昭和39)年
在籍：2008(平成20)年4月～
最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
学位：修士(体育科学)
学位論文：バスケットボール競技のチーム戦術に関する一考察－世界
トップレベルのセット・オフENSEの傾向－
専門分野：コーチング科学、スポーツ方法学(バスケットボール)
前職：日本体育大学運動処方研究室研究員
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：早稲田大学オープン教育センター
受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略

一昨年来行っているスペイン指導者の練習法及び強化法について、今年度実際に日本の実業団チームで行った練習見学や練習映像を入手し、調査研究を継続した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本体育学会、スポーツ方法学会

任期、活動期間等

2006年10月～現在

学会・機関・団体等における役職等

公認バスケットボール上級コーチ

城田直彦（しろたただひこ）准教授（2015年度 新任教員）

出生年 : 1962(昭和37)年
 在籍 : 2015(平成27)年4月～
 最終学歴 : 奈良教育大学大学院教育学修士課程修了

写真

学位 : 教育学修士
 学位論文 : 「数学における「中1ギャップ」の要因に関する考察」(修士論文)
 専門分野 : 数学教育
 前職 : 白鳳女子短期大学講師
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 小学校専修免許状、中学数学専修、高校数学専修、中学英語2級、幼稚園2級
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『身のまわりの単位』	単著	2014年8月28日	中経出版	—	
『図解・よくわかる 単位の事典』(韓国版)	単著	2014年9月20日	AK Trivia Book	—	
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「方程式の概念形成をはかる指導の工夫」	2014年8月1日	第96回 全国算数・数学教育研究大会(鳥取県米子市)	—		
(口頭発表)「中学数学における『理解の揺らぎ』について」	2014年8月16日	高校ゼミ研修会(奈良県明日香村)	—		
(口頭発表)「キ・ハ・ジについて」	2015年1月24日	プライムゼミ(奈良教育大学)	—		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
HPの作成、管理に関する研修講座	2014年(3回)	奈良県磯城郡田原本町北中学校	奈良県磯城郡田原本町北中学校		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「メガ・ギガ・テラの物語」	2014年5月31日	雑誌「サーイ・イサラ」6月号			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本数学教員学会、全国数学教育学会、近畿数学教育学会、和算問題教材化研究会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
21_21 DESIGN SIGHT 企画展 「単位展」学術協力	2014年6月～2015年5月	21_21 DESIGN SIGHT、公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団

谷本直美 (たにもと なおみ) 准教授



出生年：1960(昭和35)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：東京学芸大学大学院教育学研究科音楽教育専攻音楽科教育講座修了
 学位：教育学修士(東京学芸大学)
 学位論文：シュタイナー学校における音楽教育
 専門分野：教育学
 前職：東京学芸大学附属竹早小学校教諭
 学内役職等：キャリア情報センター副センター長 (2013～)
 留学：
 資格：小学校教諭1種 中学校教諭1種・高等学校教諭1種(音楽) 司書教諭
 非常勤講師：東京学芸大学附属竹早小学校(音楽) 早稲田大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
音楽実技(ピアノ)における同一曲の習熟度別編曲による教材の作成	2009年4月～現在	履修学生のピアノ経験年数に応じて、同一曲を3～4レベルに編曲し、学生が自分のピアノ経験にあったレベルを選択して練習を始められるような教材を準備した。さらに演奏能力に差がある学生が1つの曲を合奏できるよう、パート毎に難易度を変えて編曲し、合わせる楽しさを体験して音楽指導に前向きになれるような教材を作成した。学生授業評価は2013年度後期3.95であった。
研究授業参加学生への事前指導	2009年6月～2011年2月	学外の小学校で行われる研究授業や公開研究発表会に参加する学生が、より多くのことを吸収できるよう、授業の見方や予定されている内容について事前に指導した。
音楽劇による小学校へのアウトリーチ活動	2010年7月～現在	教科指導法(音楽)の授業内で学生に音楽劇を指導し、近隣の公立小学校で授業として構成して発表している。2011年度からは劇の中に子どもたちへの歌唱やリズムアンサンブルの指導場面を設定し、学生に指導を体験させている。その後ビデオを通してグループ協議を行い、子どもに対する実感をもたうえで模擬授業を行って学生の音楽の授業に対する理解を深めている。学生授業評価は2011年度前期平均値3.84、2012年度後期3.80、2014年度後期3.75であった。
小学校における読み聞かせ体験	2010年6月～現在	ゼミ履修学生(3年)に子どもたちの前に立つ体験として、読み聞かせの機会を近隣小学校にいただいている。毎年「なぞなぞライオン」を扱い、なぞなぞやしりとりを通して子どもたちとコミュニケーションをとりながら読み聞かせをする体験をさせ、児童理解と指導体験の機会としている。その発展として7月に行われる同小学校における保護者会主催の全校お楽しみ会にも読み聞かせで有志が参加し、自分達で作品を選び、脚色も加えながら練習を積んで臨んでいる。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
子どもが主体的に取り組む音楽の授業を目指す小学校若手教師による授業の発話分析を通して、そこにいかなるグラウンド・ルールが存在しているかを明らかにするとともに、グラウンド・ルールの視点を取り入れることによって協議の中で授業改善の視点がどのように授業者に意志化されているかに注目して研究を進めた。8月にその結果の一部を日本学校音楽教育実践学会で口頭発表した。これらの研究が認められ、北海道教育大学の名達英詔教授(美術教育)との共同研究として2015年度より科学研究費助成事業になる。

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
音楽の授業におけるグラウンド・ルールの共有について(2)－5つのGRとそこに見える教師と子どものずれについて－	単著	2015年3月	日本学校音楽教育実践学会紀要2015vol. 19	－	230－231頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)音楽の授業におけるグラウンド・ルールの共有について(2)－5つのGRとそこに見える教師と子どものずれについて－	2014年8月17日	第19回日本学校音楽教育実践学会(熊本大学/熊本)	－		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
東京学芸大学附属小金井小学校第7回KOGANEI授業セミナー音楽講師	2015年2月6日	東京学芸大学附属小金井小学校	東京学芸大学附属小金井小学校		
お茶の水女子大学附属小学校第77回教育実際指導研究会コメンテーター	2015年2月20日	お茶の水女子大学附属小学校	お茶の水女子大学附属小学校		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本学校音楽教育実践学会、日本教師教育学会、日本教育方法学会、日本教材学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立鉄小学校において卒業式音楽伴奏	2015年3月19日	横浜市立鉄小学校

徳田英次（とくだ ひでじ）准教授



出生年：1969(昭和44)年
在籍：2004(平成16)年4月～
最終学歴：筑波大学大学院博士課程心理学研究科心理学専攻中退
学位：修士(心理学)
学位論文：覚醒度変化が注意機能に及ぼす影響－主観的覚醒度2因子モデルからの検討(未公刊)
専門分野：臨床心理学
前職：東京成徳大学文学部講師
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本心理学会、日本カウンセリング学会、日本催眠医学心理学会、日本心理臨床学会、Society for Clinical and Experimental Hypnosis	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
	日本催眠医学心理学会広報委員

木原 洋一 (きはら よういち) 専任講師

出生年 : 1976(昭和51)年
 在籍 : 2008(平成20)年4月～
 最終学歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科満期退学
 学位 : 修士(体育学)・修士(教育学)
 学位論文 : 演劇における「からだ」のレッスンの理論と実践(体育学)
 心身論を基盤とした体育の理念形成の検討 - 1931-45年
 の日本における体育的身体論を射程として - (教育学)
 専門分野 : スポーツ教育学、学校教育学、比較文化学
 前職 : 筑波大学大学院博士課程
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 中学校教諭専修免許(社会)
 高等学校教諭専修免許(地理歴史)
 高等学校教諭専修免許(公民)
 柔道初段
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 : 平成23年度第9回茗溪会顕彰

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本スポーツ学会、日本体育科教育学会、神奈川体育学会、日本体操学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
横浜市立みたけ台小学校および横浜市立荏子田小学校で、体操、マット、とび箱、球技などの基礎・基本の動きを指導。	2011年4月～(毎週火・木2コマ)	団体等名称: 体操教室

箱崎 (李) 禧承 (はこざき(い) ひすん) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院博士課程教育学研究科学校教育学専攻
 修了
 学位：博士(教育学)
 学位論文：学校教育におけるハイパーメディア教材の利用に関する研究(博士論文)
 専門分野：教育工学、教育方法学、教育学
 前職：筑波大学人間総合科学研究科外国人受託研究員
 学内役職等：
 留学：筑波大学(1997年4月～2005年3月)
 資格：中等教育2級正教師資格(韓国)(教科:教育学、道徳)
 非常勤講師：筑波大学
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略			
デジタル教科書モデル研究がモデル授業の開発及び実施に焦点が当てられ、政策的に学校教育への導入が決定されているにもかかわらず、教室授業を対象としたミクロな授業分析までに至っていないことを研究現状として捉えた。そこで、授業づくりを担っている教師の「教授行為」に焦点を当てた研究の必要性を指摘するとともに、デジタル教科書利用授業における教師要因を分析する研究を進めた。そして、その研究成果を、「デジタル教科書の利用授業の特徴についてーガニエの「9教授事象」を分析の視点としてー」のタイトルで学会発表し、「デジタル教科書の利用授業における「教授行為」の特徴についてー学習指導案の分析を手掛かりにー」のタイトルで論文投稿した。また、上述の成果に基づき、2015年度の研究課題は、デジタル教科書の利用授業における教師の役割について追究すべく、実際のデジタル教科書の利用授業における「教授行為」の分析組みを構築することと、それに基づく授業分析を実施することである。そして、その成果を学会発表と論文投稿で発信する計画を立てた。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
デジタル教科書の利用授業の特徴についてーガニエの「9教授事象」を分析の視点としてー	2014年8月17日	日本デジタル教科書学会 2014年次大会新潟日報メディアシップ・新潟教育大学 付属新潟小学校/新潟県新潟市	箱崎(李) 禧承
自由発表第2分科会司会	2015年3月7日	筑波教育学会13回大会(筑波大学/茨城県つくば市)	李 禧承
○その他			
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
教科書研究センター・科研課題名「我が国における各教科のデジタル教科書の活用及び開発に関する総合的調査研究」の連携研究者としての韓国調査	2014年12月8日～10日	グイル小学校、デウンチョン小学校(韓国)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本教育メディア学会、日本デジタル教科書学会、日本教材学会、日本教育方法学会、日本教育工学会、筑波教育学会		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
科研課題名「我が国における各教科のデジタル教科書の活用及び開発に関する総合的調査研究」、連携研究者	2014年4月～現在	(財)教科書研究センター

廣川 充志 (ひろかわ みつし) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：筑波大学大学院体育研究科スポーツ健康科学専攻
 学位：体育学修士
 学位論文：中高齢者の糖・脂質代謝および酸化LDLにおよぼす複合運動トレーニングの影響
 専門分野：体育科学
 前職：学校法人了徳寺学園職員
 学内役職等：
 留学：
 資格：講道館柔道六段
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略	
一昨年、昨年同様、全日本柔道男子ナショナルチームのコーチの職にあり、国際大会もしくは国際合宿に同行の際、諸外国の柔道の実態調査を実施。加えて、全日本のトップ選手の体力調査および意識調査も継続して実施中。	
○その他	
(その他特記事項)	
講話集「柔道への想い」全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当	
「柔道ルネッサンススピーチ集」全日本柔道連盟発行 柔道ルネッサンス特別委員会編集 一部分担当	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本運動生理学会、日本武道学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	神奈川県学生柔道連盟 常任理事
2009年4月～現在	神奈川県柔道連盟 強化委員
2010年4月～現在	関東学生柔道連盟 理事
2010年4月～現在	全日本柔道連盟 国際委員会委員
2012年11月～現在	全日本柔道連盟 ナショナルチーム強化コーチ

福井 元 (ふくい げん) 専任講師



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2006(平成18)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：金属バットの導入が高校野球の技術・戦術に及ぼした影響
 －野球の技術史に関する研究の一環として－
 専門分野：スポーツ史
 前職：国士舘大学大学院 助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭 専修免許状(保健体育)
 高等学校教諭 専修免許状(保健体育)
 非常勤講師：流通経済大学スポーツ健康科学部、東洋大学ライフデザイン学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
パワーポイント及びVTRを使用したスポーツ実技授業	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技(ソフトボール・野球等)において、実技授業での目標と獲得すべき技能についてパワーポイントで毎時学習を行い、実技の授業を展開し、学生の実際の動きをVTRに記録・放映し学習を促進してきた。
レポートによる実技学習内容の定着工夫	2006年4月～現在	桐蔭横浜大学のスポーツ実技において、毎時、実技授業で学習した内容をレポートさせ、提出させ、学習内容を定着させるための工夫を行っている。
自然活動論実習	2008年7月～現在	桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の学外実習(夏冬の登山指導)を担当・指導。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
昨年度に引き続き、「戦後日本における野球の技術史に関する研究」というテーマのもと研究を行っているが、その一部が著書『スポーツビジネス概論 第二弾』に掲載予定である。(平成28年3月出版予定)					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『図表で見るスポーツビジネス』 ※スポーツ用品産業 ※スポーツ産業の基盤となる競技人口の変化 ※スポーツメディア産業 ※「スポーツの施設と用具」	共著	2014年4月7日	叢文社	編著者:佐野昌行 執筆者:田養健太郎、谷釜尋徳、福井元 ほか	103-107頁 170-171頁 243-245頁

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、スポーツ史学会、日本スポーツ運動学会

スポーツテクノロジー学科 (Department of Sport Technology)

殖田友子 (うえだ ともこ) 教授



在籍 : 2014(平成26)年4月～
最終学歴 : 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科博士後期課程単位取得後退学
学位 : 修士(経営学)
学位論文 :
専門分野 : スポーツ栄養学、健康マーケティング、食育
前職 : 帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科准教授
学内役職等 :
留学 :
資格 : 管理栄養士、健康運動指導士、公認スポーツ栄養士
非常勤講師 : 神奈川大学人間科学部、神奈川大学国際経営学部
受賞・表彰 :

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体力医学会、日本スポーツ栄養学会、日本健康運動指導士会、日本栄養改善学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2010年7月～現在	日本スポーツ栄養学会評議員 (2013年12月日本スポーツ栄養研究会から学会に改組)
2013年4月～現在	大田区体育協会評議員

片山 富美代 (かたやま ふみよ) 教授



出生年：1960(昭和35)年
在籍：2004(平成16)年7月～
最終学歴：桜美林大学大学院国際学研究科環太平洋地域文化専攻
博士後期課程修了
学位：博士(学術)、修士(看護学)
学位論文：人工血液透析患者の病気認知と病気適応に関する健康心理学的研究(博士論文)
専門分野：基礎看護学、健康心理学
前職：広島国際大学看護学部看護学科講師
学内役職等：
留学：
資格：看護師免許、専門健康心理士資格
非常勤講師：
受賞・表彰：日本ヒューマン・ケア心理学会第一回学会論文賞(2011年7月)

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略		
学生の健康の認識と健康管理についての調査研究		
○その他		
(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
科学研究費補助金 基盤研究(C)、「コトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究」	2011年4月～2014年3月	日本学術振興会

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本看護研究学会、日本カウンセリング学会、日本健康心理学会、日本ヒューマン・ケア心理学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年5月～現在	日本健康心理学会資格認定・試験委員会委員
2014年4月～2015年9月	日本ヒューマン・ケア心理学会理事・広報委員
2014年9月～現在	日本ヒューマン・ケア心理学会常任理事・事務局長

加藤 知生 (かとう ともお) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2009(平成21)年4月～
 最終学歴：日本体育大学体育学部健康学科卒業
 社会医学技術学院理学療法科卒業
 日本柔道整復専門学校卒業
 学位：
 学位論文：
 専門分野：アスレティック・リハビリテーション、スポーツ理学療法
 前職：日立横浜病院
 学内役職等：スポーツテクノロジー学科長（2012～）
 留学：
 資格：日本体育協会公認アスレティックトレーナー
 理学療法士、柔道整復師
 中学1級・高等学校1級教諭免許(保健体育)
 非常勤講師：東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
トレーナー活動およびリハビリテーションの実践的指導の導入(学生の授業外における学習促進のための取組)	2009年度～現在	水泳日本代表および社会人アメリカンフットボールチームの合宿、試合、病院でのリハビリテーションなど医療レベルからトップアスリートまでの現場体験を行う。(対象:トレーナーコース、ゼミ専攻者)

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
種目別スポーツ障害の診療 第2版:水泳	共著	2014年5月	南江堂	加藤知生、桑井太陽	67-79頁
オープンウォータースイミング教本	共著	2014年7月	大修館書店	成田崇矢、加藤知生	39-43頁
水泳コーチ教本 第3版	共著	2014年11月	大修館書店	加藤知生、大金ユリカ	86頁(単) 444-448頁(共)
(学術論文)					
The effect of ankle taping on the ground reaction force in vertical jump performance	共著	2014年5月	Journal of Strength and Conditioning Research2014May;28(5)	Koyama K, Kato T Yamauchi J.	1411-1417頁
Changes in the conditioning components for the Japanese Universiade swimming teams	共著	2014年6月	Biomechanics and Medicine in Swimming XII	Hirofumi Jigami, Tomoo Kato, Koji Kaneoka, Keisuke Koizumi.	547-551頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
動作別パフォーマンス向上のためのフィジカルトレーニング -2020年のアスリートのために-	2014年9月13日	第40回日本整形外科学会スポーツ医学会(虎ノ門ヒルズフォーラム)	加藤知生(シンポジスト)		

2014年度シンクロナイズドスイミング日本代表チームトレーナー活動報告	2014年11月29日	水泳メディカルサポート研究会(東京工科大学)	地神裕史、内原大輔、吉沢剛、江口隆夫、加藤知生
スポーツ分野における理学療法の未来を考える	2014年10月26日	第33回関脳甲信越ブロック理学療法士学会(幕張メッセ 国際会議場)	加藤知生(シンポジスト)
水泳トレーナー概論	2015年2月14日	日本水泳トレーナー会議基礎研修会(2014)	加藤知生

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本理学療法士協会、日本アスレティックトレーニング学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1991年9月～現在(2011～)	日本水泳トレーナー会議役員(代表)
1996年4月～現在	JOCオリンピック強化スタッフ
2003年3月～現在(2010～)	日本体育協会公認アスレティックトレーナー(連携協議員)
2007年4月～現在(2013～)	日本水泳連盟医事委員会(副委員長)
2013年6月～現在	日本アスレティックトレーニング学会評議員

河崎賢三 (かわさき けんぞう) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2004(平成16)年4月～
 最終学歴：島根医科大学大学院医学研究科博士課程 修了
 学位：医学博士
 学位論文：
 専門分野：整形外科、スポーツ医学、関節外科、再生医療
 前職：島根医科大学文部教官助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：医師、日本整形外科学会専門医、日本体育協会公認スポーツドクター
 非常勤講師：
 受賞・表彰：材料技術研究協会技術賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
医学現場実習を重要視した授業	2006年4月～	医学現場に出向き、スポーツ医学の知識の取得に勤めている

(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
スポーツと医療の現場から考える	2010年7月～現在 (連載中)	ブックハウスHD月刊Sports Medicine
ドクターKのベースボールメディカル	2013年3月～現在 (連載中)	侍アスリート社BaseballKanagawa
野球肘は防げる	2013年5月～現在 (連載中)	ベースボールマガジン社Hit&Run

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本整形外科学会、日本関節鏡学会、日本膝関節学会、日本整形外科スポーツ医学会 など	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1991年6月～現在	日本整形外科学会会員
1997年4月～現在	日本関節鏡学会会員
1997年4月～現在	日本膝関節学会会員
1997年4月～現在	日本軟骨代謝学会会員
1999年4月～現在	日本整形外科スポーツ医学会会員
2010年4月～現在	日本スポーツクラブ協会専門委員
2010年4月～現在	日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ、野球)
2011年4月～現在	全日本アマチュア野球連盟選手強化本部医科学部会委員
2013年4月～現在	全日本野球協会選手強化本部医科学部会委員

(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
医師として臨床診療活動 (整形外科、スポーツ整形外科)	1991年5月～現在	病院にて整形外科、スポーツ整形外科として勤務年間約5000人の診察並びに約200件のスポーツ障害に関する手術施行

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学硬式野球部チームドクター	2006年4月～現在		
桐蔭学園高校柔道部チームドクター	2007年4月～現在		
桐蔭横浜大学サッカー部チームドクター	2009年4月～現在		
桐蔭学園高校バレーボール部チームドクター	2009年4月～現在		
(5) 青森県光星学院高校硬式野球部チームドクター	2010年4月～現在		

吉 鷹 幸 春 (よしたか ゆきはる) 教授



出 生 年 : 1964(昭和39)年
 在 籍 籍 : 1995(平成7)年～
 最 終 学 歴 : 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了
 学 位 位 : 体育学修士
 学 位 論 文 : 柔道の「背負投」におけるバイオメカニクス的研究
 専 門 分 野 : 運動方法論、コーチ学、スポーツ心理学
 前 職 職 : 山形県教育庁
 学 内 役 職 等 : 入試・広報副センター長(2013～)
 留 学 学 :
 資 格 : 専修免許状(保健体育)、全日本柔道連盟A級審判員、講道館柔道七段
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 文部科学省 国際競技大会優秀者(指導者)表彰(1999年)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本武道学会、日本体育学会、日本スポーツ心理学会、日本応用心理学会、日本教育医学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全日本柔道連盟公認審判員(Aライセンス)	2003年～現在	全日本柔道連盟
講道館・全日本柔道連盟 柔道ルネッサンス委員	2003年4月～現在	全日本柔道連盟
全日本学生柔道連盟理事	2010年4月1日～現在	全日本学生柔道連盟
全日本柔道連盟広報委員	2011年4月1日～現在	全日本柔道連盟

Ⅳ芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
桐蔭横浜大学 柔道部総監督 全日本学生柔道優勝大会(団体)	2014年6月	日本武道館	桐蔭横浜大学 団体 ベスト8

栗山 裕 (くりやま ゆたか) 准教授



出生年 : 1957(昭和32)年
 在籍 : 1991(平成3)年4月～
 最終学歴 : 東京都立科学技術大学(現・首都大学東京)大学院工学研究科博士後期課程
 学位 : 学術博士
 学位論文 : 大学における情報教育の支援に関する研究
 専門分野 : 知能情報処理、感性情報処理
 前職 : 桐蔭学園工業高等専門学校 助手
 学内役職等 : 学生部副部長 (2014～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
学生の情報通信技術に関する支援	2011月1月～ (継続中)	日頃より、担当して授業を問わず、学生の情報通信技術(ICT)やビデオ映像制作などの支援を教員研究室で行っている。たとえば、ゼミ生以外の学生(2グループ)がビデオ映像の制作のため1カ月程度、栗山研究室の情報機器を利用した。また、ゼミ生以外の学生に対しても「情報処理技術者試験(ITパスポート試験)経済産業省主催 国家試験」の勉強の支援を行い、2011年7月試験において合格者(1名)を輩出した。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
スポーツ情報分析室の新設事業	2013年7月～ (継続中)	スポーツ健康政策学部の教育の質を高め、大学および学園のスポーツ競技の向上やスポーツ科学・健康分野の教育・研究に寄与するために、スポーツ情報分析室の新設を提案し、スポーツ分析ソフトウェア等の充実を図っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
電子情報通信学会、人工知能学会、日本ファジィ学会、日本教育工学会、日本人間工学会

岡本 大 (おかもと だい) 専任講師



出生年：1973(昭和48)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国際武道大学大学院 武道・スポーツ研究科 武道・スポーツ専攻修士課程 修了
 学位：修士(武道・スポーツ)
 学位論文：異なる床面性状が跳躍成績に与える影響
 専門分野：ハンドボール、コーチング論、ゲーム分析、バイオメカニクス
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科助手
 タイナショナルチームヘッドコーチ、JOCジュニア強化コーチ
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
ハンドボールゲームにおけるリアルタイムゲーム分析の構築を行った。また継続的課題として、体力トレーニング評価基準の策定を女子ハンドボールに拡大しまとめた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本体育学会、日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会、日本ハンドボール学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2001年10月～	日本体育協会公認ハンドボールコーチ	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
愛媛国体ハンドボール競技専属アドバイザー コーチ	2011年4月～	愛媛県ハンドボール協会

小山桂史 (こやま けいじ) 専任講師



出生年：1984(昭和59)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科博士後期課程修了
 学位：博士(スポーツ健康科学)
 学位論文：Unstable shoes着用時の歩行特性に関する研究
 専門分野：スポーツバイオメカニクス
 前職：順天堂大学スポーツ医科学研究所研究補助員
 学内役職等：陸上競技部女子駅伝部門監督
 留学：
 資格：中学校教諭一種免許(保健体育)
 高等学校教諭一種免許(保健体育)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：第59回東総駅伝大会 優勝 区間賞(2005.12)
 栗本関夫記念奨学金受賞(2006.3)
 第26回佐倉朝日健康マラソン大会 10kmの部 優勝(2007.3)
 日本バイオメカニクス学会 国際学会参加助成 受賞(2010.9)

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
2013年度では、足部保護装具が走動作や跳躍動作のパフォーマンスに及ぼす影響を検討してきた。ジョギングやランニングの着地時には体重の2から3倍の衝撃力が作用し、その衝撃力は速度の増加に伴い増大する。身体への衝撃は、足部を中心に外傷もしくは障害を引き起こすため、シューズの着用は非常に重要である。しかしながら、ジョギングでの衝撃力は、シューズ着用時では裸足時と比べて増すことが示唆され、それは背屈位着地となる着地動作の影響であることが考えられた(国際学会発表, 2014)。また落下の着地時では、衝撃力はシューズ着用時と裸足時と同程度であった(国際学会発表, 2014)。さらに、足首のサポータやスプリントなどによって固定すると、足関節底屈筋力や足指筋力が低下することが解明された(Yamauchi and Koyama, 2015)ヒトの足部には3つのアーチ(内側縦アーチ, 外側縦アーチ, 横アーチ)が形成され、また5本の足指による姿勢安定などによって、本来の衝撃緩衝機能が備わっている。しかしながら、シューズ等により、足部を束縛することで、それらの機能が損なわれている可能性が示唆された。したがって、2015年度では、我々、本来、足部の衝撃緩衝機能を検証する予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
The effect of ankle taping on the ground reaction force in vertical jump performance	共著	2014年5月	The Journal of Strength and Conditioning Research, 28(5)	Keiji Koyama, Tomo Kato, Junichiro Yamauchi	pp.1411-7
中学生男子バスケットボールチームの競技力と体力特性	共著	2014年6月	日本スポーツ健康科学誌 1(1)	小山桂史、大畑岳	pp.23-31
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Vertical ground reaction force during jogging in bare and shod conditions	2014年7月	19th annual Congress of the European College of Sport Science, Mini Oral	Keiji Koyama, Reo Kurisu, Huka Shibata, Hideaki Koike, Junichiro Yamauchi		
シューズの着用が歩行の圧力中心の軌跡に及ぼす影響	2014年8月	第2回 日本スポーツ健康科学学会、岡山	小山桂史、小島賢悟		

シューズ着用が低速走行時の着地衝撃力に及ぼす影響	2014年9月	第69回日本体力医学学会、長崎	小山桂史、栗巢玲生、柴田風香、山内潤一郎
Vertical ground reaction force during jogging in bare and shod conditions	2014年10月	2th International Congress on Sport Science Research and Technology Support, Oral	Keiji Koyama, Reo Kurisu, Huka Shibata, Junichiro Yamauchi
異なる機能性のシューズでジョギングした下肢の筋活動量の比較	2014年12月	S&Cカンファレンス2014、東京	柴田風香、小山桂史、栗巢玲生、山内潤一郎
足趾把持筋力と新体力テストとの関係性	2014年12月	S&Cカンファレンス2014、東京	佐々木美穂、小山桂史、加藤知生、廣瀬立朗、山内潤一郎
シューズ着用がドロップジャンプ時の衝撃力およびパフォーマンスに及ぼす影響	2014年12月	S&Cカンファレンス2014、東京	小山桂史、山内潤一郎
足関節サポータの着用した垂直跳び時の下肢の筋活動量について	2014年12月	S&Cカンファレンス2014、東京	五十澤彩、小山桂史、大塚諒介、山内潤一郎
シューズの機能性はジョギング時の衝撃力に反映されるのか？	2014年12月	S&Cカンファレンス2014、東京	栗巢玲生、小山桂史、柴田風香、山内潤一郎
足関節底屈における下腿三頭筋と拇指外転筋の筋活動量	2014年12月	S&Cカンファレンス2014、東京	大坂慎、小山桂史、廣瀬立朗、山内潤一郎
足関節底屈速度変化に伴う下腿三頭筋と拇指外転筋の活動特性	2015年1月	第27回バイオエンジニアリング講演会、新潟	小山桂史、山内潤一郎

○その他

(補助金・助成金等)

事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
平成26年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C	2014年4月～平成2016年3月予定	ダイナミック動作における下肢と足部筋の力発揮の関連性の解明と足部装具開発への応用 共同研究者:山内潤一郎

(海外出張)

用件	出張期間	出張先
19th annual Congress of the European College of Sport Science, Mini Oral	2014年7月	VU University Amsterdam and VU University Medical Center Amsterdam (Amsterdam, Nederland)
2th International Congress on Sport Science Research and Technology Support, Oral	2014年10月24日～26日	Rome (Rome, Italy)

(雑誌・新聞記事等掲載)

記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
ランニングにおける足の機能	2014年12月1日	RUNNING style

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本バイオメカニクス学会、日本体力医学学会、日本体育学会、日本トレーニング科学学会、日本バレーボール学会、日本靴医学会、日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学学会大会庶務・会計理事
2014年4月～2015年3月	首都大学東京客員研究員

廣瀬立朗（ひろせ たつろう）専任講師



出生年：1973(昭和48)年
在籍：2009(平成21)年4月～
最終学歴：東京大学大学院
学位：博士(学術)
学位論文：力学的除負荷が筋内コラーゲン代謝に与える影響
専門分野：運動生理学、運動生化学
前職：日本体育大学 助教
学内役職等：
留学：
資格：
非常勤講師：上智大学
受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
骨格筋委縮時における骨格筋細胞のアポトーシスを制御する因子の検討を行っている。筋形成因子の一つであるMyoDが骨格筋委縮時に増加し、さらにアポトーシス反応と関連する可能性があることが知られている。そこで骨格筋委縮モデルを用いてMyoDの発現を制御しアポトーシス反応の変化を検証している。現在、筋委縮モデルの一つである坐骨神経切除と下肢筋群のアポトーシス反応を検証中である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
Wellness, Body and Culture 上智大学テキスト 翻訳、監修	共著	2014年4月	プリントボーイ	廣瀬立朗	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体力医学会 physiology

岡田 俊 恵 (おかだ としえ) 教授



出 生 年 : 1954(昭和29)年
 在 籍 : 1989(平成元)年4月～
 最 終 学 歴 : 津田塾大学大学院修士課程
 学 位 : 文学修士
 学 位 論 文 : A Study on Macbeth
 専 門 分 野 : 英語英文学、英語教育、時事英語
 前 職 : 静岡大学助教授
 学 内 役 職 等 : 桐蔭英語村村長
 留 学 :
 資 格 : 中学教員1級、高校教員1級免許
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 : 市川三喜賞(津田塾大学 1977年)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
マルチメディア教室を活用した双方向授業	2000年～現在	コンピュータ併用のCallシステムを利用して、各種メディアを使う語学授業を展開。
英語プレゼンテーション教育	2005年～現在	大学院生を中心に、英語による研究発表のための原稿作成から口頭発表練習までの指導。
2.作成した教科書、教材、参考書		
外国語特別活動の英語教材	2013年～現在	外国語特別活動(英語)の教材は、市販の教材だけではうまく授業展開できないため、殆ど手作り教材である。
4.その他教育活動上特記すべき事項		
生涯学習センターで社会人講座の担当	2006年1月～現在	生涯学習センターで社会人向け講座「学び直す英語中級」「学び直す英語上級」を担当

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
(1)小学校の外国語教育が特別活動から教科に変更され、実施学年も繰り下がることを受け、すでに現場では前倒しで様々な活動が実践されている。現場の状況を調査するとともに、小学校教員養成課程の教育内容に反映させていく。 (2)ジェームズ朝後期の劇作家ジェームズ・シャーリーの作品研究と、劇場閉鎖に至るまでの演劇界の様相についての研究

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本英文学会、日本シェイクスピア協会

園山和夫 (そのやま かずお) 教授



出生年：1945(昭和20)年
 在籍：2007(平成19)年4月～
 最終学歴：島根大学教育学部教育専攻科教育学専攻修了
 学位：学士(教育学)
 学位論文：
 専門分野：保健体育科教育学、健康教育学
 前職：びわこ成蹊スポーツ大学教授
 学内役職等：スポーツ健康政策学部長(2012～)
 留学：
 資格：
 非常勤講師：川村学園女子大学教育学部(2010～2012)
 受賞・表彰：日本スポーツ教育学会功労賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
多様な方法を用いた授業の展開	2007年～現在	DVD, パワーポイント等を利用した講義、ブレインストーミングやディスカッションなどを用いた授業などの展開

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
保健体育教育の学習内容、指導法、学習評価などに関する研究の深化に努めた。教員免許更新講習会の講師として大学と学校現場の実践交流にも努めた。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
「新・めざそう保健体育教師」	共著	2015年1月	朝日出版社	編者:杉山重利、佐藤豊、 園山和夫	209頁
(総説・論説)					
「体育指導委員からスポーツ推進委員へ」	単著	2014年4月1日	みんなのスポーツ vol.402	-	15-17頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
「小学校における体育学習の考え方・進め方」 (教員免許更新講習会)	2014年7月25日～	公益社団法人日本一輪車協会、 開催地教育委員会	宮城県、栃木県、宮崎県		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本学校保健学会、日本スポーツ教育学会、日本安全教育学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年4月～現在	公益財団法人日本体育協会評議員
2010年4月～現在	公益社団法人日本グラウンド・ゴルフ協会専務理事
2008年6月～現在	公益社団法人全国スポーツ推進委員連合専務理事
2008年4月～現在	公益財団法人日本スポーツクラブ協会理事
2008年6月～現在	公益財団法人スポーツ安全協会理事

2008年10月～現在	公益財団法人日本レクリエーション協会評議員	
2011年4月～現在	公益財団法人日本体育協会総合企画委員会財務部会委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
月刊誌「みんなのスポーツ」編集責任者	2008年4月～現在	公益社団法人全国スポーツ推進委員連合機関紙

並木 浩一 (なみき こういち) 教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都造形芸術大学大学院芸術研究科博士課程芸術専攻
 修了
 学位：博士(学術)
 学位論文：モーリス・ベジャール研究 ——メディアと芸術の関係を軸と
 して(博士論文)
 専門分野：メディア論、表象文化論、身体論
 前職：大同大学情報学部教授
 学内役職等：入試・広報センター長(2013～)
 留学：
 資格：一般旅行業務取扱主任者(運輸省)
 【*現・総合旅行業務取扱管理者(国土交通省)】
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
舞踊についての研究のフィールドを広げ、ハワイのフラと、沖縄の「カチャーシー」を対象に加えた。論文1編を発表。また、表象文化論分野での実践としてのプロダクト批評を継続して行ない、新聞(読売新聞)寄稿2回。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
『沖縄民謡の身体性 -エイサーとカチャーシーそれぞれの『唐船どーい』』	単著	2014年12月	桐蔭論叢第31号		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「高級時計が刻む革新」	2014年5月7日(夕刊)	読売新聞			
「見える時 聞こえる時」	2015年2月4日(夕刊)	読売新聞			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
表象文化論学会、日本映画学会、日本コミュニケーション学会、日本観光学会、情報文化学会

吉田 勝光 (よしだ まさみつ) 教授



出生年：1949(昭和24)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：東亜大学大学院総合学術研究科法学専攻修士課程修了
 学位：博士(体育学) 法学修士
 学位論文：①体育・スポーツ事故に関する法学的研究(博士) ②スポーツ基本条例の制定に係る憲法上の諸問題に関する一考察(修士)
 専門分野：スポーツマネジメント、スポーツ行政・政策、スポーツ法学
 前職：松本大学人間健康学部スポーツ健康学科
 学内役職等：地域連携・生涯学習センター副センター長
 学務部副部長
 全学教職課程委員会委員長
 留学：なし
 資格：①総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー、②行政書士、③日本テニス協会上級公認指導者資格
 非常勤講師：なし
 受賞・表彰：学会賞(平成16年度日本体育・スポーツ経営学会)「法務経営の観点から見た学校体育・スポーツ事故に関する一考察」

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ゼミ活動において、地域の行政補完的団体の活動を体験させる学習の試み	2014年8月	3年のゼミ生はゼミ合宿時において、長野県白馬村のNPO法人白馬総合型地域スポーツクラブのカヌー体験教室(木崎湖)に参加したところ、それが地元紙に記事として掲載された。
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「日本のスポーツ法学教育の現状と課題－アンケート及び独自調査結果報告にみる－」	2014年12月20日	「日本スポーツ法学会第22回大会シンポジウム:スポーツ法学教育の在り方を考える」報告 ※報告書は学会誌掲載予定

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
2013年4月から長野県大町市のスポーツ推進審議会委員として「大町市スポーツ推進計画」策定(2014年3月)に関与し、現在、松本市(スポーツ推進審議会)塩尻市(スポーツ推進計画懇話会)の会長として両市のスポーツ推進計画策定に携わってきた。このため、スポーツ推進計画の策定に関する研究を重点的に行っている。松本市の推進計画は、昨年度末に完成をみ、4月1日から実施されている。この経緯については、今年度中に出版の予定である。また、長野県は健康への関心が高く、同計画への運動(運動指導)による健康の増進の盛り込みに関心を持っている。前勤務先では、総合型地域スポーツクラブ関係の支援事業が、COC事業(文部科学省:「地(知)の拠点整備事業」)の一環として採用されていたことから、三者連携協定(長野県体育センター・長野県総合型クラブ連絡協議会・松本大学間)に基づく事業展開に関する研究を行った。現在、これまでの経緯を含めて論文化に着手している。さらに、日本スポーツ法学会では「スポーツ法学」科目の調査結果を踏まえて、2014年度学会大会で、「スポーツ法学教育の在り方検討委員会」委員長として、テーマ「スポーツ法学教育の在り方を考える」の下、シンポジウムを開催した。現在、これまでの成果を活かすべく、上記委員会のメンバーを中心に標準的なスポーツ法学のテキスト作成に尽力している。来年度完成の予定である。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
リゾートホテルでの健康運動指導の展開－白樺リゾート池の平ホテルの先進的事例を通して－(査読有り)	共著	2014年6月	文理シナジー第18巻第1号	根本賢一、矢島義擴	15-25

スポーツ条例の比較考察－文化 条例との対比の視点から－(査読 あり)	共著	2014年12月	日本スポーツ法学会 年報第21号	吉田隆之	106-127
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名		
シンポジウム「スポーツによる健康長寿への 取り組み」(コーディネータ)	2014年11月	長野県スポーツ推進委員研 究協議会(塩尻市)			
(口頭発表)「地域スポーツ情報の発信に関 する研究－長野県地域の新たな動き－」	2015年3月	日本スポーツ社会学会第24 回大会(関西大学堺キャン パス)			
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
(研修会)「新・スポーツにおけるリスクマネジ メント」(平成26年度 生涯スポーツ研修講座)	2014年6月	長野県体育センター	松本大学(松本市)		
(研修会)「長野県スポーツ指導者研修会(東 北信コース)」	2014年11月	(公財)日本体育協会、(公 財)長野県体育協会	長野バスターミナル会館(長野 市)		
(研修会)「平成26公益財団法人日本体育協 会公認上級養成講習会:スポーツと法」	2014年11月	(公財)愛知県体育協会	愛知県教育会館(名古屋市)		
(講演)「学校体育・スポーツ事故におけるリス クマネジメント」	2015年2月	白雲会(長野県体育センター 勤務経験がある教員で構成さ れた団体)	松本東急イン(松本市)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
「柔道事故 元指導員有罪 長野地裁判決」	2014年5月1日(朝刊)	毎日新聞(全国版) 取材を受け、コメントが掲載され た。			
「指導者『安全へ一層配慮』柔道事故有罪 確定」	2014年5月16日(朝刊)	毎日新聞(地方版) 取材を受け、コメントが掲載され た。			
「白馬NPO 木崎湖でカヌー教室」	2014年8月	大系タイムス紙 取材を受け、コメントが掲載された。			
(その他特記事項)					
「スポーツ六法2014」(信山社)編著(2014年4月)発行。					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育・スポーツ政策学会、日本スポーツ法学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本教育行政学会、日本スポーツ産業学会、 日本スポーツ社会学会、日本公法学会、日本私法学会、文理シナジー学会等	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2003年4月～現在	日本体育・スポーツ政策学会理事、理事長(2009年4月～現在)
2006年12月～現在	日本スポーツ法学会理事、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～ 現在)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)
2013年10月～現在	松本市スポーツ推進審議会委員(会長)
2014年4月～2015年3月	塩尻市スポーツ推進計画懇話会委員(会長)
2013年4月～現在	大町市スポーツ推進委員会委員
2000年4月～現在	日本テニスボール協会評議員

2008年7月～現在	日本スポーツ仲裁機構仲裁人・調停人候補者	
2008年7月～現在	日本スポーツ法学会理事、スポーツ法学教育の在り方検討委員会委員長(2013年10月～現在)、事故判例研究委員会委員長(2013年12月～現在)	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
①研究室ゼミ生(3,4年生)による総合型地域スポーツクラブでの「ジュニア運動教室」及びダンス部員による「ヒップホップ教室」、②ゼミ生による「バドミントン教室」の運営・指導・統括〔長野県塩尻市立桔梗小学校体育館等〕	2014年4月～2015年3月 (月2回)	依頼先:①たかいで総合型地域スポーツクラブ(長野県塩尻市)、②北小野総合型地域スポーツクラブ(同左) ※長野県総合型クラブ連絡協議会・長野県体育センター・前所属大学間の三者連携協定に基づく。
「松本市スポーツ推進計画」策定に大きく関わった。すなわち、自分のこれまでの研究成果や経験を踏まえて、原案を文章化したり、委員の意見をまとめたりした。現在、この経緯をまとめた書物を発行するべく進めている。	2013年10月～現在	松本市教育委員会
平成26年度文部科学省委託事業「障害者のスポーツ参加における安全確保に関する調査研究」に副座長として関わった。その成果を、報告書「公共スポーツ施設における障害者の利用促進・安全確保に関する調査研究」にまとめた。	2014年8月～2015年3月	事業委託者:文部科学省、事業受託者:NPO法人STAND

今泉隆裕 (いまいずみ たかひろ) 准教授



出生年：1975(昭和50)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：法政大学大学院人文科学研究科博士課程日本文学専攻
 単位修得退学
 学位：修士(文学)
 学位論文：修羅能の道程
 専門分野：日本文学、宗教学
 前職：法政大学国際日本学研究所学術研究員
 学内役職等：
 留學：
 資格：中学校教員専修免許状(国語)
 高等学校教員専修免許状(国語)
 博物館学芸員資格
 非常勤講師：法政大学非常勤講師(文学Ⅰ、文学Ⅱ)
 受賞・表彰：

Ⅱ 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
復曲(高安)謡本 製作監修	共著	2014年10月	高安能未来継承事業推進協議会	西野春雄、今泉隆裕、橋場夕佳、生一知哉、高安勝久	製作監修
(学術論文)					
「幽霊能における告白—その類型と表現に関する覚書(後編)」	単著	2014年6月15日	桐蔭論叢 第30号		227-231頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)「脇能における大臣ワキについて」	2014年9月13日	日本宗教学会 第72回学術大会(第12部会)、同志社大学(今出川キャンパス)			
(公開講座・講師)「番外曲『高安』の変遷(連続講座『伊勢物語』と高安 第6回)」	2014年10月18日	主催 八尾市・高安能未来継承事業推進協議会、後援 日本ユネスコ協会連盟、八尾市文化財調査研究会、協賛 大阪経済法科大学、八尾ライオンズクラブ、企画 高安ルーツの能実行委員会	今泉隆裕・橋場夕佳		
○その他					
(雑誌・新聞記事等掲載)					
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称			
(エッセイ)「体育とスポーツ—スポーツの原義とその多様性—」	2014年6月	Sportsmedicine2014、161号、40-41頁			
(エッセイ)「スポーツマンはアスリート？」	2014年7月	Sportsmedicine2014、162号、42-43頁			
(エッセイ)「健全なる身体に健全なる精神が宿る?—ユウエナーリスの真意—」	2014年8月	Sportsmedicine2014、163号、40-41頁			
(エッセイ)「ソフトボールはインドアスポーツ?ときどき軟式野球と能楽」	2014年10月	Sportsmedicine2014、164号、46-47頁			

(エッセイ)「〈走る〉と〈狂〉—前近代における〈走る〉—」	2014年11月	Sportsmedicine2014、165号、42-43頁
(エッセイ)「クロールはオーストラリア原産—クローラ雑談—」	2014年12月	Sportsmedicine2014、166号、46-47頁
(その他特記事項)		
(発表要旨)「脳能における大臣ワキについて」日本宗教学会 第73回学術大会(第12部会)、宗教研究88(4)、2015年3月		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本宗教学会、能楽学会、楽劇学会、漢文教育学会

大野 哲也 (おおの てつや) 准教授



出生年：1961(昭和36)年
 在籍：2012(平成24)年～
 最終学歴：京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程 指導認定退学
 学位：博士(人間・環境学)、修士(社会学)、修士(人間・環境学)
 学位論文：書き換えられる記憶, 定型化する物語—日系アルゼンチン移民の過去の再構成の試みから—(修士論文:社会学)
 『自分探し』の旅という神話を超えて—アジアにおける日本人バックパッカーの調査から—(修士論文:人間・環境学)
 冒険的な旅から冒険的な生き方へ—アジアにおける日本人バックパッカーの「自分らしさ」の軌跡から(博士論文:人間・環境学)
 専門分野：文化人類学、社会学、環境人間学
 前職：京都大学GCOE短時間研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭1級普通免許(保健体育)
 高等学校教諭2級普通免許(保健体育)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『シリーズ メディアの未来④ 観光メディア論』	共著	2014年5月	ナカニシヤ出版	遠藤英樹・寺岡伸悟・堀野正人	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本社会学会、日本文化人類学会、環境社会学会、社会学研究会、観光学術学会

田中 暢子 (たなか のぶこ) 准教授



出生年：1967(昭和42)年
 在籍：2013(平成25)年～
 最終学歴：ラフバラ大学大学院スポーツ・レジャー政策研究科博士課程
 スポーツ政策学・スポーツマネジメント学修了
 学位：博士(スポーツ政策学・スポーツマネジメント学)
 学位論文：“An analysis of the policy-making process for disability sport in Japan and the UK/ England: The cases of wheelchair basketball, CP sport and intellectual disability” (ラフバラ大学2013年)
 専門分野：スポーツ政策学、健康政策学、スポーツ社会学、障害学
 前職：中央大学保健体育研究所 客員研究員
 学内役職等：国際交流センター副センター長
 留学：ラフバラ大学
 資格：弓道2段、中学校社会科教諭第一種免許、高等学校社会科教諭第一種免許、図書館司書教諭免許、障害者職業カウンセラー、上級介護予防運動スペシャリスト
 非常勤講師：中央大学、筑波大学
 受賞・表彰：1990年 関東学院大学学長賞受賞
 1998年 オーストラリア知的障害者スポーツ・レクリエーション協会表彰
 2003年 ラフバラ大学大学院国際奨学生受賞
 2010年 警察庁長官賞受賞(高齢者エアロビックプログラム開発)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
授業の内容をまとめたパワーポイントやワードを資料として配布。		資料には、参考資料は必ず掲載する。特に学生の学習意欲を高めるために、映像やグループディスカッションといった参加型の授業も展開する。たとえば、高齢化社会論では、高齢者の身体特性を学んだ後に、運動プログラムを班ごとに作成し、発表する機会を提供した。なお、発表に至るまでは、教員が何度もプログラム内容についてアドバイスする時間も設けた。
2.作成した教科書、教材、参考書		
		文部科学省(2010)スポーツ政策調査研究(共著)、田中暢子(2012)障がい者とスポーツ、川西正志と野川春夫(編)、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会(2012)パラリンピック選手の競技環境 その実態と意識調査(共著)、加藤千恵子、喜岡恵子、渋谷英雄、杉本富利、田中暢子、田村美智子、鳥田部達(2011)失敗しない社会調査法(共著)他

4.その他教育活動上特記すべき事項		科学研究などのテーマは国際比較(特に政策学的分析)を行っているが、2013年10月には、専門とする精神障害者の国際シンポジウム・のコーディネーター及び、国際会議の議長を務めた(日英で)。
-------------------	--	---

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
研究代表者を務める、科学研究費基盤Cの2年目の研究は引き続き行った。また、笹川スポーツ財団より2014年度研究費助成を受け、研究代表者として、選手会の機能と役割について、国際パラリンピック委員会並びに海外の選手会の動向について調査研究を行った。さらに、神戸大学が受託した文部科学省の調査の分担者として、国内の選手、指導者に対する質的研究、量的研究、モデルとなりうるパラリンピアンが使用するトレーニング会場の先進事例調査、並びに、海外の動向として、英国のトップ選手を支援するシステムについて研究を行った。また、協力研究員として、筑波大学菊教授の科学研究基盤Bの調査も昨年度に引き続き参画した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
オーストラリアにおける障がいのある人のスポーツ環境	単著	2015年2月	大修館書店	-	966-970頁
イギリス	単著	2015年2月	大修館書店	-	73-74頁
(総説・論説)					
日本の障害者エリートスポーツの国際競技力における将来予測に関する研究-障害者スポーツに特化したSPLISSモデルの構築-	共著	2014年4月	2013年度笹川スポーツ研究助成 研究成果報告書、笹川スポーツ財団	岡田梓, 田中暢子, 野川春夫	38-49頁
『トップアスリートの強化・研究活動拠点の在り方に関する調査研究(パラリンピック競技における選手、指導者及び競技団体のニーズ調査並びに諸外国の情報収集業務等)』	共著	2014年10月	文部科学省 諸外国におけるスポーツ振興施策に関する調査研究	統括責任者, 研究協力者 リーダー: 山口泰雄, 業務責任者: 秋本忍, アドバイザー委員: 中森邦夫, 桜井誠一, 荒木雅信, 藤田紀昭, 田中暢子, 金山千広, 奥田睦子, 長ヶ原誠, 秋本忍, 高見和至, 山口志郎, 工藤康宏, 上代圭子, 秋吉遼子, 石澤伸弘, 岡田千あき, 朴永貞	選手調査・指導者調査8-154頁, 英国調査報告244-290頁
(学術論文)					
国際比較に基づくわが国の障害者スポーツの現在地	単著	2014年6月	体育の科学第64巻(6)	-	416-421頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(学会)					
An International Comparative Study on the Sport Development for People with Mental Health Problems in 5 Nations (査読あり)	2014年7月	XVIII International Sociology Association World Congress Yokohama, (開催会場: 横浜パシフィコ)	田中暢子, 奥田睦子, 佐々木朋子		

An International Comparative Study on the Sport Development for the Disabled Between Germany and Japan (査読あり)	2014年7月	XVIII International Sociology Association World Congress Yokohama, (開催会場: 横浜パシフィコ)	奥田睦子, 田中暢子, 佐々木朋子
(シンポジウム)			
スポーツとしての価値変換を図る障害者スポーツ~東京2020パラリンピック大会への期待も込めて	2014年12月	第44回大会 日本レジャー・レクリエーション学会 シンポジウム, (開催場所: 立教大学)	シンポジウム パネリスト
~障害者スポーツから問う東京2020パラリンピック大会~	2015年3月	第24回日本スポーツ社会学会 シンポジウム「スポーツ立国戦略」とオリンピック・パラリンピック2020東京, (開催場所: 関西大学堺キャンパス)	シンポジウム パネリスト
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
Adapted sport (講習会講師)	2014年9月	筑波大学TIAS	筑波大学つくばキャンパス
International trends and issues on sport for people with mental health problems (特別講演)	2015年3月	イタリア精神障害者サッカー協会 SPORT E SALUTE MENTALE	Universita Europea di Roma, Italy
○その他			
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
精神障害者スポーツ推進システムの国際比較研究(研究代表者)	2013年4月~2016年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	
「新しい公共」形成をめぐる民間スポーツ組織の公共性に関する研究(研究協力者)	2013年4月~2016年3月	科学研究費補助金(日本学術振興会)	
パラリンピック・選手会の意義・役割に関する国際比較研究-アスリート・ファーストが強調される現代における選手会昨日と政治力-(研究代表者)	2014年3月~2015年3月	2014年度 笹川スポーツ研究助成	
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
国際車いすバスケットボール連盟ワールドコングレス	2014年7月	2014年度 国際車いすバスケットボール連盟選手権大会(韓国・仁川)	
文部科学省「トップアスリートにおける強化・研究拠点の在り方についての調査研究」	2014年8~9月	スポーツイングランド、EIS(イングランドスポーツ科学研究所)、イングランドサッカー協会、英国自転車協会、英国水泳協会、英国車いすバスケットボール協会、イングランドバレーボール協会、イングランドカヌー協会、ウースター大学、リーズバケット大学、ほか(英国)	
笹川スポーツ財団研究	2015年2月	香港障害者スポーツ協会、香港フェンシング協会ほか	

科学研究費研究	2015年3月	UISP(イタリア・スポーツ・フォー。オール協会)、イタリア精神障害者サッカー協会、イタリアソーシャルフットボール
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「障害者スポーツの環境づくり」	2014年5月30日	毎日新聞全国版(11面)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本スポーツ社会学会、日本スポーツ精神医学会、日本社会福祉学会、日本体育・スポーツ政策学会、障害学会、日本障害者体育・研究会 他	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～	NPO法人山下ウェルキャブの会ドルフィンズ理事(現在に至る)
2011年5月～	神奈川県エアロビック連盟諮問委員会委員長(現在に至る)
2012年3月～	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザー(現在に至る)
2012年4月～	日本スポーツ精神医学会役員理事(現在に至る)
2012年10月～	精神障害者スポーツ国際化実行委員会委員・事務局長(現在に至る)
2013年2月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会理事/国際委員会委員長(現在に至る)
2013年3月～	文部科学省スポーツ青少年局 技術審査委員会委員(現在に至る)
2013年6月～	NPO法人日本ソーシャルフットボール協会理事/国際委員会委員長(現在に至る)
2014年3月～	文部科学省競技スポーツ課 技術審査委員会委員(現在に至る)
2014年6月～	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与(現在に至る)
2014年6月～2015年3月	文部科学省トップアスリートにおける強化・研究拠点の在り方についての調査研究に関する有識者会議委員
2014年6月～2015年3月	文部科学省トップアスリートにおける強化・研究拠点の在り方についての調査研究に関する有識者会議パラリンピックワーキンググループ委員
2014年8月～2015年3月	文部科学省「障害者スポーツにおける安全確保に関する調査研究」事業協力者会議座長
2014年10月～	東京都教育委員会「東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議」委員(現在に至る)
2014年10月～	神奈川県スポーツ推進審議会委員(現在に至る)
2014年10月～	特定非営利法人日本障害者スキー連盟理事(現在に至る)
2015年3月～	公益財団法人日本サッカー協会障がい者サッカー設立部会有識者(現在に至る)

小笠原 一 彰 (おがさわら かずあき) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
在籍：2014(平成26)年4月～
最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科健康・スポーツ系教育専攻
学位：修士(教育学)
学位論文：競泳選手のクリティカル・スイム・スピードの決定
専門分野：コーチング学、トレーニング科学、運動生理学、スポーツ心理学
前職：桐蔭学園中高社会科教員(専門:日本史)
学内役職等：
留学：
資格：中高社会科教員1種免許(地理歴史)
非常勤講師：
受賞・表彰：早稲田大学体育名誉賞(1993)、神奈川県水泳連盟特別功労賞(2012)

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本体力医学会、運動生理学会、水泳水中運動学会、スポーツ心理学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1995年4月～現在	神奈川県水泳連盟強化委員
2000年4月～現在	神奈川県高校体育連盟水泳専門部常任委員

佐藤 国正 (さとう くにまさ) 専任講師



出生年：1983(昭和58)年
 在籍：2012(平成24)年4月～
 最終学歴：日本体育大学大学院体育科学研究科体育科学専攻博士
 前期課程修了
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：スポーツと暴力に関する文化論的研究－運動部活動の指
 導場面に着目して－(修士論文)
 専門分野：スポーツ哲学、バレーボール、コーチング
 前職：宮城県石巻市立稲井中学校臨時的教員(保健体育科)
 学内役職等：
 留学：
 資格：国際バレーボール連盟公認コーチ資格(レベルII)
 公益財団法人日本バレーボール協会公認講師
 財団法人日本体育協会上級コーチ
 財団法人日本体育協会公認スポーツリーダー
 中学校・高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 中学校・高等学校教諭1種免許状(保健体育)
 実用フランス語技能検定3級
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
運動部活動の指導現場に生じている暴力問題に着目し、研究活動を継続的にこなっている。また、学生スポーツを取り巻く今日の状況に触れながら、学生スポーツの本質とは何かについて、オリンピズムをキーワードに研究活動を進めている。今後の研究活動のテーマは【スポーツ・インテグリティー】である。					
○著書・論文等					
(学術論文)					
運動部活動の指導場面における暴力の生起に関する研究－攻撃性に着目して－	単著	2014年6月	桐蔭論叢第30号	－	83－90頁
学生スポーツの本質に関する研究－オリンピズムに着目して－	単著	2014年12月	桐蔭論叢第31号	－	39－45頁
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名		開催場所	
「スポーツによる社会貢献の可能性を探る」	2015年1月25日	桜門体育学会		日本大学文理学部・百周年記念館	

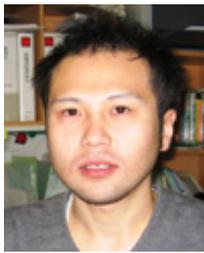
III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会、日本バレーボール学会、日本体育・スポーツ哲学学会、日本オリンピックアカデミー、	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2013年6月1日～2015年5月31日	日本オリンピックアカデミー総務委員会委員

IV芸術、体育実技、課外活動における業績

会の名称	年月日	場所	内容等
(バレーボール部部長兼監督)			
2014年度春季関東大学バレーボールリーグ戦男子6部Bリーグ、女子5部Bリーグ	2014年4月～5月	東京都市大学、茨城大学、他	男子3勝2敗(6位／総合7位) 女子4勝1敗(2位／総合4位)
2014年度神奈川県知事杯大学バレーボールリーグ戦男子2部、女子2部	2014年6月	東海大学	男子2勝1敗(1位／1部昇格) 女子3勝1敗(2位)
2014年度東日本バレーボール大学選手権大会男子・女子	2014年6月	東京体育館、他	男子2回戦敗退 女子1回戦敗退
2014年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦男子6部Bリーグ、女子5部Aリーグ	2014年度9月	千葉商科大学、埼玉大学、他	男子3勝2敗(4位／総合8位) 女子0勝5敗(6位／総合11位)
2014年度神奈川県大学バレーボール連盟トーナメント(男子)(女子)	2014年11月	神奈川大学	男子:1回戦敗退 女子:1回戦敗退
2014年度全日本バレーボール大学女子選手権大会	2014年12月	大田区総合体育館	グループ戦敗退

田中宏和 (たなか ひろかず) 専任講師



出生年：1977(昭和52)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科博士後期課程
 単位取得後退学
 学位：修士(体育科学)
 学位論文：戦後日本におけるスポーツ政策の展開に関する研究－「体育政策」から「スポーツ政策」への転換－
 専門分野：スポーツ行政学、スポーツ政策学、スポーツマーケティング
 前職：国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 助手
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許(保健体育)
 高等学校教諭専修免許(保健体育)
 非常勤講師：東洋大学、東京有明医療大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
映像を用いた実技授業	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法・剣道コーチング論)において、習得すべき技術を映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。
レポートによる種目特性の習得	2008年4月～現在	実技科目(剣道・剣道指導法)において実技技能以外の種目特性の習得のためレポートの作成等の工夫を行っている
映像を用いた授業	2014年4月～現在	地域スポーツ経営論において地域スポーツの現状を把握するために映像等を用いて説明を実施し、学習の促進を行った。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略
戦後わが国におけるスポーツ政策に関する研究をテーマとし、戦後わが国の体育・スポーツに関する政策を国及び地方自治体の双方の側面から総合的に捉え、またスポーツ政策が他の様々な施策、特に教育政策の支持・援助あるいは統制を受けつつも、その社会状況に即し、いかに形成・推進され、わが国のスポーツに影響を及ぼしたかを明らかにすることを目的とし、研究を進めてきた。とりわけ地方自治体におけるスポーツ政策の実情についての資料蒐集を行ってきた。またこれまで同様、新しい公共・ナショナリズムに関する研究会を毎月開催した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会、日本体育・スポーツ政策学会、日本NPO学会、日本体育・スポーツ経営学会、日本スポーツマネジメント学会

田村 和 寿 (たむら かずひさ) 特任教授



出生年：1941(昭和16)年
 在籍：2008(平成20)年4月～
 最終学歴：早稲田大学第一政治経済学部経済学科
 学位：経済学士
 学位論文：「生活高次化に伴う消費関数の研究…デューゼンベリー論の検証」
 専門分野：理論経済学、都市・地域研究、まちづくり論、文化政策論、地域計画論、都市経営論
 前職：(株)都市計画連合アトリエ代表取締役
 亜細亜大学 学長補佐・地域産学公連携推進室コーディネーター
 早稲田大学 芸術学校 都市デザインコース講師
 学内役職等：生涯学習センター長、入試問題検討委員
 留学籍：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：武蔵野市行政功労者等
 東京都知事表彰…都市交通整備対策への貢献

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
講義での専門テーマ性に加えての基礎的教養や社会的常識の重視。 (主対象は2, 3年次生)		講義テーマは主に‘まちづくり’、‘地域文化’そして‘地域スポーツ’であり、豊富な事例、トピックス、周辺関連事項を引き、語彙や概念についての理解を促すよう努めている。講義は各回ごとのレジュメと講話を主軸に充実に努めている。
ゼミナール運営ではゼミ生各個人の自立性向上と良き社会人への成長を念頭に、テーマ学習と議論、プロセス重視の卒研・卒論指導そして地域参加等の活動に力を注いでいる。 (主対象は3, 4年次生)		ゼミの2年間を実社会進出への準備段階と位置付け、その有効化のため広い視野からの‘マイ・プロジェクト’を決めてもらい、ゼミ内での懇親も含め多面にわたるその自主的展開へのサポートを心掛けている。
‘まちづくり’や‘地域研究’と言ったテーマ性からも、出来る限り実際の街や地域との触れ合いと双方向コミュニケーションによる理解、認識の促進機会を設ける。 (ゼミ生プラスその他希望者)		実際には2012年度本学に近い桜台地区の住民組織との協働により地域懇談会での議論やまちづくり提案作成に参加の機会を得るに至った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
授業での講義レジュメ作成への注力。		担当科目の講義全回に当たって、豊富な参考事例に富んだオリジナリティ重視のレジュメ作成に努めている。講義のテーマ、内容から状況の経年的変化も激しく、こうした動向のフォローは自らの調査や研究にも不可欠となっている。
講義に於いてはレジュメ自体が入門書の役割を担っているが、事例集なども含め膨大な参考文献・メディア資料等の存在も事実であり、これらについてはレジュメに載せ、或いは実物を見せ出来るだけ多くを紹介することになっている。ゼミではその他に図書館や大型書店に学生と同道し、実物を見つづ説明し、評価や判断の手助けをしている。		
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
‘3・11東日本大震災復旧における大学生ボランティア活動の支援’(NPO法人シャンティ)	2012年7月～	宮城県気仙沼南部地域災害復旧への多数大学参加による活動の支援協力。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略

本学着任以来講義等の主軸に置いてきた「街・地域づくりと文化」、文化行政」等のテーマへの旧来からのアプローチにより現実的で多層的な見方を加え、議論の活性化を図ることを試みた。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

早稲田大学都市計画フォーラム、市民と議会の条例づくり交流会議、社団法人知識資源機構

2014年5月～民間R社「将来における大型スポーツリゾートのイメージとあり方」について

任期、活動期間等

学会・機関・団体等における役職等

1990年4月～現在

武蔵野市自転車等駐車対策協議会 委員長

1996年～現在

早稲田大学都市計画フォーラム 運営委員

2007年～現在

市民と議会の条例づくり交流会議 会員

2010年5月～現在

(社)知識資源機構 理事

中 林 伸 浩 (なかばやし のぶひろ) 特任教授



出 生 年 : 1941(昭和16)年
 在 籍 : 2007(平成19)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学大学院社会学研究科文化人類学専攻博士課程
 単位修得退学
 学 位 : 博士(人間科学)(大阪大学)
 学 位 論 文 : 「国家を生きる社会・・・西ケニア・イスハの氏族」
 専 門 分 野 : 文化人類学
 前 職 : 金沢大学文学部人間学科教授
 学 内 役 職 等 :
 留 学 : 英国ケンブリッジ大学(1969.9～1971.3)
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

II 研究活動

○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
「アフリカの植民地政府と農民的な地縁組織」	単著	2014年6月	桐蔭論叢 第30号		209-216頁

大学院

工学研究科 (Graduate School of Engineering)

杉本恒美 (すぎもと つねよし) 教授



出生年：1964(昭和39)年
在籍：1993(平成5)年4月～
最終学歴：東京工業大学大学院博士課程
学位：博士(工学)
学位論文：放射圧を用いた生体組織の硬さ計測に関する基礎的研究
専門分野：超音波工学、音響工学、生体医用工学
前職：
学内役職等：研究推進部副部長(2011～)
大学院アドミッション委員(2012～)
環境エネルギー学環 研究推進チームメンバー(2011～)
英語村実行委員(2013～)
留学：
資格：第一種情報処理技術者
日本超音波医学会「超音波工学Fellow」(1999～)
非常勤講師：
受賞・表彰：Scilab Toolbox Japan Contest 2009, 一般部門 最優秀賞
建設施工と建設機械シンポジウム2014 論文賞

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
「世界中のコンクリート欠陥探査の常識が変わる!？」 -最新 非接触音響探査法のすべて-	2014年9月27日	非接触音響探査法に関する最新Topic(参加者、理数科約30名)
4.その他教育活動上特記すべき事項		
「風も無いのに葉っぱが揺れる？」 おもしろ理科教室	2013年～	パラメトリック音源を用いた音響放射圧の実験
「音波に関する実験」 桐蔭高校理数科課題研究	2013年～	パイプを用いた楽器作り(共振)、各種音源特性(指向性)等の実験

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
・農工融合計測 1. 超節水精密農業技術の開発(JST CREST 分担研究者 5年目) 2. 葉の振動計測による植物の水ストレスの評価に関する研究(基盤C、分担研究者2年目) ・非破壊計測 1. 音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他(受託研究 佐藤工業 H26.6-H26.9) 2. 鉄筋の腐食によるひび割れに対する非接触音響探査法の適用性の検討(合同研究 IHI検査計測 H26.10-H26.3) 3. はね出し部対策施工箇所等の非接触検査手法の検討作業(受託研究 佐藤工業 H26.12-H26.3) 4. 音響探査法による構造物欠陥部の検査方法の開発(その1)(奨学寄付金 佐藤工業 H26.6-H27.3) 5. 音響探査法による構造物欠陥部の検査方法の開発(その2)(奨学寄付金 佐藤工業 H27.1-H27.12) ・医用計測 1. コロトコフ音波形解析による健康管理指標値の研究(アクアメイトでの計測を継続)					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「音波を用いた土壌探査技術」	単著	2014年2月7日	騒音制御 Vol.38 No.1	杉本恒美	22-27頁

(学術論文)					
“Study on detectable size and depth of defects in noncontact acoustic inspection method”	共著	2014年6月26日	Japanese Journal of Applied Physics Vol.53 (2014)	Kageyoshi Katakura, Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa	07KC15
コンクリート非破壊検査のための遠距離非接触音響探査法	共著	2014年7月9日	コンクリート工学年次論文集, Vol.36. No.1	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義	2062-2067頁
「葉の振動計測による植物の水ストレス状態の推定」	共著	2014年10月27日	桐蔭論叢 第30号	佐野元昭, 有馬赳彬, 中川 裕, 杉本恒美	155-161頁
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート非破壊検査 —振動エネルギー比を用いた探査アルゴリズムに関する検討—」	共著	2014年10月27日	桐蔭論叢 第30号	杉本恒美 , 赤松亮	163-171頁
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート非破壊検査 —トーンバースト波を用いたS/N比改善—」	共著	2014年10月27日	桐蔭論叢 第30号	赤松 亮, 杉本恒美	173-183頁
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート非破壊検査 —N2U-BRIDGEとアスファルト供試体における探査結果例—」	共著	2014年10月27日	桐蔭論叢 第30号	上地 樹, 赤松 亮, 杉本恒美	185-191頁
「植物栽培中の培養土における体積含水率と伝搬音速の関係に関する検討」	共著	2014年10月27日	桐蔭論叢 第30号	中川 裕, 杉本恒美	193-199頁
「コンクリート構造物非破壊検査のための遠距離非接触音響探査法」	共著	2014年11月27日	建設施工と建設機械シンポジウム論文集 2014	杉本恒美 , 歌川紀之, 片倉景義	137-142頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
“Study on plant health condition monitoring by vibration measurement of leaf using acoustic radiation force”	2014年5月22日	the 7th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB) (Yilan, Taiwan)	T.Sugimoto , M.Sano, Y.Nakagawa, T.Shirakawa, K.Yamagishi, T.Sugihara, M.Ohaba, S.Shibusawa		
“Water saving system for advanced precision agriculture (WSSPA)”	2014年5月22日	the 7th International Symposium on Machinery and Mechatronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB) (Yilan, Taiwan)	S.Shibusawa, M.Kodaira, K.Osato, Y.Horino, M.S.B.Zainal Abidin, T.Sugimoto , T.Fujita		
「非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究、-探査可能な欠陥の深さと大きさについての検討-」	2014年5月28日	物理探査学会第130回学術講演会 早稲田大学国際会議場	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義		
空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討、-トーンバースト波を用いたS/N比の改善—	2014年6月3日	日本非破壊検査協会平成26年度春季講演大会講演概要集, pp53-56, 2014.6.3(アルカディア市ヶ谷)	杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義		
空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討、-現地における適用性の検討—	2014年6月3日	日本非破壊検査協会平成26年度春季講演大会講演概要集, pp57-60, 2014.6.3(アルカディア市ヶ谷)	歌川紀之, 片倉景義, 赤松亮, 杉本恒美		
レーザ変位計を用いた葉の振動計測による植物の水ストレス評価	2014年6月18日	第53回光波センシング技術研究会講演論文集LST53-13, pp89-94, 2014.06.18(東京理科大学・森戸記念館)	佐野元昭, 有馬赳彬, 中川裕, 杉原敏昭, 杉本恒美		

空中放射音波とレーザードップラ振動計を用いた遠距離非接触音響探査法、-実コンクリート構造物での探査結果例-	2014年6月18日	第53回光波センシング技術研究会講演論文集LST53-23, pp155-160, 2014.06.18(東京理科大学・森戸記念館)	杉本恒美、赤松亮、歌川紀之、片倉景義
「音響探査法における欠陥の探査のアルゴリズムの検討」	2014年7月9日	コンクリート工学年次大会 2014 サンポート高松	歌川紀之、赤松亮、杉本恒美、片倉景義
「コンクリート非破壊検査のための遠距離非接触音響探査法」	2014年7月9日	コンクリート工学年次大会 2014 サンポート高松	杉本恒美、赤松亮、歌川紀之、片倉景義
“Study on plant health condition monitoring using acoustic radiation force”	2014年7月21日	12th International Conference on Precision Agriculture Hyatt Regency, Sacramento, California, USA	T.Sugimoto, Y.Nakagawa, M.Sano, T.Shirakawa, K.Yamagishi, T.Sugihara, M.Ohaba, S.Shibusawa
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 -(1)アスファルト供試体を用いた音響探査の適用実験-」	2014年9月10日	土木学会第69回年次学術講演会 大阪大学 豊中キャンパス	上地 樹, 杉本 恒美, 赤松 亮, 歌川 紀之, 片倉 景義
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 -(2)トーンバースト波とゲート処理を用いたS/N 比の改善-」	2014年9月10日	土木学会第69回年次学術講演会 大阪大学 豊中キャンパス	杉本恒美, 赤松 亮, 上地 樹, 歌川紀之, 片倉景義
「音響探査法を用いたコンクリート表層欠陥探査技術の開発 -(3)ボックスカルバートのはく離探査への適用-」	2014年9月10日	土木学会第69回年次学術講演会 大阪大学 豊中キャンパス	歌川紀之, 片倉景義, 上地 樹, 赤松 亮, 杉本恒美
「非接触音響探査法を用いたコンクリート構造物の検査法」	2014年10月2日	鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験部門 ミニシンポジウム 東北学院大学 土樋キャンパス8号館5階・押川記念ホール	杉本恒美, 歌川紀之, 上地 樹, 黒田千歳, 杉本和子, 片倉景義
“Non-Contact Acoustic Inspection Method using Air-borne sound for Concrete Structures”	2014年10月7日	11th European Conference on Non-Destructive Testing (ECNDT 2014) Prague Congress Center, Prague, Czech Republic	Tsuneyoshi Sugimoto, Ryo Akamatsu, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
「非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究、-強力超音波音源を用いた欠陥検出についての検討-」	2014年10月23日	物理探査学会第131回学術講演会 清水テルサ	杉本恒美, 上地樹, 杉本和子, 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討、-円形欠陥を埋設したコンクリート供試体を用いた探査実験結果について-」	2014年10月29日	日本非破壊検査協会 平成26年度秋季講演大会 名古屋国際会議場	杉本恒美, 上地樹, 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義
「空中放射音波を用いた非接触欠陥検出法に関する検討、-はく離を模擬した試験体を用いた探査実験結果について-」	2014年10月29日	日本非破壊検査協会 平成26年度秋季講演大会 名古屋国際会議場	歌川紀之, 黒田千歳, 片倉景義, 杉本恒美, 上地樹
“Study on the Non-Contact Acoustic Inspection Method for Concrete Non-Destructive Testing -The evaluation experiment using the asphalt test object-”	2014年11月8日	9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME) Memorial Academium	Itsuki Uechi, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on Estimation of Volume Water Content in Culture Soil using Handheld Sound Source and Sensors (2)”	2014年11月8日	9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME) Memorial Academium	Takashi Shirakawa, Takeyuki Ohdaira, Yutaka Nakagawa, Motoaki Sano, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on measurement of the pressure in soil with the pressure sensor”	2014年11月8日	9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME) Memorial Academium	Takeyuki Ohdaira, Tsuneyoshi Sugimoto, Motoaki Sano, Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa

“Basic Study about the Relation between the Natural Frequency and Water Stress in the Plant”	2014年11月8日	9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME) Memorial Academium	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto
“Study on Non-contact Inspection Method for Concrete Structures by using Air-borne Sound Wave — Defect detection algorithm using vibration energy ratio and spectrum entropy —”	2014年11月8日	9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME) Memorial Academium	Kazuko Sugimoto, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda, Kageyoshi Katakura
“Study on Non-contact Inspection Method for Concrete Structures by using Air-borne Sound Wave -Study about the Strong Ultrasonic Sound Source-”	2014年11月8日	9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2013(ISBME) Memorial Academium	Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
「音響探査法を用いたコンクリート構造物の探査」	2014年11月26日～27日	建設施工と建設機械シンポジウム論文集 機械振興会館	歌川 紀之, 上地 樹, 杉本 恒美
“Study on Estimation of Volume Water Content in Grove Soil using Handheld Sound Source and Sensors”	2014年12月3日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Takashi Shirakawa, Yutaka Nakagawa, Takeyuki Ohdaira, Kaoru Yamagishi, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano, Sakae Shibusawa
“Estimation of Water Stress of Plant by Vibration Analysis of Leaf with High Speed Camera”	2014年12月3日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Motoaki Sano, Takuya Anzai, Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Takashi Shirakawa, Kaoru Yamagishi, Takeyuki Ohdaira, Sakae Shibusawa
“Study on the Non-contact Acoustic Imaging Method for Concrete Structures after the Asphalt Pavement”	2014年12月3日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Itsuki Uechi, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“Basic Study about the Long Distance Non-Contact Acoustic Inspection Method using a Strong Ultrasonic Sound Source”	2014年12月4日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Tsuneyoshi Sugimoto , Ryo Akamatsu, Itsuki Uechi, Kazuko Sugimoto, Noriyuki Utagawa, Kageyoshi Katakura
“Study on the defect detection algorithm by the non-contact acoustic inspection method using spectrum entropy”	2014年12月4日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Kazuko Sugimoto, Ryo Akamatsu, Tsuneyoshi Sugimoto , Noriyuki Utagawa, Chitose Kuroda, Kageyoshi Katakura
“Basic Study on the Detection of the Water Stress in the Plant using Ultrasonic Sound Source”	2014年12月5日	Symposium on Ultrasonic Electronics 2014 (USE2014) Meiji Univ. Academy common	Yutaka Nakagawa, Tsuneyoshi Sugimoto , Motoaki Sano, Takashi Shirakawa, Kaoru Yamagishi, Takeyuki Ohdaira, Sakae Shibusawa
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート表層部の欠陥映像化に関する研究 -強力超音波音源に関する検討-」	2015年2月27日	アコースティック・イメージング研究会 IHI横浜ゲストハウス	杉本恒美 , 赤松亮, 上地樹, 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義
「SLDVと空中放射音波を用いたコンクリート表層部の欠陥映像化に関する研究 -振動エネルギー比とスペクトルエントロピーを用いた欠陥検出アルゴリズム-」	2015年2月27日	アコースティック・イメージング研究会 IHI横浜ゲストハウス	杉本和子, 赤松亮, 杉本恒美 , 黒田千歳, 歌川紀之, 片倉景義
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究 — 欠陥検出アルゴリズムに関する基礎検討 —」	2015年3月16日	日本音響学会 中央大学	杉本和子, 杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義
「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究—アンカーボルトにおける接着剤の充填率に対する適用性の検証—」	2015年3月16日	日本音響学会 中央大学	上地樹, 杉本恒美 , 赤松亮, 歌川紀之, 片倉景義

「コンクリート非破壊検査のための非接触音響探査法に関する研究—強力超音波音源に関する基礎検討—」	2015年3月16日	日本音響学会 中央大学	杉本恒美, 上地樹, 杉本和子, 歌川紀之, 片倉景義
「音響振動による植物吸水ニーズの推定に関する研究—植物育成時の固有振動数と葉の表面温度の比較に関する検討—」	2015年3月18日	日本音響学会 中央大学	中川裕, 杉本恒美, 佐野元昭, 白川貴志, 大平武征, 内川千春, 澁澤栄
「音波振動による土壌中の水分分布計測に関する研究—植物栽培中の伝搬音速変化に関する検討(1)—」	2015年3月18日	日本音響学会 中央大学	白川貴志, 中川裕, 大平武征, 杉本恒美, 佐野元昭
「ハイスピードカメラを用いた多点振動解析による作物吸水ニーズ推定に関する研究」	2015年3月18日	日本音響学会 中央大学	佐野元昭, 中川裕, 安齋拓也, 内川千春, 大平武征, 白川貴志, 杉本恒美
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
「空中放射音波による遠距離非破壊検査技術/NCAI法」	2014年10月30日	建設技術フェアin中部, 出展技術プレゼンテーション	名古屋中小企業振興会館吹上ホール
「非接触音響探査法によるコンクリートの欠陥探査」	2015年2月5日	産学連携ワークショップ(テクニカルショウヨコハマ2015)	パシフィコ横浜
○その他			
(特許申請等)			
特許名	年月日	特許番号	申請者名(共同の場合)
「音波を用いた探知方法、非接触音響探知システム、そのシステムで用いるプログラム、およびそのプログラムを記録した記録媒体」	2014年6月20日 2010年5月26日	特許第5563894号 特願2010-120901号	桐蔭学園、佐藤工業㈱(杉本恒美、阿部冬真)
「音波を用いた探知方法、非接触音響探知システム、そのシステムで用いるプログラム、およびそのプログラムを記録した記録媒体」	2015年2月20日 2010年8月23日	特許第5697378号 特願2010-186206号	桐蔭学園、佐藤工業㈱(杉本恒美、阿部冬真)
音波を用いた探知方法および非接触音響探知システム	2014年05月26日	特願2014-108148号	学校法人桐蔭学園、片倉景義、佐藤工業㈱(杉本恒美、片倉景義、歌川紀之)
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「学生優秀発表賞」	2014年9月4日	日本音響学会	赤松亮, 杉本恒美, 歌川紀之, 片倉景義
「超音波工学フェロー」	2014年10月1日	日本超音波医学会	杉本恒美
「論文賞」	2014年11月27日	一般社団法人日本建設機械施工協会	杉本恒美, 歌川紀之, 片倉景義
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
研究領域名「持続可能な水利用を実現する革新的な技術とシステム」 研究課題名「超節水精密農業技術の開発」	2010年度～2014年度	JST(独)科学技術振興機構 CREST(戦略的創造研究推進事業) 研究代表者:東京農工大 澁澤栄教授 主たる分担研究者(5年間) 分担額約4000万円(間接1200万)	
基盤研究(C)「葉の振動計測による植物の水ストレスの評価に関する研究」	2013年度～2015年度	文部科学省科研費、研究代表者:佐野元昭、分担研究者:杉本恒美 助成額約390万円(間接経費117万)	
受託研究「音響探査法を用いた検査手法の基礎検討その他」	2014年6月-9月	佐藤工業㈱ 受託研究費262万円(間接26万)	
奨学寄附金「音響探査法による構造物欠陥部の検査方法の開発(その1)」	2014年6月-2015年3月	佐藤工業㈱ 寄付金額100万円(直接90万、間接10万)	
合同研究「鉄筋の腐食によるひび割れに対する非接触音響探査法の適用性の検討」	2014年10月-2015年3月	㈱IHI検査計測 合同研究費110万円(直接100万、間接10万)	

受託研究「はね出し部対策施工箇所等の非接触検査手法の検討作業」	2014年12月-2015年3月	佐藤工業(株) 受託研究費155万円(間接15.5万)
奨学寄附金「音響探査法による構造物欠陥部の検査方法の開発(その2)」	2015年1月-2015年12月	佐藤工業(株) 寄付金額50万円(直接45万、間接5万)
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
International Symposium on Machinery and Mechnronics for Agriculture and Biosystems Engineering (ISMAB 2014)出席・発表	2014年5月20日～24日	National I Lan University (Yilan, Taiwan)
12th International Conference on Precision Agriculture (ICPA) 出席・発表	2014年7月19日～25日	Hyatt Regency Sacramento (California, USA)
11th European Conference on Non-Destructive Testing (ECNDT) 出席・発表	2014年10月4日～12日	Prague Congress Centre (PCC, Prague, Czech Republic)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
「桐蔭横浜大、「産学連携」研究で成果」	2015年1月29日	タウンニュース青葉区版No.1032 1面、2015年1月29日号
「CREST「水利用」領域シンポジウム、見所と意義」	2015年1月28日	日本下水道新聞、第2241号 14-15面(2015年1月28日)
(その他特記事項)		
「第35回 超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウム」運営委員会委員		
「Session Chair」(2014年10月7日 9:00-13:00) 11th European Conference on Non-Destructive Testing (ECNDT 2014), 31. NDT in Civil Engineering and Concrete Structures (Club D) Prague Congress Center, Prague, Czech Republic 31. NDT in Civil Engineering and Concrete Structures (Club D) Prague Congress Center, Prague, Czech Republic		
「建設技術フェアin中部(空中放射音波による遠距離非破壊検査技術/NCAI法)」2014年10月29日～30日 (名古屋中小企業振興会館吹上ホール) 佐藤工業(株)名古屋支店 土木事業本部 技術部、桐蔭横浜大学大学院 杉本研究室		
「オーガナイズドセッション座長」(2014年10月29日) 「鉄筋コンクリート構造物の検査・点検のための非破壊試験法(2)」座長 名古屋国際会議場 第3会場(会議室234) 2014.10.29 10:40-12:00		
「テクニカルショウヨコハマ2015に出展」(2015年2月4日～6日) (講演) 非接触音響探査法によるコンクリートの欠陥探査 (ポスター展示) 空中放射音波を用いたコンクリートの非破壊検査法 音波を用いた植物根域の土壌水分計測および葉の振動計測		
「日本音響学会 アコースティック・イメージングセッション 座長」(2015年3月18日) 13:00-14:45 計測法・イメージング 第9会場 中央大学後楽園キャンパス		

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本音響学会、日本超音波医学会、日本生体医工学会、IEEE-UFFC、物理探査学会、日本土木学会、日本非破壊検査協会、日本コンクリート工学会

任期、活動期間等	学会等における役職等
1999年7月～現在	超音波工学フェロー(日本超音波医学会認定 EJSUM-69)
2010年5月～現在	超音波シンポジウム運営委員
2010年5月～現在	電子情報通信学会 常任査読委員
2014年3月1日～現在	「日本音響学会 アコースティックイメージング研究委員会 委員」
2014年4月～2016年3月	日本音響学会編集委員会 査読委員
2014年4月～2016年3月	衝撃弾性波法研究委員会委員
2014年6月5日～平成27年総会日	電子情報通信学会ソサエティ論文誌査読委員

三浦康弘 (みうら やすひろ) 准教授



出生年：1962(昭和37)年
 在籍：1996(平成8)年4月～
 最終学歴：東京理科大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程
 学位：博士(理学)
 学位論文：Studies on Structure and Properties of Highly Conductive Langmuir-Blodgett Films Based on Metal(dmit)₂
 専門分野：物理学、分子エレクトロニクス
 前職：University of Houston, Department of Chemistry
 Postdoctoral Research Fellow, State Employee of Texas
 学内役職等：
 留学：University of Houston(米国)(1994年7月～1996年3月)
 資格：
 非常勤講師：埼玉大学工学部非常勤講師(2011～2013)
 明治大学理工学部 電気電子生命学科 非常勤講師(2012～現在)
 受賞・表彰：東京理科大学理事長賞(1992)
 1998年、2002年材料技術研究会討論会ポスター賞
 Award of Excellence, Oral Session Award, Toin International Symposium on Biomedical Engineering, “Fabrication of Highly Conductive Patterns in Molecular Thin Films”
 財団法人 池谷科学技術振興財団 研究助成 受賞(2007)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育方法の実践例	平成8年4月～現在	<p>「工学へのステップ」、「フレッシュマンセミナーI, II」、「化学総合演習」等の実験を伴わない授業に於いては、毎回20分テストの小テストを実施し、学生の予備知識の程度やそれまでの講義内容の理解度を確認し、講義内容に反映させてきた。</p> <p>実験を伴う授業に関しては、実験で扱う重要事項の歴史的な背景にまで触れる説明をプロジェクターや配布資料を用いて行い、学生の興味と理解が深まるように努めた。また、レポートの書き方の指導にも力を入れ、再提出等も含めて指導を行った。配布資料については、2011年度より、原則として、WEBで公開している。</p> <p>また、卒業研究においては、研究指導を行った四年生が、その研究成果を、材料技術研究協会討論会および応用物理学関連連合講演会等の学会に卒業研究生自身が登壇して発表するまで指導を行ってきた。</p> <p>共同研究者である大学院修士課程・博士課程の学生に対しては、国内の学会のみならず、国内外で開かれる国際シンポジウム・学会において、ポスター発表や口頭発表を英語で行うまで指導を行ってきた。国際的な舞台上で、研究成果を学生自身が論文や口頭発表・ポスター発表により英語で行うことに特に力を入れており、英語の基礎学力をつけるため、週一回の自主英語セミナーを開講し、研究室の枠を越えて参加する学生の指導も行ってきた。</p>

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略			
<p>科学研究費補助金 基盤研究(C) (2010年度～2012年度、研究代表者 三浦康弘、課題名:分子超薄膜系における圧力誘起超伝導相の探索)の助成により展開して得た研究成果を基盤とし、分子薄膜に関する研究を進めた。さらに、2013年度に採択された文部科学省先端研究施設共用促進事業:京都大学エネルギー理工学研究所ADMIRE計画(イオン加速器とマルチスケール材料評価装置群による産業支援)の支援により進めた研究課題、「高導電性分子超薄膜の作製と評価」で得た成果(集束イオンビームを用いた構造評価と微小電極作製技術)で得た研究成果を融合して新たな研究を展開し、これらが、本人登壇による国内学会における発表5件(一般口頭講演3件、招待講演2件)、及び、本人登壇による国際学会における研究発表4件(一般口頭講演2件、ポスター発表2件)に繋がった。また、成果の一部を、フルペーパーとして、査読付き英文学術雑誌に投稿した。また、上記の成果をもとに、科学研究費補助金基盤研究(C)、及び、東京大学物性研究所平成27年度(前期)共同利用に応募した(何れも2015年度に採択)。また、外部への情報発信は、学術的な会合における研究発表や論文執筆だけでなく、以下のURLにおいても日英両語で行った。http://www.cc.toin.ac.jp/sc/miura/index.html</p>			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
”PRESSURE EFFECT ON RESISTANCE IN DIALKYLDIMETHYLAMMONIUM-Au(DMIT) ₂ MOLECULAR THIN FILMS”(ポスター発表)	2014年7月4日	International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals (ICSM2014) (Turku, Finland)	Yasuhiro F. MIURA , Hiroyuki HASEGAWA, Hidenobu SHIROISHI, Mitsuo TAKAHASHI, Kazuyuki Matsubayashi, Yoshiya Uwatoko
”Electrochemical Characterization on Au(dmit) ₂ Langmuir-Blodgett Films”(一般口頭講演)	2014年8月27日	International Union of Materials Research Societies (IUMRS) - International Conference in Asia (ICA) 2014(Fukuoka, Japan)	Yasuhiro F. MIURA , Hidenobu SHIROISHI, Mitsuo TAKAHASHI
「アルキルアンモニウム-Au(dmit) ₂ 塩のLB膜の電気化学的特性評価(II)」(一般口頭講演)	2014年9月17日	第75回応用物理学会秋季学術講演会(北海道大学札幌キャンパス(〒060-0808 北海道札幌市北区北8条西5丁目))	三浦康弘,城石英伸,高橋 三男
「高導電性分子超薄膜の開発～半導体性・金属性から超伝導へ～」(招待講演)	2014年10月15日	材料技術研究協会 創立30周年記念 特別講演会	三浦康弘
「ジアルキルジメチルアンモニウム-Au(dmit) ₂ 塩に基づくLB膜の電気化学的評価」(一般口頭講演)	2014年12月5日	2014年材料技術研究協会討論会(東京理科大学 野田キャンパス(千葉県野田市山崎2641))	三浦康弘,城石英伸,高橋 三男
”Spectroscopic Characterization on the Langmuir-Blodgett Film based on Ditetradecyldimethylammonium-Au(dmit) ₂ Salt”(一般口頭講演)	2014年12月17日	10th International Conference on Nano-Molecular Electronics (ICNME2014)(神戸国際会議場(〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1))	Yasuhiro F. Miura , Haruki Matsui, Kyoko Inoue and Jun-ichi Hoshino
”Electrochemical Characterization of Langmuir-Blodgett Films based on Alkylammonium-Au(dmit) ₂ Salt”(ポスター発表)	2014年12月18日	10th International Conference on Nano-Molecular Electronics (ICNME2014)(神戸国際会議場(〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1))	Yasuhiro F. MIURA, Hidenobu SHIROISHI, Mitsuo TAKAHASHI
○その他			
(産学協同研究)			
研究内容	研究期間	協同研究の相手方の名称	
高導電性分子超薄膜の開発に関する研究	2012年12月～現在	Global Science 株式会社	

(補助金・助成金等)		
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等
「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」	2014年4月～2014年9月	東京大学物性研究所 平成26年度(前期)共同利用(旅費・宿泊費等の支給) (研究代表者)
「導電性ラングミュア・プロジェクト膜の高圧下の電気的性質」	2014年10月～2015年3月	東京大学物性研究所 平成26年度(後期)共同利用(旅費・宿泊費等の支給) (研究代表者)
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals (ICSM) 2014 に出席し、本人登壇によるポスター発表(桐蔭横浜大学、国立東京工業高等専門学校、北海道大学、及び、東京大学の共同研究、桐蔭横浜大学 三浦康弘が発表)を行い、同分野の研究者と意見を交換するため。	2014年6月30日～7月7日	LOGOMO Conference Venue, Turku (フィンランド)
(その他特記事項)		
「2014 Collaborative Conference on 3D & Materials Research」2014年6月23日～27日 国際会議、2014 Collaborative Conference on 3D & Materials Research(Incheon/Seoul, South Korea)においてScientific Program Committee Memberの一人として会議の運営に協力(当該国際会議には日程の都合で不参加)		
「International Union of Materials Research Societies (IUMRS) - International Conference in Asia (ICA) 2014(Fukuoka, Japan)」(2014年8月24日～8月30日)において、Symposium B-10(Molecular Thin Films)のCorrespondence Chairを務めた。		

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称		
応用物理学会、応用物理学会 有機分子・バイオエレクトロニクス分科会、日本化学会、日本化学会 コロイド及び界面部会、材料技術研究協会、日本MRS、高圧力学会、電気化学会		
任期、活動期間等	学会等における役職等	
1997年4月1日～現在	材料技術研究協会 『材料技術』誌 編集委員	
2005年～現在	Transaction of Materials Research Society of Japan誌 特別編集委員	
2007年4月1日～現在	東京都狛江市水泳協会 監事	
2012年4月1日～現在	材料技術研究協会 理事	
2013年1月15日～現在	公益社団法人 応用物理学会・プログラム編集委員	
2014年6月	国際会議, Collaborative Conference on Materials Research (CCMR) 2014, Scientific Program Committee Member	
2014年8月	国際会議, International Union of Materials Research Societies- The IUMRS International Conference in Asia 2014, Symposium B-10, Correspondence Chair	
(社会における活動)		
活動内容	年月日・期間等	団体等名称
桐蔭学園高校理数科課題研究 指導 (化学実験)、課題名:「細胞膜を真似た膜(人工脂質膜)の作製」	2014年3月～7月(全4回)	桐蔭学園高校 50期理数科
桐蔭学園高校理数科課題研究 指導 (化学実験)、課題名:「細胞膜を真似た膜(人工脂質膜)の作製」	2015年3月(全3回)	桐蔭学園高校 51期理数科

沼田 陽平 (ぬまた ようへい) 特任助教

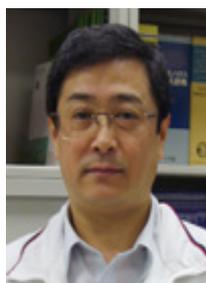


出生年：1979(昭和54)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：総合研究大学院大学 物理科学研究科 博士後期課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：Magnetic Properties of Low-dimensional Molecule-based Magnets Consisting of Transition Metals and Organic Radicals
 専門分野：物理化学、有機化学、無機(錯体)化学、電子物性
 前職：独立行政法人 物質・材料研究機構 ポスドク研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
ペロブスカイト構造を有する、鉛トリハライド化合物を光活性層として有する、ペロブスカイト太陽電池(PSC)の研究を行っている。PSCは有機カチオンを構造に有しており、熱や水分によってその脱離が加速されるため、耐久性において問題が存在する。私はより高耐久性を有する、大きな有機カチオン種を用いたPSCの開発を行った。主な研究として、歩ポラス層として用いられている金属酸化物の組成やサイズといった特性を変化させ、光電変換効率やキャリアの輸送特性に対する影響を評価した。また、ペロブスカイト膜の作製法に関する検討も行い、現在最高で約13%の変換効率を達成した。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
「有機無機ペロブスカイト太陽電池の構造設計と高効率化」	共著	2014年7月31日	太陽エネルギー Vol.40 No.4	宮坂 力, 池上 和志, Ajay Kumar Jena, Hsin-Wei Chen, Kuan-Lin Wu, Xiao-Feng Wang, 酒井誠弥, 古郷敦史, 實平義隆, 沼田陽平, 石井あゆみ	25-32頁
「高効率ペロブスカイト太陽電池の構造設計」	共著	2014年12月15日	ペロブスカイト太陽電池の開発と最新技術	宮坂 力, 池上和志, 陳信偉, 吳冠霖, 古郷敦史, 實平義隆, 沼田陽平	126-138頁
(学術論文)					
“Nb ₂ O ₅ Blocking Layer For High Open-circuit Voltage Perovskite Solar Cells”	共著	2015年3月	Chem. Lett, 2015, 44, 829-830.	Atsushi Kogo, Yohei Numata, Masashi Ikegami, and Tsutomu Miyasaka	pp.829-830
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(オーラル)「ホルムアミジニウムを用いたペロブスカイト太陽電池に関する研究」	2014年9月	電気化学会秋季大会(北海道大学/北海道札幌市)	沼田 陽平, 實平 義隆, 宮坂 力		
(オーラル)「酸化物混合体メソポーラス層を用いたペロブスカイト太陽電池におけるJ-V曲線のヒステリシス挙動に関する研究」	2015年3月	応用物理学会第62回 春季講演会(東海大学/神奈川県平塚市)	沼田 陽平, 實平 義隆, 宮坂 力		
(オーラル)「十面体酸化チタン多孔膜を用いたペロブスカイト太陽電池の特性評価」	2015年3月	応用物理学会第62回 春季講演会(東海大学/神奈川県平塚市)	實平 義隆, 沼田 陽平, 宮坂 力		

星 秋夫 (ほし あきお) 教授



出生年 : 1954(昭和29)年
 在籍 : 2008(平成20)年4月～
 最終学歴 : 日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻 修了
 学位 : 体育学修士(日本体育大学)、医学博士(順天堂大学)
 学位論文 : Effects of swimming and weight loading on bone density and mechanical properties of femoral bone in mice
 専門分野 : 環境衛生学、生気象学、健康・スポーツ科学
 前職 : 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター准教授
 学内役職等 : 学務部長 (2012～)
 留学 :
 資格 :
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
我が国の夏季における環境は急激に悪化し、熱中症をはじめとする暑熱障害の発症が問題となっている。そこで、我々の研究グループは熱中症予防対策を構築することを目的に、実験的、疫学的手法を用いて各種分野から研究を行っている。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年 月 日 (西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(総説・論説)					
熱中症とその予防	共著	2014年8月	せんい 67巻8号	星 秋夫、樫村 修生	469-474頁
(学術論文)					
「日常生活における熱中症予防指針」Ver.3	共著	2014年4月	日本生気象学雑誌 50(1)	日本生気象学会熱中症予防研究委員会(星 秋夫他14名)	49-59頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
(口頭発表)陸上長距離女子選手における高地トレーニング合宿による呼吸循環機能の変化	2014年8月6日	第2回日本スポーツ健康科学学会大会(岡山大)	菊地潤, 樫村修生, 平位秀敏, 星秋夫		
(ポスター発表)異なる低酸素性肺血管収縮反応をもつ系統ラットにおける肺循環肺循環動態の比較	2014年9月19日	第69回日本体力医学会大会(長崎)	樫村修生, 坂手誠治, 星秋夫, 桜井智野風, 南和広		
シンポジウム「高齢者の日常生活における熱中症予防に 日本生気象学会は何を成し得るか」	2014年10月25日	第53回日本生気象学会(桐蔭横浜大)	星 秋夫		
(口頭発表)都道府県別にみた熱中症による救急搬送者の実態	2014年10月27日	第53回日本生気象学会(桐蔭横浜大)	坂手誠治、星 秋夫		
○その他					
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
日本学術振興会基盤研究(C)	2013年4月～2015年3月	日本学術振興会科学研究費補助金			

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本衛生学会、日本生気象学会、日本体力医学会、日本スポーツ健康科学学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
1999年4月～現在	日本衛生学会評議員
1999年9月～現在	日本体力医学会評議員
2003年10月～現在	日本生気象学会評議員
2009年4月～2014年3月31日	日本生気象学会編集委員長
2009年4月～現在	日本生気象学会幹事
2012年4月～現在	日本スポーツ気象アドバイザー協会理事
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学学会会長
2013年2月～現在	日本スポーツ健康科学会理事
2014年4月～現在	日本生気象学会学会長

櫻井 智野風 (さくらい ともぶ) 教授



出生年：1966(昭和41)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：横浜国立大学大学院教育学研究科保健体育学専攻修了
 学位：博士(運動生理学), 教育学修士
 学位論文：運動による骨格筋損傷とその治癒過程における一酸化窒素の関与
 専門分野：運動生理学, スポーツ科学, トレーニング科学
 前職：東京農業大学 生物産業学部 准教授
 学内役職等：研究推進部副部長(2014～)
 留学：アメリカ・ウィスコンシン州立大学マディソン校キネシオロジー学部 客員研究員(1999～2000)
 資格：小学校教諭一種免許, 中学校教諭一種免許(保健体育), 高校学校教諭専修免許(保健体育), 日本体育協会公認コーチ(陸上競技), 国際陸上競技連盟 レベル I 講師
 非常勤講師：青山学院大学
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書		
運動生理学の基礎と発展 (フリースペース)	2002年4月～	体育概論の教科書として使用.
パソコンで学ぶ元気で生きる健康科学 (三井出版)	2011年4月～	体育実技の教科書として使用.

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
疲労困憊運動時の脳活動における研究や、骨格筋損傷治癒に性差が及ぼす研究に関して、論文発表や口頭発表を行った。日本陸上競技連盟普及指導部委員として、全国のジュニア指導者に対する講習やライセンス講習会の講師を行った。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
不調の原因を解消する本	単著	2014年4月	樫出版	櫻井智野風	
リカバリーの科学 —スポーツパフォーマンス向上のための最新情報—	共著	2014年9月	NAP	長谷川 博 山本 利春, 櫻井 智野風, 中村 大輔 田中美吏, 山口 太一, 安松 幹展, 鬼塚 純玲, 依田 珠江, 笠原 政志, 太田 千尋	第1～2章
不調を治す50の習慣	単著	2015年3月	樫出版	櫻井智野風	
(学術論文)					
The Molecular Mechanism Underlying Continuous Exercise Training-Induced Adaptive Changes of Lipolysis in White Adipose Cells.	共著	2015年3月	J Obes, doi: 10.1155/2015/473430.	Ogasawara J, Izawa T, Sakurai T , Shirato K, Ishibashi Y, Ishida H, Ohno H, Kizaki T.	pp.1-5

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
The effect of Yam intake on human muscular function.	2014年6月	61st American College of Sports Medicine Annual Meeting	T. Sakurai, K.Hara and O.Kashimura

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本体育学会, 日本体力医学会, 日本トレーニング科学会(理事), 日本生理学会, 日本臨床生理学会, 日本発育発達学会, 日本生気象学会, 日本健康医学会, 日本宇宙航空環境医学会, 日本陸上競技学会(理事), 日本スプリント学会, 日本スポーツ健康科学学会(理事), American College of Sports Medicine(アメリカスポーツ医学会)	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2007年4月～現在	日本トレーニング科学会理事、編集委員会委員長
2012年4月～現在	日本陸上競技学会理事
2013年4月～現在	日本スポーツ健康科学会理事
2014年4月～現在	日本生理学会評議員
2014年4月～現在	日本体力医学会評議員

澁倉 崇行 (しぶくら たかゆき) 准教授



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程(後期課程)心理発達科学専攻修了
 学位：博士(心理学)
 学位論文：「高校運動部員の心理的ストレスに関する研究:部活動ストレスモデルの構築と介入プログラムの作成」(博士論文)
 専門分野：スポーツ心理学
 前職：新潟県立大学人間生活学部准教授
 学内役職等：
 留学：
 資格：中学校教諭専修免許状(保健体育), 高等学校教諭専修免許状(保健体育)
 非常勤講師：国士舘大学
 受賞・表彰：日本体育学会学会賞(平成26年度)(共著者)

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
科学研究費補助金:若手研究(B)研究課題:部活動指導者を対象としたストレスマネジメントプログラムの開発と評価(研究代表者), および科学研究費補助金:基盤研究(B)研究課題:スポーツ活動の効果と一般化に関する実証的研究と汎用性モデルの構築(研究分担者)に関わる研究を行い, 関係の学会で発表した.					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(学術論文)					
スポーツ活動における心理社会的効果の日常生活への一般化	共著	2014年4月	総合保健体育科学, 第37巻第1号	西田保, 佐々木万丈, 北村勝朗, 磯貝浩久, 澁倉崇行	1-11頁
女性スポーツ選手による月経及び月経随伴症に対する認知的評価	共著	2015年3月	スポーツ心理学研究, 第42巻第1号	佐々木万丈, 澁倉崇行, 今藪由望	23-34頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
Actual state of the coaches' worries and burdens in extracurricular sports activities at high school	2014年8月	The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress (Tokyo)	Takayuki Shibukura, Tamotsu Nishida, Katsuro Kitamura, Banjou Sasaki and Hirohisa Isogai		
高校運動部活動の心理社会的効果と一般化の継時的変化:学年および運動部所属の有無による比較	2014年8月	日本体育学会第65回大会(於岩手大学)	澁倉崇行、西田保、北村勝朗、佐々木万丈、磯貝浩久		
○講演会・研修会・セミナー講師					
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所		
選手を成功に導くポジティブコーチング	2015年2月15日	(公財)新潟県体育協会・平成26年度新潟県スポーツ指導者研修会	朱鷺メッセ(新潟市)		
いかにして選手のやる気を高めるか, 引き出すか!	2015年3月8日	スポーツフォーキッズジャパン・第1回ベーシックセミナー(指導者編)	新潟県スポーツ医科学センター(新潟市)		

子供が活き活きと取り組むための保護者の「支援力」とは？	2015年3月8日	スポーツフォーキッズジャパン・第1回ベーシックセミナー(保護者編)	新潟県スポーツ医科学センター(新潟市)
いかにして選手のやる気を高めるか、引き出すか！	2015年3月15日	スポーツフォーキッズジャパン・第1回ベーシックセミナー(指導者編)	神奈川県スポーツ医科学センター(横浜市)
子供が活き活きと取り組むための保護者の「支援力」とは？	2015年3月15日	スポーツフォーキッズジャパン・第1回ベーシックセミナー(保護者編)	神奈川県スポーツ医科学センター(横浜市)
いかにして選手のやる気を高めるか、引き出すか！	2015年3月22日	スポーツフォーキッズジャパン・第1回ベーシックセミナー(指導者編)	ダイエープロビスフェニックスプール(長岡市)
子供が活き活きと取り組むための保護者の「支援力」とは？	2015年3月22日	スポーツフォーキッズジャパン・第1回ベーシックセミナー(保護者編)	ダイエープロビスフェニックスプール(長岡市)
○その他			
(表彰・受賞)			
賞の名称	年月日	団体名・大会等名	受賞者名等(共同の場合)
「日本体育学会学会賞」(小学生の体育学習における動機づけモデルの検討:動機づけ雰囲気認知,学習動機,および方略使用の関連)	2014年8月	日本体育学会	伊藤豊彦,磯貝浩久,西田保,佐々木万丈,杉山佳生,渋谷崇行

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本体育学会,日本スポーツ心理学会,日本教育心理学会,日本健康心理学会,日本ストレスマネジメント学会

法科大学院 (Law School)

上田 正和 (うえだ まさかず) 教授 (2015年度 新任教員)



出生年：1963年(昭和38年)
在籍：2015年(平成27年)4月～
最終学歴：慶応義塾大学大学院法学研究科前期博士(修士)課程修了
学位：法学修士
学位論文：クレジットカードの不正使用と犯罪の成否について
専門分野：刑法, 刑事訴訟法, 経済刑法, 医事法
前職：大宮法科大学院大学法務研究科教授
学内役職等：
留学：
資格：弁護士(上田法律事務所)
非常勤講師：大宮法科大学院大学
受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
刑事法や医事法の分野について法科大学院における研究教育活動を行いました。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
実務医事法〔第2版〕	共著	2014年	民法研究会	加藤良夫編著	
医事法判例百選〔第2版〕	共著	2014年	有斐閣	甲斐克則・手嶋豊編	
(学術論文)					
共同意思主体としての共謀共同正犯	単著	2014年	大宮ローレビュー10号		

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本刑法学会, 日本医事法学会, 臨床法学教育学会

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2011年3月～現在	株式会社ノエビアホールディングス監査役
2010年4月～現在	東京家庭裁判所家事調停委員
2011年1月～現在	東京地方裁判所鑑定委員

江口 眞樹子（えぐち まきこ）教授



出生年：1958(昭和33)年
在籍：2007(平成19)年4月～
最終学歴：神戸大学大学院法学研究科博士後期課程
学位：法学修士
学位論文：企業の社会的責任について－フランス法におけるsociétéとassociationに関する法の歴史的変遷を通じて
専門分野：商法、金融商品取引法
前職：平成国際大学法学部助教授
学内役職等：法科大学院 教務委員長
留学：ドイツ連邦共和国ミュンヘン大学法学部(1987～1989)
資格：
非常勤講師：大宮法科大学院大学
受賞・表彰：

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本私法学会、日本経済法学会

大澤 恒夫 (おおさわ つねお) 教授



出生年：1954(昭和29)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科民事法専攻博士後期課程修了
 学位：法学博士
 学位論文：「弁護士業務における対話の理念と技法—法と対話の専門家をめざして」
 専門分野：法的対話論、司法アクセス論、弁護士論、ADR論、(弁護士としての主要業務)IT分野における知的財産法、競争法、企業再建
 前職：
 学内役職等：メディアエーション・交渉研究所センター長 (2014～)
 留学：
 資格：弁護士(1981年～現在)
 非常勤講師：中央大学法科大学院客員教授(裁判外紛争解決)
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
ケースメソッド	2005年4月～	裁判例(特に第1審判決)等により、具体的事実やそこから伺われる現実の複雑さ、法実践での事実の切り出し方、自分自身の取り組みとしてどのように考えるか、などを検討する。
実演、ロールプレイと振り返り	2005年4月～	人と人が話し合うプロセスについて、台詞を用意して行う実演やケースを設定して行うロールプレイを実施し、参加者全員で振り返りを行うことにより、法運用をめぐる実践知の内面化への契機をつかむ。
プレゼンテーションとファシリテーション	2005年4月～	プレゼンテーション(発表)とファシリテーション(議論の支援)について、その技法を理解し、実践してみることを通じて、コミュニケーション力の向上への契機をつかむ。
授業ごとの短時間小レポート課題	2005年4月～	各授業の最後の15～20分程度を使い、その日の授業(または前回の授業)の復習になる事項について、設問を示して(あるいは自由に課題を設定させ)その場で、ミニレポートを書かせることにより、授業内容の理解の促進と短時間での手書き文章力の向上を図る。
学生自身の紛争体験から紛争プロセスを振り返る	2005年4月～	学生自身の紛争体験(大小や種類は問わない)を振り返り、そのプロセスを丁寧に辿ることにより、紛争の発生から解決・克服への過程の中に含まれる重要な実践知に気付くとともに、これからの法律学習への動機付けを高める。
5.その他教育活動上特記すべき事項		
ソフトウェア情報センター「ソフトウェアの知的財産権入門講座」講師	2001年2月～現在	IT関連の法務担当者や若手弁護士等を対象に、ITに関連する知的財産と独占禁止法上の諸問題について解説。
大学間交渉コンペティション審査員	2004年12月～現在	大阪大学・上智大学「平成16年度・特色ある教育支援プログラム(特色GP)」事業(住友グループ広報委員会・日本仲裁人協会等後援)により、国際的に活躍する交渉者の育成を目指して、毎年2日間にわたる模擬仲裁、模擬交渉による競技会が行われ、その審査員を務めている。

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本法社会学会、法とコンピュータ学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2005年4月～現在	法とコンピュータ学会理事
2006年4月～現在	司法アクセス学会理事
2005年4月～現在	財団法人ソフトウェア情報センター(SOFTIC)評議員
	ソフトウェア紛争解決センター運営委員
	「司法制度改革と先端テクノロジー」研究会委員
	日本仲裁人協会会員、日弁連業務改革委員会幹事
	インターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション審査員

蒲 俊 郎 (かば としろう) 教授



出 生 年 : 1960(昭和35)年
 在 籍 : 2005(平成17)年4月～
 最 終 学 歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学 位 :
 学 位 論 文 :
 専 門 分 野 : 電子商取引(EC)、労働法(使用者側)
 前 職 : 桐蔭横浜大学客員教授
 学 内 役 職 等 : 法務研究科長 (2014～)
 留 学 :
 資 格 : 弁護士(第二東京弁護士会)
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概 要
4.法律実務教育に関する特記事項		
研修「SNSに関わる不祥事の防止～新社会人のソーシャルメディアとの関わり方」	2014年4月2日	独立行政法人都市再生機構 主催
研修「新社会人が知っておくべきSNSリスクと炎上防止対策～自分を守るために何が必要か」	2014年4月3日	独立行政法人都市再生機構 主催
講演「医薬品・化粧品の表示規制～医薬品・化粧品の表示規制の基本的知識と実務上注意すべきポイント」	2014年4月16日	株式会社電通 主催
講演「食品の表示規制～食品の表示規制の基本的知識と4月1日からスタートした「機能性表示食品制度」について」	2014年4月23日	株式会社電通 主催
講演「医薬品販売規制の見直し～平成25年改正薬事法と医薬品等の広告規制を理解する～」	2014年5月22日	株式会社電通 主催
講演「ハラスメント新時代への対応～セクハラ・マタハラに関し、最高裁が出した2つの画期的判決を受けて、今後何が変わるのか」	2014年6月30日	学校法人共栄学園
研修「企業におけるSNSリスクの管理」	2014年9月1日	独立行政法人都市再生機構 主催
研修「コンプライアンスについて～ベネッセ情報漏洩事件など、近時の具体的な事例を題材としながら～」	2014年10月7日	株式会社ティーガイア 主催
研修「職場のハラスメントをどう防ぐか～「言葉のセクハラ」最高裁判決を受けて」	2015年3月3日	株式会社ピアラ 主催
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
SNSに違法写真 拡散リスクにヒヤリ	2015年3月22日	日経ヴェリタス
出張先で「つぶやき」 機密の漏洩に？	2015年3月29日	日経ヴェリタス

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本私法学会、情報ネットワーク法学会、経営法曹会議、民事訴訟法学会、司法アクセス学会、日本法律家協会会員	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年3月～現在	ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社 監査役

2007年8月～現在	株式会社ケイブ 監査役
2013年6月～現在	株式会社ティーガイア 監査役
2014年6月～現在	学校法人桐蔭学園 理事
2015年3月～現在	株式会社ピアラ 監査役
2015年6月～現在	一般財団法人東京都営交通協力会 理事

久保利 英明 (くぼり ひであき) 教授 (2015年度 新任教員)



出生年：1944(昭和19)年
 在籍：2015(平成27)年4月～
 最終学歴：東京大学法学部卒業
 学位論文：
 専門分野：コーポレートガバナンス及びコンプライアンス、M&A、株主総会運営、金融商品取引法、独禁法等企業法務、知的財産権(特にエンターテインメント・ビジネスや通信・放送ビジネス等)

前職：大宮法科大学院大学教授、桐蔭法科大学院客員教授
 学内役職等：
 留資格：弁護士
 非常勤講師：
 受賞・表彰：(日比谷パーク法律事務所代表/第二東京弁護士会)

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
レジュメの配布	2014年4月～	全ての講義でオリジナルのレジュメを配布し、講義内容に合わせた文献等の資料を用意した。
ゲストスピーカーの招聘	2014年4月～	独自の人脈により、第一線で活躍する方々をゲストとしてお呼びし、法曹の魅力を伝えた。また、受講者以外にも広く聴講を認め、多くの学生に参加の機会を与えた。
4.法律実務教育に関する特記事項		
1人一票同一価値こそ成長戦略の中核	2014年4月22日	新経済連盟
役員のための総会運営法	2014年6月3日	商事法務 企業トップセミナー
コンプライアンスとCSR	2014年7月2日,15日	日本農業経営大学校
プロフェッションの業務拡大の秘訣	2014年9月9日	日本弁理士会関東支部
第三者委員会とコーポレートガバナンス	2014年9月12日	日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク
役員に求められる企業経営の常識	2014年10月20日	商事法務 新任役員セミナー
経団連関西企業倫理セミナー 「企業倫理徹底に向けた経営トップの役割」	2014年10月21日	経団連
「日本再生とガバナンス改革」	2015年1月9日	日本取締役協会 Winter Seminar 2015
平成27年株主総会対策とコーポレート・ガバナンス	2015年2月10日(福岡) 2015年2月19日(東京)	商事法務 株主総会対策セミナー

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
法科大学院制度10周年記念シンポジウムパネリスト	2014年9月24日	第二東京弁護士会 法科大学院支援委員会	弁護士会館3階

○その他		
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
私の仕事術	2014年6月15日	日経ヴェリタス
会社が潰れかねない厳しい報告書が結果的に会社を救う	2014年6月18日	現代ビジネス
経営に「備えあれば憂いなし」はあり得ない	2014年9月10日	日経ビジネスオンライン

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
法と経済学会, 租税訴訟学会, 日本法社会学会, 日本内部統制学会, 法とコンピュータ学会		
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2006年9月～現任	金融庁総務企画局参事(法令等遵守調査室顧問)	
2008年6月～現任	農林中央金庫 経営管理委員	
2011年6月～現任	東京証券取引所グループ(現 日本取引所グループ)取締役(社外)	
2011年6月～現任	東京証券取引所自主規制法人(現 日本取引所自主規制法人)外部理事	
2014年6月～現任	ソースネクスト株式会社 取締役(社外)	
2004年4月～現任	NPO法人エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク理事長	
2013年3月～現任	規制改革会議 創業・IT等WG 専門委員	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
株式会社マルハニチロホールディングス『アクリフーズ「農薬混入事件に関する第三者検証委員会」』委員	2014年1月～5月	株式会社マルハニチロホールディングス
株式会社ゼンショーホールディングス「すき家」の労働環境改善に関する第三者委員会委員長	2014年4月～7月	株式会社ゼンショーホールディングス
ロースクールと法曹の未来を創る会 代表	2014年5月～	ロースクールと法曹の未来を創る会
第三者委員会報告書格付け委員会 委員長	2014年4月～	第三者委員会報告書格付け委員会

熊田 彰英 (くまだ あきひで) 教授



出生年：1969(昭和44)年12月25日
 在籍：2014(平成26)年4月～
 最終学歴：京都大学法学部
 学位：法学士
 学位論文：
 専門分野：刑事法, 刑事実務, 国際司法, 韓国法制
 前職：法務省大臣官房秘書課(検事)
 学内役職等：
 留学：
 資格：弁護士(のぞみ総合法律事務所)
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
実際の事件・実務を意識した教育	2014年4月～	毎回、判例・時事問題のほか、自らが実務で担当した事件等について適宜言及し、現在習得しようとしている理論・知識が将来実務においてどのような形で役立つか、また、いかなる場面で必要か、学生が具体的なイメージを持てるよう適宜工夫している。

II 研究活動

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
講義「日本における告訴・告発の実情」	2014年5月	ソウル弁護士会	
○講演会・研修会・セミナー講師			
題目等名	年月(西暦)	依頼先・研修会等名	開催場所
講演「重大犯罪の捜査について」	2014年6月	鎌倉ロータリークラブ	鎌倉プリンスホテル
セミナー「取締役・監査役危機管理」	2014年7月	企業研究会	企業研究会
セミナー「真実を語らせる、検事の取調べの技術」	2014年10月 2015年2月	ビジネスコーチ株式会社	ビジネスコーチ株式会社
○その他			
(雑誌・新聞記事等掲載)			
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称	
「重み増す取締役・監査役責任」上・下	2014年8月26日・27日	日経産業新聞	
日本版司法取引の導入が企業法務に及ぼす影響	2014年9月16日	株式会社インテグレックス「インテグレックス ホットプレス」(同社ウェブサイト「一円融合」)	
(その他特記事項)			
ドラマ「HERO」リーガルアドバイザー(2014年7月～)			
「スーパーニュース」コメンテーター(2014年7月～)			

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
第二東京弁護士会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
平成26年4月～現在	非弁護士取締委員会幹事

Ⅳ法律実務に関する活動

会の名称	年月日	場所	内容等
弁護士	2014年4月～現在	のぞみ総合法律事務所	司法実務

小林 学 (こばやし まなぶ) 教授



出生年：1969(昭和44)年
 在籍：2002(平成14)年4月～
 最終学歴：中央大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：自律的規範構造モデルの構築による民事訴訟法学の学問的復権—実体法と訴訟法の規範的連関論—
 専門分野：民事手続法学
 前職：桐蔭横浜大学法学部教授
 学内役職等：学務部副部長(2013年4月～)、法務専攻長(2015年4月～)
 非常勤講師：亜細亜大学法学部
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(3) Syllabus@Netによるレジュメの公開と課題出題	2012年度～2015年度	法科大学院科目の「民事法総合演習3」のレジュメ(課題含む)をSyllabus@Net上にアップロードしたうえ、受講者が各自でダウンロードして教室に持参するよう指示した。なお、法科大学院科目の「民事訴訟法」についても、2013年度以降、同様の方法による授業展開を実施している。

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
1. 総論的な傾向として、昨年度の研究テーマのひとつであった「司法アクセス」が統一的視点となって、民事訴訟法やADR、そして、法曹養成の各分野の考察が進展したことが挙げられる。 2. まず、民事訴訟法の分野については、中国・華東政法大学での国際シンポジウムにおいて、判決の騙取等の問題を考究するにあたり、司法アクセスという観点を掲げる報告をしたところ、中国人研究者からは有益な視座である旨のコメントを受けた。 3. つぎに、ADRについては、本学で開催された国際シンポジウムにおいて、日本の現状と課題について報告する機会を与えられ、その際に「対話型調停」を強調したのであるが、その根底には司法アクセス向上の意識が存在していた。 4. そして、このADRに関する報告を論文にまとめ上げる作業をはじめたところ、司法アクセス拡充、そのためのキーとなる対話型調停、そして、その延長線上にある法曹養成にまで筆が及ぶことになった(桐蔭法科大学院紀要4号3頁以下掲載)。					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『法の基層と展開—法学部教育の可能性—』	共著	2014年4月15日	信山社	桐蔭法学研究会(編)	313頁-333頁
(学術論文)					
「対話型調停による司法再考—複合的重層パラダイム—」	単著	2015年3月	桐蔭法科大学院紀要4号	—	3-52頁
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
口頭報告「ADRの動向」	2014年9月10日	東アジア法律文化研究センター主催国際シンポジウム「東アジアの法改正の動向—民事訴訟法、競争法を中心として—」	小林学		
口頭報告「日本民事訴訟における判決の無効、脱漏、そして、騙取—司法アクセス拡充としての救済手段—」	2014年11月29日	第7回東北アジア民事訴訟法国際学会主催国際シンポジウム(華東政法大学/中国上海市)	小林学		

○その他		
(海外出張)		
用件	出張期間	出張先
第7回東北アジア民事訴訟法国際学会主催 国際シンポジウムでの発表	2014年11月28日 ～12月1日	華東政法大学(中国)
(雑誌・新聞記事等掲載)		
記事タイトル	掲載日	雑誌・新聞等名称
【コメント掲載】 弁護士の法律相談に関するコメント	2014年8月7日(夕刊)	読売新聞(全国版)

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、日本私法学会、仲裁ADR法学会、司法アクセス学会、東北アジア民事訴訟法国際学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2008年10月～現在	東北アジア民事訴訟法国際学会日本事務局
2010年12月～現在	司法アクセス学会事務局

小林 幸夫 (こばやし ゆきお) 教授



出生年：1954(昭和29)年6月7日
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：中央大学法学部法律学科卒業
 学位：法学士
 学位論文：
 専門分野：知的財産権法，特に特許法，著作権法，商標法
 前職：
 学内役職等：知的財産本部長(2014～)
 留学：
 資格：弁理士(1979年登録)，弁護士(1995年登録，小林・弓削田法律事務所)
 非常勤講師：なし
 受賞・表彰：2011年日本弁理士会会務貢献にて表彰

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
教育内容・方法の工夫	2004年～	知的財産権法を教えるに際して、実際の訴訟となった商品を持参すること、著作権侵害訴訟において対象となった書籍、写真、映像を実際にロースクール生にみせるなどして、授業への興味が沸くような工夫をしている。特に、特許などは抽象的な概念であることからわかりやすいような授業になるよう工夫している。よって、当方の研究室には様々な商品がおいてある。また、見学実習として、2年次には特許庁、3年次の夏期特別講義では、東京地方裁判所の知的財産権部の事件傍聴、担当部長の講話をお願いして実施している。知財高裁への見学も行っている。これらの見学により、合格後の仕事に対するイメージとモチベーションを高めることになれればと考えている。 エクスターンシップの事務所として平成17年に1人より、毎年年に1人を受け入れ、指導をしている。
2.作成した教科書、教材、参考書		
レジメや独自の教材を作成		レジメや独自の教材を作成しているが、教科書はまだ出版していない。教材としては、授業の終了のたびに行う小テストとその講評をするのが当方の授業の特徴である。これにより、あやふやな知識を地についた知識として身につけさせるようにしている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
民事訴訟法学会、司法アクセス法学会

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2008年～	日本知的財産仲裁センター仲裁人候補者
2012年4月～	独立行政法人 工業所有権情報・研修館 契約監視委員

中 島 肇 (なかじま はじめ) 教授



出 生 年 : 1955(昭和30)年
 在 籍 : 2007(平成19)年4月～
 最 終 学 歴 : 東京大学法学部
 学 位 :
 学 位 論 文
 専 門 分 野 : 民法、企業法、倒産法、農業法、医療・福祉法
 前 職 : 東京高等裁判所判事
 学 内 役 職 等 :
 留 学 :
 資 格 :
 非 常 勤 講 師 :
 受 賞 ・ 表 彰 :

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等	
2008年～現在	司法試験考査委員(商法)	
	全農福岡パールライス株式会社不適正取引調査委員会・委員長	
	事業再生研究機構(理事長・多比羅誠)会員研究員	
	地方自治法務研究会(座長・交告尚史東大教授)監事	
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
全国銀行協会あっせん委員会小委員長	2011年4月～現在	全国銀行協会
参議院情報後悔苦情審査会委員	2011年4月～現在	参議院事務局
原子力損害賠償紛争審査会委員	2011年4月～現在	文部科学省

Ⅳ 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
	弘済事業株式会社民事再生手続申立代理人(東京地方裁判所)
	国際書房民事再生事件申立代理人(東京地方裁判所)
	破産事件管財人3件(東京地方裁判所)

福井康佐 (ふくい こうすけ) 教授



出生年 : 1961(昭和36)年
在籍 : 2012(平成24)年4月～
最終学歴 : 学習院大学大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程
学位 : 博士(法学)
学位論文 : 「国民投票の研究」(博士論文)
専門分野 : 直接民主制・憲法訴訟・選挙運動規制
前職 : 大宮法科大学院教授
学内役職等 : 法務研究科法務専攻長(2012～2014)
留学 :
資格 :
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略

オーストラリアの国民投票の運用実態を研究した。特に、その改正の困難な状況とその原因は、日本の憲法改正国民投票を分析にするとあって貴重な情報を提供する。この研究の成果は、本学の法科大学院紀要に論文として発表した。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

憲法理論研究会、比較憲法学会

宮島里史 (みやじま さとし) 教授



出生年：1951(昭和26)年
在籍：1994(平成6)年4月～
最終学歴：中央大学大学院博士後期課程終了
学位：法学修士(中央大学)
Master of Laws (Northwestern Univ. School of Law)
学位論文：弁護権の意味と機能(中央大学)
Waiver of the Sixth Amendment Right to Counsel at the
Pretrial Stages (Northwestern Univ. School of Law)
専門分野：憲法、刑事訴訟法、少年法
前職：
学内役職等：
留学：Northwestern Univ. School of Law (U.S.A)
資格：
非常勤講師：
受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略

無令状捜索押収における電子機器の捜索の要件の研究(未発表)

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称

日本刑法学会、日米法学会

任期、活動期間等

2008年2月～現在

学会・機関・団体等における役職等

第二東京弁護士会懲戒委員会委員

菅谷 貴子 (すがや たかこ) 准教授



出生年 : 1972(昭和47)年
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 慶應義塾大学法学部法律学科
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 刑事法、労働法、会社商事関係全般 等
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称	
日本民事訴訟法学会、(財)日本法律家協会、司法アクセス学会	
任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2004年4月～現在	(財)金融情報システムセンター検討部会委員
2006年4月～現在	司法修習委員会委員
2006年6月～現在	(社)全国民営職業紹介事業協会 理事
2006年6月～現在	(株)キーウォーカー 監査役
2007年6月～現在	(株)フェイス 監査役
2007年8月～現在	メディアステック(株) 監査役
2010年3月～現在	(財)楠田育英会 常務理事

千葉 理 (ちば おさむ) 准教授



出生年 : 1963(昭和38)年
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 東京大学法学部
 学位 :
 学位論文 :
 専門分野 : 会社法・商法
 前職 : 三菱商事株式会社勤務(1987～1999)
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(第二東京弁護士会)・曙綜合法律事務所
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
4.法律実務教育に関する特記事項		
複数の顧問先への会社法等の研修会(買収防衛策及び会社法の改正動向等)に講師として参加した。またいくつかの株主総会指導を行い株主総会に参加した。		
5.その他教育活動上特記すべき事項		
教務委員会委員として教務委員会にまた定期的で開催されるFD研究会に参加し、よりよい法科大学院としての教員の質の向上のための議論に参加した。		

III 学会等および社会における主な活動

任期、活動期間等	学会・機関・団体等における役職等
2006年4月～現在	第二東京弁護士会民事介入暴力被害者救済センター運営委員会委員

中野 邦保 (なかの くにやす) 准教授



出生年：1976(昭和51)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：名古屋大学大学院法学研究科博士後期課程
 学位：法学修士
 学位論文：行為基礎論における等価関係破壊の評価
 専門分野：民法
 前職：
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
1.教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)		
(1)ソクラテスマソッドによる講義	2005年度～	少人数の講義において、出欠席・評価とを連動しつつ、問答形式で、学生の理解度を確認しながら民法の授業を行っている。
(2)法学検定対策	2005年度～2013年度	法学検定3級に合格できるよう、授業時間およびそれ以外の時間帯を使用して、法学検定の予想問題集を使い、指導している。
(3)レジュメ・レポートの指導	2005年度～2013年度	担当するゼミの報告前に、授業時間外で(毎週10時間程)、報告する学生一人一人に対し、個別にレジュメの作成方法、教科書の読み方、まとめ方等を指導している。
(4)基本六法の論証集・定義集の作成	2006年度・2007年度	法科大学院進学希望の学生を対象に、憲法、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法の基本となる定義をそれぞれまとめ、各法における典型論点につき、論証例作成の指導をした。
(5)資格試験対策(答案指導等)	2006年度～2010年度	公務員試験・法科大学院進学希望の学生を対象に、授業時間内外で、各種資格試験の択一問題、論述問題等につき、指導をしている。
(6)大学対抗模擬裁判	2011年度	私法に関する諸問題につき、三大学(桐蔭、駒澤、東海)対抗の模擬裁判を行うことを通じて、実践的な法的思考方法を身につけ、より深く、かつ、立体的に法律学を理解することができるよう指導している。なお、これは、他大学の学生との知的交流を通じて、学生相互に刺激しあい、これまで習得してきた知見と経験を、より広く、豊かなものにするための授業でもある。
(7)最高裁判所見学	2013年度	法学部1年生に、法律に興味を持ってもらうとともに、フレッシュマン・ゼミのメンバー同士で親睦を図るべく、最高裁判所に行き、大法廷などを見学した。
(8)インゼミ討論会・LSGへの参加	2013年度	法学部3年生を対象とするインゼミ討論会に、1年次からプレゼンテーション能力を向上させるべく参加するとともに、LSGへも参加し、1年次からの少人数教育を生かすような指導を行った。
2.作成した教科書、教材、参考書		
(1)民法Ⅰ(全体像・総則)	2005年4月～2007年7月、2013年	全120頁からなる民法総則の講義用レジュメ。
(2)民法Ⅱ(債権総論)	2005年4月～2008年2月	全110頁からなる債権総論の講義用レジュメ。
(3)民法Ⅲ(債権各論)	2008年10月～2011年3月	全80頁からなる債権各論の教材。
(4)民法Ⅲ(不法行為法)	2011年4月～2012年	全50頁からなる事務管理・不当利得・不法行為の教材。

3.教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
・「論理的思考能力とプレゼン力を養う 大学対抗 模擬裁判ゼミって？」	2011年11月	2011年度の法律演習(学部3・4年)にて行った大学対抗 模擬裁判(駒澤大学・東海大学)の趣旨・狙いと、法学教育の意義についてインタビューを受け、その内容がまとめられたもの(キリコ2011秋号 Vol.11掲載。要旨については、 http://www.cc.toin.ac.jp/ouen/kiriko/kiriko11.html 参照)

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略					
<p>実定法と基礎法を架橋するべく、ミクロ・マクロの両面から研究を行なっている。</p> <p>・私法体系の再編に向けた基礎的研究</p> <p>資本主義の成熟化、グローバル化の進展により、社会・経済活動の流動化・世界化が増した今日では、資本主義の発展に伴う予測可能性と法的安定性の要請から「固定性」・「画一性」を重視した、ある種、設計主義的な単一的な私法体系モデルから、近代の仮象性と現実との間隙を埋め、複雑かつ多様な様相を呈する現代社会に適合しうのような、「柔軟性」・「継続性(プロセス化)」を加味した可変的な私法体系モデルが模索されていると考えられる。そこで、独仏の大陸法系と英米法系の法文化的要因の相異をも視野に入れながら、新たな私法体系モデル(i 大陸法系発展型、ii 大陸法系止揚型、iii 大陸法系・英米法系融合型、iv その他)を模索している。</p> <p>・日本民法典財産法編・担保法の改正に向けた立法論的研究</p> <p>上記の研究は、最終的には、それを具現化させる民法典にいかにか結実させるかが問題となることから、民法改正研究会に所属し、具体的な紛争解決に資し、現代社会により適合的な民法典となるよう、現行民法の問題点と改正条文案の検討を行なっている。2014年度には、担保法の比較法的検討をするために、ロシアの法状況についてヒアリング調査等を行なった。また、2015年度には、総則編の条文案を改正理由をまとめた書籍が公刊される予定である。</p>					
○著書・論文等					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月日(西暦)	発行所、発表雑誌(巻、号数)等の名称	編者・共著者名	該当頁
(著書)					
『法の基層と展開——法学部教育の可能性』	共著	2014年4月15日	信山社	桐蔭法学研究会編	「近代私法体系の成立と展開——新たな私法体系の再編に向けて」3-49頁執筆。
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演					
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名		
「近代私法体系の成立 とその限界——近代私法の三大原則を通じて」	2014年5月24日	法理学研究会			
(補助金・助成金等)					
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等			
日本民法典財産法・担保法編の改正(課題番号:25245011、代表:加藤雅信)	2013年4月～2018年3月	科学研究費補助金(基盤研究(A)) 研究分担者			
(海外出張)					
用件	出張期間	出張先			
ロシア担保法制及びロシア民法改正・ヒアリング調査	2014年7月27日～8月7日	ロシア科学アカデミー 国家・法研究所、大統領付置私法研究センター、ロシア仲裁最高裁判所等(ロシア)			

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称
日本私法学会、日本法哲学会

弓削田 博 (ゆげた ひろし) 准教授



出生年 : 1974(昭和49)年1月9日
 在籍 : 2010(平成22)年4月～
 最終学歴 : 明治大学法学部
 学位 : 法学士
 学位論文 :
 専門分野 : 知的財産法, 企業法務, 広告規制法
 前職 :
 学内役職等 :
 留学 :
 資格 : 弁護士(2000年登録 小林・弓削田法律事務所)
 非常勤講師 :
 受賞・表彰 :

I 教育活動

○教育実践上の主な業績	年月日又は期間	概要
2.作成した教科書、教材、参考書 講義レジュメの作成		教科書を使用する科目でもすべてオリジナルレジュメを作成しているが、特に「債権回収と担保」では、教科書を指定せず、講義に耐えうる自作レジュメを作成し、それのみでの講義を行っている。

III 学会等および社会における主な活動

所属学会・機関・団体等の名称		
日本工業所有権法学会, 法とコンピュータ学会, エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク, 全国倒産処理弁護士ネットワーク		
(主な活動内容)		
活動内容	年月日・期間等	学会・機関・団体等名称
社外監査役	2007年 6月～現在	株式会社ゼンリン

IV 法律実務に関する活動

任期、活動期間等	活動内容等
2010年2月～現在	日本弁理士会 能力担保研修講師

平岩 桃子 (ひらいわ ももこ) 助手



出生年 : 1980(昭和55)年
在籍 : 2011(平成23)年1月～
最終學歷 : 桐蔭横浜大学法科大学院法務研究科博士課程修了
學位 : 法務博士
學位論文 :
専門分野 :
前職 :
学内役職等 : 法科大学院教育助手
留学 :
資格 : 弁護士(城山タワー法律事務所)
非常勤講師 :
受賞・表彰 :

先端医用工学センター (Biomedical Engineering Center)

吉田 薫 (よしだ かおる) 准教授



出生年：1970(昭和45)年
 在籍：2004(平成16)年6月～
 最終学歴：東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻博士課程修了
 学位：博士(理学)
 学位論文：ニシン精子活性化タンパク質による精子活性化機構の生理生化学的研究
 専門分野：生殖生物学、生化学、細胞生物学
 前職：科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業「内分泌かく乱物質」岩本チーム研究員
 学内役職等：
 留学：
 資格：
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略

受精時の精子機能解明に関して研究を行った。具体的には、カタユレイボヤ精子誘引物質の受容体同定候補の同定、機能解析を行い、またマウス精囊分泌タンパク質の機能に関しては因子のノックアウトマウス作成に成功し表現系解析が終了し、2013年度末に論文が掲載され、この成果については新聞やWeb等で記事に取り上げられ、広く成果を認められた。また、この研究の共同研究による、さらなる成果についても、論文が掲載された。精子無力症の基礎研究に関しては臨床検体の免疫染色による検査症例について、予後調査を行い、検査結果との関連性について解析を行った結果について、現在論文を作成中である。学内共同研究のTZFノックアウトマウスの表現系解析については、精子形成不全について引き続き検討し、論文投稿を試みたが、現在のところ受理に至っていない。しかし、このノックアウトマウスについてはオーストラリア大学との共同研究が進行し、2013年度末に論文が掲載された。この成果中、RNAseqの結果より、新たな因子について精子形成不全の原因究明を行うことになり、研究に着手した。

(学術論文)					
“Effects of Fisetin on Mouse Lipid Metabolism in Vitro and in Vivo”	共著	2014年10月17日	Journal Functional Foods in Health and Disease・4(10)	Tmoaki YONESAKA , Kaoru YOSHIDA , Shunsuke IIZUKA, Hiromi HAGIWARA	pp.429-441
“Epididymal C4b-binding protein is processed and degraded during transit through the duct and is not essential for fertility”	共著	2014年11月11日	Immunobiology. pii: S0171-2985(14)00226-5. doi: 10.1016/j.imbio.2014.11.001.	Nonaka MI, Zsigmond E, Kudo A, Kawakami H, Yoshida K , Yoshida M, Kawano N, Miyado K, Nonaka M, Wetsel RA	
“Seminal Vesicle Secretion 2 Acts as a Protectant of Sperm Sterols and Prevents Ectopic Sperm Capacitation in Mice”	共著	2014年11月13日	Biol Reprod.114	Araki N, Trencsenyi G, Krasznai ZT, Nizsaloczki E, Sakamoto A, Kawano N, Miyado K, Yoshida K , Yoshida M	120642
“Carnosic Acid Inhibits the Formation of Osteoclasts through Attenuation of Expression of RANKL”	共著	2015年1月9日	PharmaNutrition・3	Hiromi HAGIWARA , Roshan BASNET , Sundari WIYASIHATI , Kyoko NAKATA, Keitaro HAGIWARA , Hiroshi MIYAZAKI , Kaoru YOSHIDA	

○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称 および開催場所	共同発表者名
“Flavonol Inhibits Formation of Osteoclasts in Culture System rather than Flavanone”	2014年4月3日	WCO-IOF-ESCEO Seville 2014 Seville, Spain	Hiromi HAGIWARA, Kyoko NAKATA, Sundari Indah WIYASIHATI, Kaoru YOSHIDA
“Testicular Zinc Finger Transcription Factor Zfp318 Deficiency Results in Defective Meiosis of Spermatogenesis in Mice”	2014年5月27日～30日	47th Annual Meeting of JSDB Nagoya	Kaoru Yoshida , Masamichi Ishizuka, Eri Ohtsuka, Norihisa Sako, Tadashi Baba, Okabe Masaru, Junko Noguchi, Hiromi Hagiwara
「新たに見つかった子宮内での精子保護機構」	2014年6月13日	日本アンドロロジー学会第33回学術大会	河野 菜摘子, 宮戸 健二, 吉田 薫 , 吉田 学
“Sperm chemotaxis is mediated by calcium extrusion via plasma membrane Ca ²⁺ -ATPase and Na ⁺ /Ca ²⁺ exchanger”	2014年8月12日	The 12th International Symposium on Spermatology 2014 Newcastle, Australia	Kaoru Yoshida , Kogiku Shiba, Akira Nakashima, Ayako Sakamoto, Shigeru Matsunaga, Kazuo Inaba, Manabu Yoshida
“Seminal vesicle protein SVS2 acts as a protectant of sperm cholesterol and regulates sperm capacitation”	2014年8月12日	The 12th International Symposium on Spermatology 2014 Newcastle, Australia	Naoya Araki, Gyorgy Trencsenyi, Zoard T. Krasznai, Eniko Nizsaloczki, Ayako Sakamoto, Natsuko Kawano, Kenji Miyado, Kaoru Yoshida , Manabu Yoshida
“Seminal vesicle protein SVS2 is required for sperm survival in the uterus”	2014年8月12日	The 12th International Symposium on Spermatology 2014 Newcastle, Australia	Natsuko Kawano, Naoya Araki, Kaoru Yoshida , Manabu Yoshida, Kenji Miyado
「二枚貝類マガキCrassostrea gigasにおけるトロポミオシン cDNAのクローニング」	2014年9月11日	日本動物学会 第85回 仙台大会 2014 東北大学 川内北キャンパス	伊藤 篤子, 吉田 薫 , 藤ノ木 政勝
「メス生殖器における精子サバイバル術」	2014年9月12日	日本動物学会 第85回 仙台大会 2014 東北大学 川内北キャンパス	河野 菜摘子, 荒木 直也, 吉田 薫 , 吉田 学, 宮戸 健二
「精子走化性における膜型カルシウムATPアーゼの役割」	2014年9月13日	日本動物学会 第85回 仙台大会 2014 東北大学 川内北キャンパス	吉田 薫 , 坂本 恵香, 稲葉 一男, 吉田 学
「マウス精囊分泌タンパク質SVS2による精子コレステロールと受精能の制御」	2014年9月13日	日本動物学会 第85回 仙台大会 2014 東北大学 川内北キャンパス	荒木 直也, 吉田 薫 , 河野 菜摘子, 宮戸 健二, 吉田 学
「カタユレイボヤ精子誘引物質SAAF合成にかかわる硫酸転位酵素の探索」	2014年9月13日	日本動物学会 第85回 仙台大会 2014 東北大学 川内北キャンパス	小野千紘, 坂本恵香, 吉田 薫 , 吉田 学
「SAAF誘導体の活性比較によるSAAFの作用メカニズムの考察」	2014年9月13日	日本動物学会 第85回 仙台大会 2014 東北大学 川内北キャンパス	山本拓也, 小坂浩司, 鳥飼浩平, 吉田 薫 , 大石徹, 吉田学
「精子誘引物質SAAFによるホヤ精子走化性機構」	2014年10月14日	ホヤ研究会 筑波大学・東京キャンパス	吉田 薫 , 小野千紘, 山本拓也, 吉田 学

“Effects of Fisetin on Mouse Lipid Metabolism in Vitro and in Vivo”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Tomoaki YONESAKA , Kaoru YOSHIDA , Shunsuke IIZUKA, Hiromi HAGIWARA
“The Role of Testicular Zinc Finger Protein Zfp318 in Mouse Spermatogenesis”	2014年11月8日	9th TOIN International Symposium on Biomedical engineering 桐蔭横浜大学	Akihiko KONO , Kaoru YOSHIDA , Hiromi HAGIWARA
“The Role of Testicular Zinc Finger Protein Zfp318 in Mouse Spermatogenesis”	2014年11月25日	第37回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	Kaoru YOSHIDA , Akihiko KONO , Hiromi HAGIWARA
「ローズマリー由来カルボキシ酸の骨代謝への影響」	2014年11月26日	第37回日本分子生物学会年会 パシフィコ横浜	萩原 啓実, バスネット ローサン, ウイヤシハティ スンダリ, 中田 享子, 萩原 啓太郎, 宮崎 均, 吉田 薫
「精子機能評価におけるSEM結合率について」	2014年12月5日	第59回日本生殖医学会学術講演会 京王プラザホテル	吉田 薫 , 山崎 一恭, 吉池 美紀, 岩本 晃明
(補助金・助成金等)			
事業名	事業期間	補助金助成金の種類、機関名、企業名等	
科学研究費補助金	2012年度～2014年度	萌芽研究、ホヤ精子誘引物質の合成・分泌経路からみた誘引物質の種特異的分化機構の解明24651240、研究分担者	
科学研究費補助金	2014年度～2016年度	基盤研究C、精囊分泌タンパク質による糖鎖を介した細胞膜流動性と受精能獲得制御機構解明26462465、研究代表者	

Ⅲ学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称	
日本動物学会、日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本生殖医学会、日本アンドロロジー学会	
任期、活動期間等	学会等における役職等
2012年9月～現在	日本動物学会男女共同参画委員
2014年1月1日～現在	「日本発生生物学会運営委員(会長指名・男女共同参画担当)」

奥井理予 (おくい みちよ) 専任講師



出生年：1972(昭和47)年
 在籍：2005(平成17)年4月～
 最終学歴：広島大学大学院医学系研究科博士課程後期修了
 学位：博士(薬学)
 学位論文：ダウン症関連領域からクローニングされた*MNB*遺伝子の発現解析
 専門分野：分子生物学、細胞生物学
 前職：慶応義塾大学医学部助手
 学内役職等：
 留学：St. Jude Children's Research Hospital (アメリカ) (2008年11月～2010年9月)
 資格：薬剤師免許
 非常勤講師：
 受賞・表彰：

II 研究活動

○2014年度の研究活動概略			
2014年度は、 <i>Ptch1</i> 遺伝子が欠損したマウス髄芽腫細胞を用い、PARP阻害剤の併用療法に関する研究を行った。その結果、PARP阻害剤とHDAC阻害剤の併用により、抗腫瘍効果が増強されることを見出した。			
○学会・研究会・シンポジウムでの発表・講演			
研究発表・講演の題目	年月(西暦)	学会・研究会等名称および開催場所	共同発表者名
(口頭発表) PARP inhibition and miRNA upregulation as a new combination therapy for brain tumors	2014年6月19日	5th International Genome Dynamics in Neuroscience Conference (デンマーク)	Youngsoo Lee, Helen R. Russell, Peter J. McKinnon
(ポスター発表) PARP阻害剤の感受性を亢進するmicroRNAの同定と脳腫瘍治療への応用	2014年8月28-30日	第6回日本RNAi研究会(広島)	李榮穂、小林純也、小松賢志、Peter J McKinnon;
(ポスター発表) DNA損傷に依存したMRE11/RAD50/NBS1複合体の形成	2014年11月25日	第37回日本分子生物学会年会(福岡)	小林純也、斎藤裕一郎、松浦伸也、小松賢志
(海外出張)			
用件	出張期間	出張先	
5th International Genome Dynamics in Neuroscience Conference	2014年6月17日～20日	Elsinor (デンマーク)	

III 学会等および社会における主な活動

所属学会等団体の名称
日本薬学会、日本癌学会、日本分子生物学会、アメリカ癌学会(American Association for Cancer Research)

公開講座・セミナー・シンポジウム・イベント等開催

(公開研究会)

東アジア法律文化研究センター主催「第2回国際シンポジウム」

日時： 2014年9月10日(水)10:00～17:00

場所： 桐蔭横浜大学(桐蔭学園メモリアルアカデミウム地下2階、ポロニアホール)

プログラム概要

・競争法セッション

<特別講演>

諏訪園貞明・公正取引委員会事務総局官房国際課長
「東アジア競争当局の審査協力の現状」

<報告1>

栗田誠・千葉大学大学院専門法務研究科教授
「最近における日本独占禁止法改正の動向」

<報告2>

陳乾勇・中国華僑大学法学院専任講師
「最近における中国独占禁止法改正の動向」

<報告3>

中村虎彰・韓国ウソン大学サービス融合学部准教授
「最近における韓国公正取引法改正の動向」

・質疑応答

・民事訴訟法セッション

<特別講演>

高橋宏志・中央大学法科大学院教授・東京大学名誉教授
「日本民事訴訟法の改正動向」

<報告1>

許少波・華僑大学法学院長
「中国民事訴訟法の改正動向」

<報告2>

尹龍澤・創価大学法科大学院教授
「行政事件訴訟法の改正動向 ―日本と韓国の比較を中心として―」

<報告3>

陳慰星・華僑大学法学院副教授
「中国司法調停制度の改正動向」

<報告4>

小林学・桐蔭法科大学院教授
「ADRの動向」

(国際シンポジウム開催)

桐蔭医用工学国際シンポジウム2014(第9回)

The 9th Toin International Symposium on Biomedical Engineering 2014

日時:2014年11月8日(土)9:00~18:00

場所:桐蔭メモリアルアカデミウム

Program

Plenary session –invited speakers–

Session 1 : In Vitro and in Vivo Vascularization: The Formation of Capillaries and Functional Capillary Be Using Human Placental Lysate

Dr. Peter S. McFetridge
Associate Professor, Department of Biomedical Engineering
University of Florida

Session 2 : New Trends in Molecular Imaging: Multimodal Bioluminescence and Isotope Imaging Techni in Cancer Research

Dr. Zoltan Krasznai
Associate Professor, Department of Biophysics and Cell Biology, Faculty of Medicine
University of Debrecen, Medical and Health Science Center

Session 3 : Bioeffects of Ultrasound: Mechanisms Involved and Their Potential Therapeutic Applications

Dr. Loreto Feril, Jr.
Senior Assistant Professor, Department of Anatomy
Fukuoka University School of Medicine

Session 4 : Cadherin–Matrix Engineering in Cell–Recognizable Biomaterials

Dr. Toshihiro Akaike
Director, Biomaterials Center for Regenerative Medical Engineering
Foundation for Advancement of International Science
Professor Emeritus, Tokyo Institute of Technology

Oral presentation

Presentation 1 : Mr. Toshiaki HAGA
Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 2 : Mr. Toshinobu ABE
Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 3 : Mr. Yuki UEMURA
Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 4 : Mr. Yosuke UCHIDA, Graduate School of Engineering,
Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 5 : Mr. Daisuke KAMEYAMA
Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 6 : Mr. Kazuma SASAKI
Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 7 : Mr. Naoya SHIMAZAKI
Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 8 : Mr. Itsuki UECHI
Graduate School of Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation 9 : Dr. Tomoaki YONESAKA, Professor
Faculty of Biomedical Engineering, TOIN University of Yokohama

Presentation10 : Dr. Kazunori OKANO, Assistant Researcher
Center for Interdisciplinary Science, National Chiao Tung University

Presentation11 : Mr. Shigeru IGARASHI, Assistant Professor
Department of Electronic and Information, Polytechnic University

Presentation12 : Mr. Keitaro HAGIWARA
Graduate School of Bioscience and Biotechnology, Tokyo Institute of Technology

Presentation13 : Mr. Toshimitsu KOSAKA
Graduate School of Chemical Sciences and Technology, Tokyo University of Science

Poster presentation

BIOMEDICAL ENGINEERING — 11 posters

CLINICAL ENGINEERING — 33 posters

(イベント/学内)

青葉区6大学めぐりツアー ～大学に行ってみよう～(区政推進課)

日時: 平成26年5月10日(土)13時25分～16時00分

場所: 桐蔭横浜大学

主催: 青葉区と区内6大学

内容: 國學院大學→メモリアルアカデミウム見学→英語村(アクティビティ)→大学中央棟(屋上
ど)見学→青葉区役所を見学コースとして実施した。

第16回おもしろ理科教室

日時: 2014年8月21日(木)10:00～15:30

場所: 桐蔭横浜大学 法学部棟 他

対象: 小学生以上の児童、生徒およびその保護者 他

実施テーマ

「じゃんぼシャボン玉に挑戦」

「指笛を鳴らそう！」

「脳を知ろう！！脳を作ろう！！」

「生物の「光」を作ってみよう」

「わくわく実験教室 研究者をちょっと体験！植物からDNAを取り出そう！！」

「サボテンのふしぎ発見」

「なりきり裁判官」

「電気のでコインを飛ばそう」

「力を実感してみよう」

「筋肉と脂肪を見てみよう！」

「磁石を作って遊ぼう」

「放射線・放射能・原子力・地震・噴火・太陽・気候」

「風も吹いていないのに葉っぱが揺れる？」

「さわれない黒いかべ！偏光って何だ？」

「わくわく病院ごっこ」

「ミクロの世界を探険しよう」

「ペットボトルで遊ぼう」

「ブーメランを飛ばそう」

「体育館遊園地化計画」

「英語村」

特別授業「細胞のおはなし:からだの中を探検してみよう！！」

特別授業「南極授業〈南極ってどんなところ？〉」

(イベント/学外)

かながわ発「中高生」のためのサイエンスフェア

日時: 平成26年7月12日(土)

場所: 新都市ホール(そごう横浜店9階)

主催: かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア実行委員会

(神奈川県・神奈川県教育委員会・参加大学・公益財団法人神奈川科学技術アカデミーで)

内容: 実演・体験コーナーと理工系大学紹介ブースを設けて、来場者に対応した。

本学の実演・体験コーナーは、小寺 洋准教授(医用工学部)と学生3名にて「医療技術体質を治す」というテーマで、来場者に対してアルコールパッチテスト(救急絆創膏と消毒用アルコールで、お酒に強いかどうか遺伝子の個性を調べるテスト)を実施した。子どもから大人まで540名が体験した。午前中、神奈川県知事の会場視察が行われ、本学のブースにて知事もアルコールパッチテストを体験してくださった。また、本学の大学紹介ブースにも31組の高校生や保護者等が来り、担当者から大学について説明したり、学部の特色やクラブ、入試等について質疑応答があった。

第17回大学で学ぼう～生涯学習フェア

日時: 〈第1弾〉平成26年7月12日(土)・13日(日)10時00分～16時00分

〈第2弾〉平成26年9月6日(土)・7日(日)10時00分～16時00分

場所: 〈第1弾〉かながわ県民センター

〈第2弾〉相模女子大学 マーガレットホール4階 ガーデンホール

(女優 紺野美沙子氏の講演も実施)

主催: 神奈川大学生涯学習推進協議会(県内68大学と神奈川県教育委員会で構成)

内容: 県民の主体的な学習活動のばとしての大学の利用を促進するため、資料配付、説明、体験により、大学に親しんでもらうきっかけづくりを行った。本学は、資料配付および説明を主とした。

あおば6大学まつり2014

日時: 平成26年8月3日(日)

場所: 青葉公会堂、区役所1階ロビー

主催: 青葉区と区内6大学

内容: 青葉区内にキャンパスを有する6大学(桐蔭横浜大学、横浜美術大学、カリタス女子短期大学、日本体育大学、玉川大学)と青葉区は協定を結び、地域との繋がりを深める活動を行った。平成26年11月3日、青葉区制20周年を機に、区民によりよく大学のことを知っていただく青葉公会堂にて「あおば6大学まつり2014」を開催した。

「ヨコハマ大学まつり2014」

日時: 2014年10月4日(土)、5日(日)10:00～18:00

場所: みなとみらい21地区 クイーンズスクエア横浜周辺

主催: ヨコハマ大学まつり実行委員会(横浜市と市内30大学で構成)

共催: 大学・都市パートナーシップ協議会、横浜市

内容: 「大学・都市パートナーシップ協議会」参加30大学が一堂に集まり、教育研究内容と学生の活かして、みなとみらい21地区から市域全体に新たな魅力の発信を図ることを目的とする13,000余の来場者があった。本学は、①体験教室「電気の力でコインを飛ばそう」(スポーツ学部 箱木北斗特任教授)の実施、②学生ステージ部門において、ダンスサークルEXDとVII「サークル対抗ダンスパフォーマンスバトル」を披露、音楽部が「みんなでセッション! 主役は☆」と題して演奏披露にて参加した。

青葉区6大学連携講座2014

日時： 平成26年10月18日(土)14時

場所： 山内図書館

主催： 桐蔭横浜大学、青葉区

内容： 自分史を残す意義、それは「判断の軌跡だ」ということです。学校の選択、職業、家庭をもつて判断の連続です。そのとき、深く考えたのか、無意識に選んだのか……その結果はどうか。それが子孫や後輩に参考になり、「読ませる」牽引力になるのです。この講座では、プロの方、書き出しの工夫など、具体的に自分史の書き方を解説した。

2014年度 第Ⅲ期
桐蔭生涯学習センター講座一覧表

講座番号	講座名	講師	講義日	時間	回数	受講料
01	現代と宗教	八木 誠一 (元桐蔭横浜大学教授)	1月15日～ 3月5日	10:30～ 12:00	6	9,000
02	パウロと現代		1月15日～ 3月5日	13:00～ 14:30	6	9,000
03	短歌 実作の楽しみ	佐佐木 朋子 (歌誌「心の花」編集委員)	1月13日～ 3月10日	13:15～ 14:45	7	10,500
04	続日本紀を読む(18)	寺田 恵子 (学習院大学非常勤講師)	3月2日・6日・ 9日・13日	10:30～ 14:30	8	12,000
05	基礎スペイン語講座③ -文化と共に学ぶ-	高橋 悦子 (日本ペルー共生協会副会長)	1月14日～ 3月4日	10:30～ 12:00	5	7,500
06	スペイン語会話 -ネイティブの先生と共に学ぶ-	山城 リタ (スペイン語講師)	1月14日～ 3月4日	13:00～ 14:30	5	7,500
07	初級フランス語	照木 健 (元桐蔭横浜大学教授)	1月10日・2月21日・ 28日・3月7日	10:30～ 14:30	8	12,000
08	初級中国語	韓 寧 (桐蔭横浜大学准教授)	1月19日～ 3月2日	13:00～ 14:30	6	9,000
09	初級韓国語	兪 三善 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月30日～ 3月13日	10:40～ 12:10	6	9,000
10	簡単だけれど、お洒落な英語の読み書き -Creative Reading and Writing-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月13日～ 3月3日	13:30～ 15:00	7	10,500
11	学びなおす英語 -中級程度-	岡田 俊恵 (桐蔭横浜大学教授)	1月30日～ 3月13日	13:00～ 14:30	6	9,000
12	学びなおす英語 -上級程度-		1月30日～ 3月13日	14:50～ 16:20	6	9,000
13	English is fun ! -初級英会話A-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月15日～ 3月5日	13:30～ 15:00	6	9,000
14	Let's Talk:Life in Japan and Abroad -初級英会話B-	マツ・バックingham (ウエストゲイト講師)	1月8日・13日・ 15日	(火)13:00～14:30 (木)14:40～16:10	3	4,500
15	You Can Do it in English ! -中級英会話A-	ジェームズ・グラジアニ (桐蔭学園講師)	1月19日～ 3月16日	10:50～ 12:20	8	12,000
16	Broaden Your Horizons ! (自分の視野を広げる) -中級英会話B-	アンドリュー・バーク (桐蔭学園講師)	1月15日～ 3月5日	10:50～ 12:20	4	6,000
17	Advanced English Conversation -上級英会話-	エリザベス・小野寺 (桐蔭横浜大学非常勤講師)	1月15日～ 3月5日	10:40～ 12:10	6	9,000
18	朗読を楽しむ I	鈴木 正導 (元NHKアナウンサー)	1月15日～ 3月12日	10:30～ 12:00	7	10,500
19	朗読を楽しむ II		1月15日～ 3月12日	13:00～ 14:30	7	10,500
20	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午前クラス)	玄 一生 (写真家)	1月13日～ 3月10日	10:30～ 12:00	8	16,000
21	楽しい写真講座 -一眼レフを使いこなそう!-(午後クラス)		1月13日～ 3月10日	13:00～ 14:30	8	16,000
22	たのしいフルートアンサンブル (午前クラス)	遠藤 まり (昭和音楽大学附属音楽教室講師)	1月30日～ 3月13日	10:00～ 12:00	6	16,000
23	たのしいフルートアンサンブル (午後クラス)		1月30日～ 3月13日	13:00～ 15:00	6	16,000
24	表現を豊かにするワークショップ	真山 葉瑠 (元宝塚歌劇団)	1月30日～ 3月13日	15:15～ 16:45	6	9,000
25	ちょこっとSALSA!		1月30日～ 3月13日	18:00～ 19:30	6	9,000
26	健康体操 -リズム&ストレッチ-		1月30日～ 3月13日	13:15～ 14:30	6	7,500

桐蔭横浜大学学術交流レポート2014

2016年2月発行

発行人：小島武司

発行所：桐蔭横浜大学

編集：桐蔭横浜大学 大学事務局

〒225-8503

横浜市青葉区鉄町1614

TEL. 045(972)5881(代)

<http://toin.ac.jp/univ/>
